

第 7 期「京都市民長寿すこやかプラン」策定のための

すこやかアンケート及び
介護サービス事業者アンケート
調査結果報告書（中間報告）

平成 29 年 3 月

京 都 市

目 次

第1章	調査の概要	1
1	調査の目的	3
2	調査対象	3
3	調査期間	3
4	調査方法	4
5	回収結果	4
6	調査結果の表示方法	4
7	リスク評価	5
第2章	高齢者調査の結果	7
1	回答者の基本属性	9
2	お住まいについて（問2）	21
3	リスク評価について	24
4	外出等について（問3）	34
5	口腔・栄養について（問5）	38
6	物忘れについて（問6）	41
7	日常生活について（問7）	42
8	社会参加について（問8）	44
9	健康について（問9）	61
10	介護保険制度等について（問10）	67
第3章	若年調査の結果	75
1	回答者の基本属性	77
2	住まいについて	83
3	健康について	86
4	リスク評価について	96
5	日常生活について	98
6	介護・介助に対する意識等について	102
7	社会参加について	112
8	高齢者との関わりについて	122
9	高齢期について	127
10	介護保険制度について	134
第4章	介護サービス事業者調査の結果	
第5章	調査結果のまとめ	
資料	アンケート調査票	
別冊	日常生活圏域別資料集	

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

京都市では、「高齢者保健福祉計画」及び「介護保険事業計画」の二つの計画について、両計画を調和のとれた計画とするため「京都市民長寿すこやかプラン」として一体的に策定しています。

本調査は、次期プランとなる「第7期京都市民長寿すこやかプラン（計画期間：平成30年度～32年度）」の策定に向けた基礎資料とするため、介護サービスの利用状況及び今後の利用意向等を把握するとともに、介護保険制度及び高齢者保健福祉施策に係る市民の意向を調査するため3年ごとに実施しているものです。

このうち、高齢者を対象とする調査では、日常生活圏域^{※1}ごとの課題や必要となるサービス等を把握するため、国が示す「日常生活圏域ニーズ調査」の項目を取り入れ、調査・集計を行っています。

※1 本市では複数の元学区を束ねた地域として、概ね中学校区数となる76圏域を設定

2 調査対象

< A > 高齢者調査	○市内在住の65歳以上の方、14,400人 ○平成28年11月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出
< B > 在宅介護実態調査（本人向け、介護者向け）	○市内在住の介護保険制度の要介護（要支援）認定を受けている65歳以上の方、2,000人 ○平成28年11月1日現在の住民基本台帳データのうち、平成28年8月に要介護（要支援）認定を受けている方から無作為抽出
< C > 若年者調査	○市内在住の40歳以上65歳未満の方、1,200人 ○平成28年11月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出
< D > 介護サービス事業者に関するアンケート調査 ^{※2}	○京都市内でサービスを提供する介護サービス事業者 2,080事業者（全数）

※2 介護サービス事業者調査は京都市内における介護保険サービスを提供している事業者のうち、平成28年9月の給付実績のある事業者を対象としています。また、居宅療養管理指導については対象外としています。

3 調査期間

- (1) < A >高齢者調査、< B >在宅介護実態調査、< C >若年者調査
平成28年12月16日（金）から平成29年1月16日（月）
- (2) < D >介護サービス事業者に関するアンケート調査
平成28年12月21日（水）～平成29年1月16日

4 調査方法

< A > 高齢者調査		郵送配布・郵送回収
< B > 在宅介護実態調査	本人	郵送配布・郵送回収
	介護者	郵送配布・郵送回収
< C > 若年者調査		郵送配布・郵送回収
< D > 介護サービス事業者調査		WEB調査（市ホームページ上の調査専用回答画面への入力による回答）、及び希望した事業者については、郵送配布・郵送回収

5 回収結果

< A > 高齢者調査		14,400 通	8,183 通	56.8%
< B > 在宅介護調査	本人	2,000 通	984 通	49.2%
	介護者	2,000 通	787 通	39.4%
< C > 若年者調査		1,200 通	488 通	40.7%
< D > 介護サービス事業者調査		2,080 通	1,302 通	62.6%

6 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・ 調査結果を図表にて表示しています。グラフ以外の表のうち、コメントに関連した数値を網かけをしています（無回答を除く）。また、クロス集計表において、年齢が上がるとともに割合が増加する項目については選択肢を網かけをしています。一方、年齢が上がるとともに割合が減少する項目については選択肢を白抜き文字（例：**回答**）で網かけをしています。

7 リスク評価

今回の調査では、地域の高齢者の課題や必要なサービス等をより的確に把握するため、前回の調査と同様、国が示す「日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を取り入れています。

「日常生活圏域ニーズ調査」では、介護予防事業の「基本チェックリスト」や「手段的自立度（IADL）」などの指標の判定に関する調査項目が設定されています。

本報告書の「リスク評価」では、これらの調査項目を使用し、各指標の判定を行っています。

（１）生活機能評価

生活機能が低下している人の状況を把握します。

その方法として「基本チェックリスト」※³に関する調査項目により、生活機能の状況について把握します。

「基本チェックリスト」では、①運動器、②閉じこもり予防、③栄養改善、④口腔機能、⑤認知症予防、⑥うつ予防などの機能の低下リスクがあるかを判定します。

また、「基本チェックリスト」による評価項目に加えて、「⑦転倒」について評価を行っています。

※3 基本チェックリスト

基本チェックリストは、65歳以上の要支援・要介護認定を受けていない方を対象にした、介護予防の必要性をチェックするための質問票のことです。介護の原因となりやすい生活機能低下の危険性がないかどうかという視点で、運動、栄養、口腔、物忘れ、うつ症状、閉じこもり等の全25項目について、「はい」、「いいえ」等で記入します。

（２）日常生活評価

活動的な日常生活をおくるための能力（手段的自立度：IADL※⁴）が低下している人の状況を把握します。

IADLの判定については、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる「老研式活動能力指標」※⁵による判定を用いています。

※4 買物、洗濯、電話、薬の管理など、「日常生活動作（Activity of Daily Living：ADL、食事、排泄、更衣、整容、入浴など日常生活を送るために必要な基本動作のことをいう。）」より複雑で高度な動作を行える自立度の程度を示す指標を「手段的自立度（Instrument Activity of Daily Living：IADL）」といいます。

※5 老研式活動能力指標は、社会的な生活機能を測る指標であり、「バスや電車で一人で外出しているか」、「友人の家を訪ねているか」など13の質問項目により構成されています。その内容は、(1)活動的な日常生活をおくるための動作能力（IADL）、(2)余暇や造作などの積極的な知的活動能力、(3)地域で社会的な役割を果たす能力の3つとなっています。

(3) 社会参加評価

余暇や創作など生活を楽しむ能力（知的能動性）や、地域で社会的な役割を果たす能力（社会的役割）が低下している人の状況を把握します。

手段的自立度（IADL）の評価判定で用いた「老研式活動能力指標」では、IADLのほか、知的能動性、社会的役割といった評価をすることができます。

「老研式活動能力指標」の知的能動性、社会的役割に関する調査項目により、社会参加の評価を行うことができます。

<参考 リスク評価の概要>

生活機能	運動器	問3Q1～4、問4Q1～2の5項目のうち3項目以上に該当すればリスクあり
	閉じこもり予防	問3Q5～6の2項目すべてに該当すればリスクあり
	栄養改善	問5Q1～2の2項目すべてに該当すればリスクあり (問5Q2は、身長・体重からBMIが18.5未満であれば該当)
	口腔機能	問5Q3～5の3項目のうち2項目以上に該当すればリスクあり
	認知症予防	問6Q1～3の3項目のいずれかに該当すればリスクあり
	うつ予防	問9Q7(1)～(2)の2項目のうち2項目に該当すればリスクあり
	転倒	問4Q1～2に該当すればリスクあり
日常生活	手段的自立度（IADL）	活動的な日常生活をおくるための動作の能力を示す手段的自立度（IADL）についての評価（老研式活動能力指標に準じた問7Q1～5より評価）
社会参加	知的能動性	余暇や創作など生活を楽しむ能力についての評価（老研式活動能力指標に準じた問8Q1～4より評価）
	社会的役割	地域で社会的な役割をはたす能力についての評価（老研式活動能力指標に準じた問8Q5～8より評価）

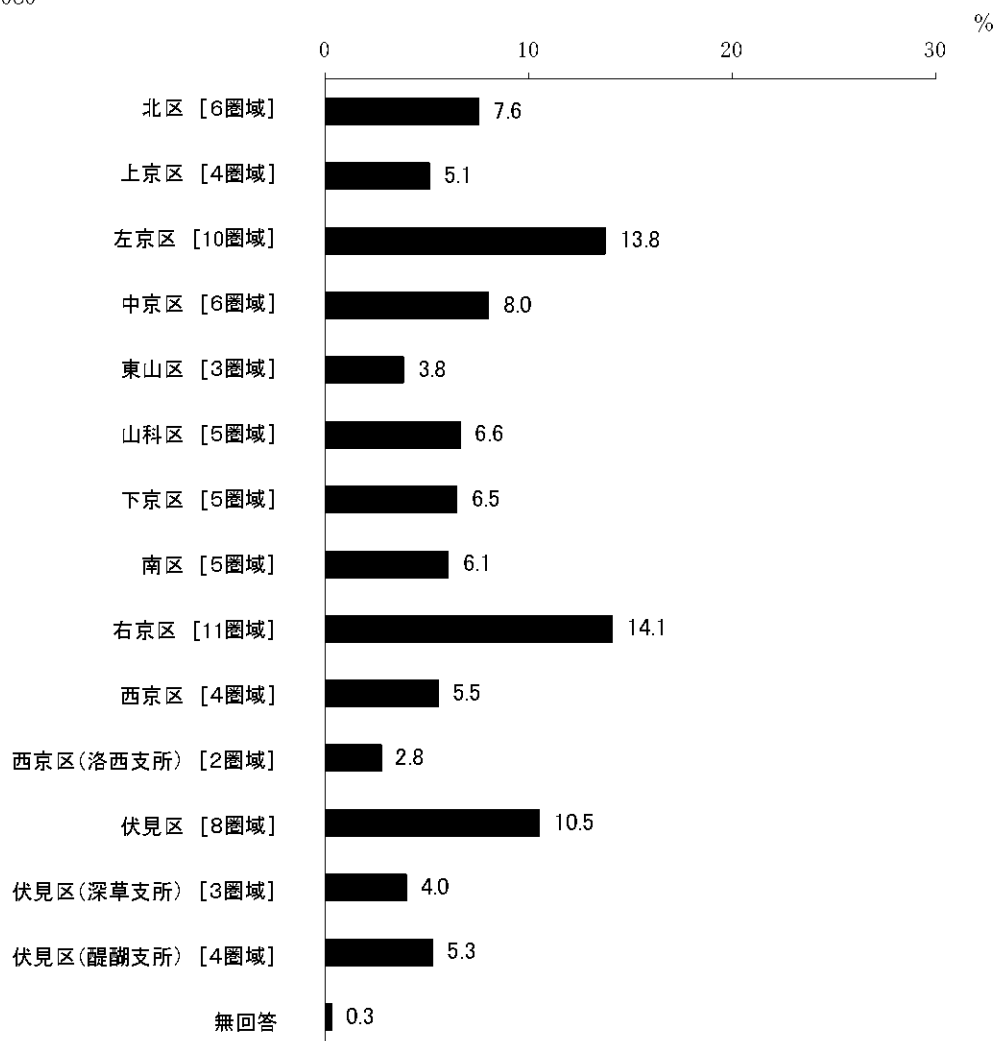
第2章 高齢者調査の結果

1 回答者の基本属性

(1) 回答者の属する行政区・支所

回答者は、日常生活圏域数の多い「右京区」「左京区」が高くなっています。

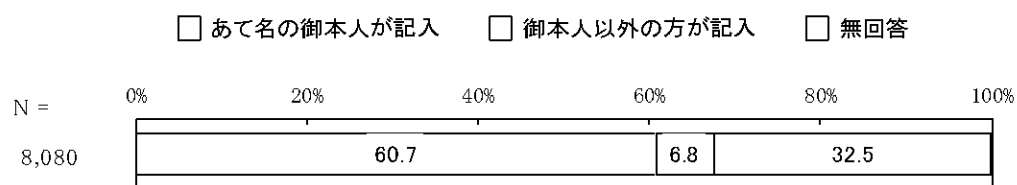
N = 8080



(2) 調査票記入者

Q 調査票を記入された方をお教えてください。＜あてはまる方に○を付けてください。＞

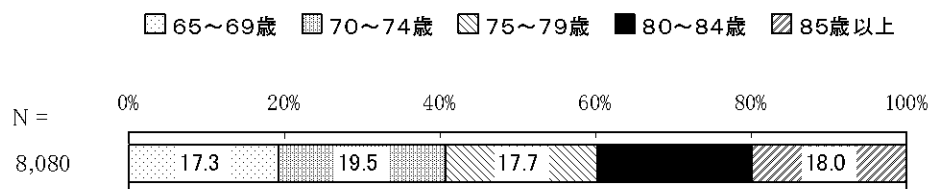
調査票の記入者は、「あて名の御本人が記入」が 60.7%、「御本人以外の方が記入」が 6.8%となっています。



(3) 年齢

問1 Q1. あなた（あて名の御本人。以下の問も同じです。）の年齢をお教えてください。
＜○は1つ＞

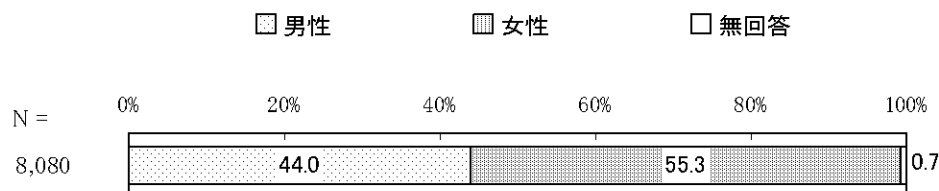
回答者の年齢は、「70～74歳」が19.5%と最も高く、次いで「85歳以上」が18.0%、「80～84歳」が17.9%となっています。



(4) 性別

問1 Q2. あなたの性別をお教えてください。＜○は1つ＞

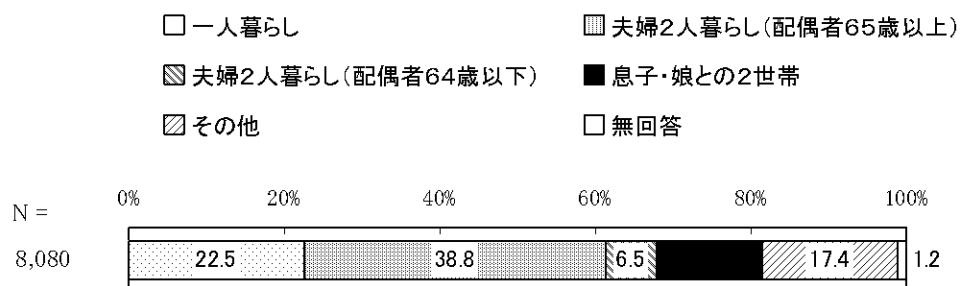
回答者の性別は、「男性」が44.0%、「女性」が55.3%となっています。



(5) 家族構成

問1 Q3. あなたの家族構成をお教えてください。＜○は1つ＞

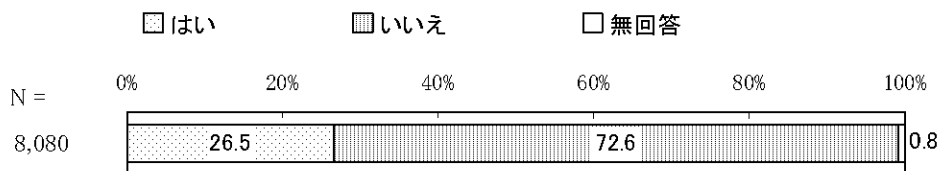
回答者の家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が38.8%と最も高く、次いで「一人暮らし」が22.5%、「息子・娘との2世帯」が13.6%となっています。



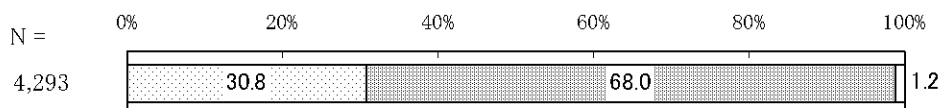
（６）収入のある仕事の有無

問１Ｑ４．あなたは現在収入になる仕事をしていますか。＜○は１つ＞

収入のある仕事の有無については、「はい」が26.5%、「いいえ」が72.6%となっています。
前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成25年）】

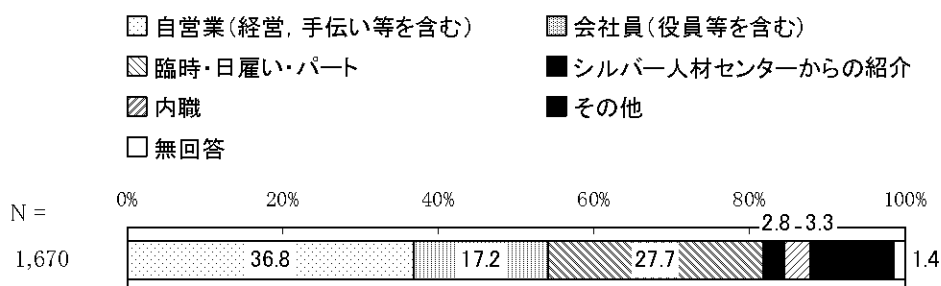


（７）主な就労形態

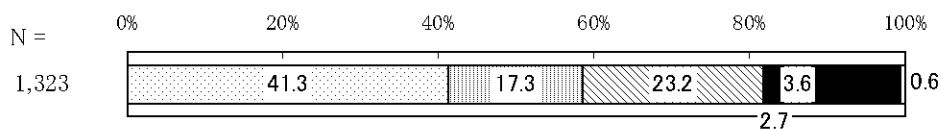
問１Ｑ４－１．Ｑ４で「１．はい」と回答した方にお聞きします。主な就労形態は、次のどれですか。＜○は１つ＞

主な就労形態は、「自営業（経営、手伝い等を含む）」が36.8%と最も高く、次いで「臨時・日雇い・パート」が27.7%、「会社員（役員等を含む）」が17.2%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成25年）】



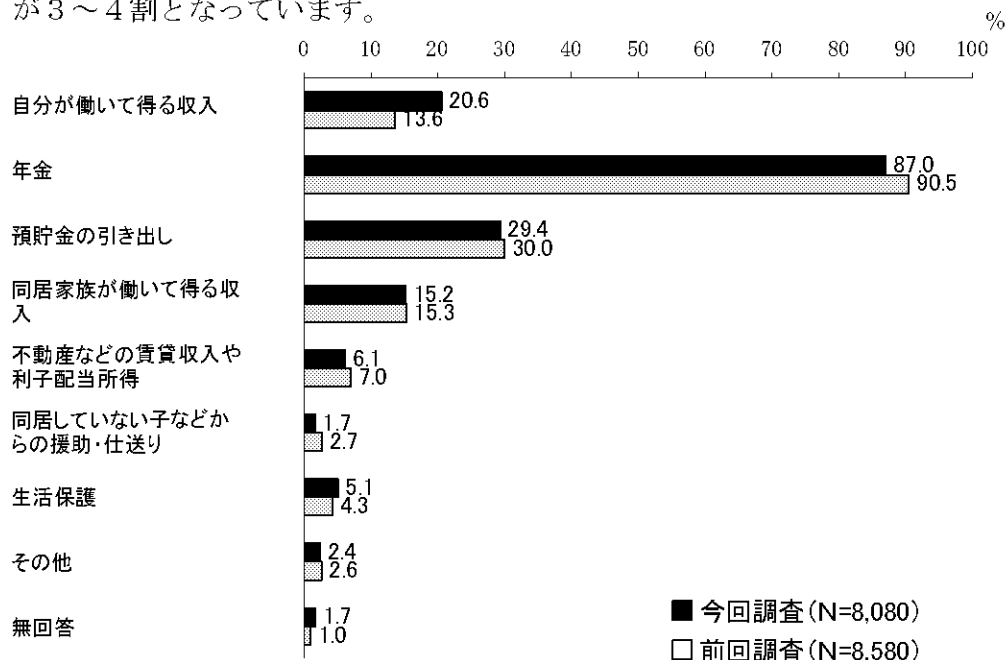
(8) 生活費の収入源

問1 Q5. あなたは生活費をどのようにして得ていますか。＜〇は3つまで＞

生活費の収入源については、「年金」が87.0%と最も高く、次いで「預貯金の引き出し」が29.4%、「自分が働いて得る収入」が20.6%となっています。

前回調査と比較すると、「自分が働いて得る収入」が7.0ポイント増加しています。

個人の年間総収入別でみると、個人の年間総収入が上がるにつれ、「自分が働いて得る収入」の割合が高くなっており、50万円～400万円未満で「年金」が9割程度となっています。400万円未満で「預貯金の引き出し」が約3割、500万円以上で「不動産などの賃貸収入や利子配当所得」が3～4割となっています。



【個人の年間総収入別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)		年金	預貯金の引き出し	同居家族が働いて 得る収入	当所得	不動産などの賃 貸収入や利子配 当所得	仕送り	同居していない子 などからの援助・ 仕送り	生活保護	その他	無回答
50万円未満	563	6.4	79.0		20.1	1.8	4.3	8.3	4.8	1.4		
50万円～100万円未満	1,834	6.8			20.1	1.6	2.6	3.8	3.3	1.6		
100万円～200万円未満	2,466	13.6			11.6	3.5	2.4	4.9	1.9	1.1		
200万円～300万円未満	1,657	15.0			8.3	6.6	1.0	0.2	2.1	1.1		
300万円～400万円未満	559	30.6			10.0	16.6	0.7	0.2	0.9	2.5		
400万円～500万円未満	187	50.8		19.3	8.6	26.7	1.1	－	1.1	3.2		
500万円～600万円未満	104	54.8	76.9	16.3	4.8		－	－	2.9	－		
600万円～700万円未満	71	53.5	73.2	22.5	5.6		－	－	－	7.0		
700万円以上	160	63.1	58.8	11.3	8.1		－	－	1.9	5.0		
無回答	582	6.5	58.4	20.4	11.3	5.0	2.9	18.7	3.1	10.7		

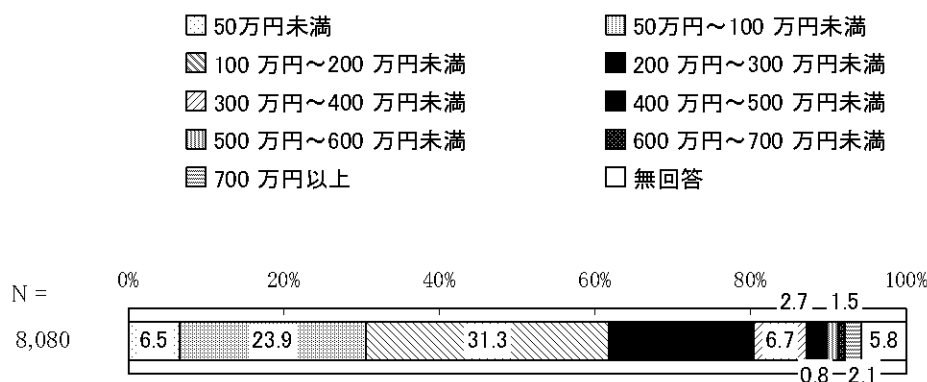
(9) 個人の年間総収入

問1 Q6. あなたの個人の年間総収入（年金収入を含む。税込。）はどのくらいですか。
 <○は1つ>

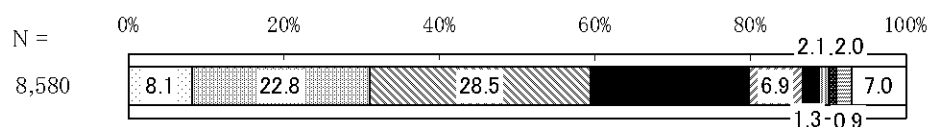
個人の年間総収入については、「100 万円～200 万円未満」が 31.3%と最も高く、次いで「50 万円～100 万円未満」が 23.9%、「200 万円～300 万円未満」が 18.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

生活費の収入源別でみると、「自分が働いて得る収入」では 100 万円～300 万円未満が、「年金」は 50 万円～300 万円未満がそれぞれ 20%以上と他に比べて高くなっています。「預貯金の引き出し」、「同居家族が働いて得る収入」、「同居していない子などからの援助・仕送り」ではそれぞれ 50 万円～200 万円未満が 20%以上と高くなっています。「不動産などの賃貸収入や利子配当所得」では 200 万円～300 万円未満が 20%以上、「生活保護」は 100 万円～200 万円未満が 30%以上と高くなっています。



【前回調査（平成 25 年）】



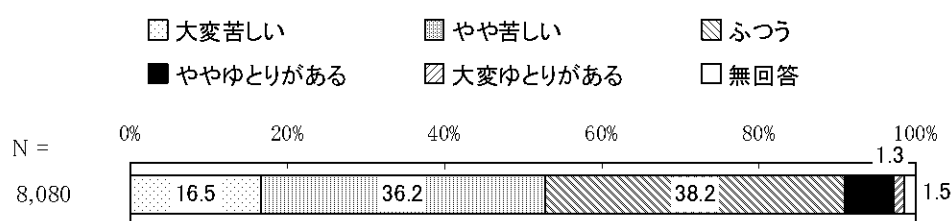
(10) 経済的にみた現在の暮らしの状況

問1 Q7. あなたは現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。
 <○は1つ>

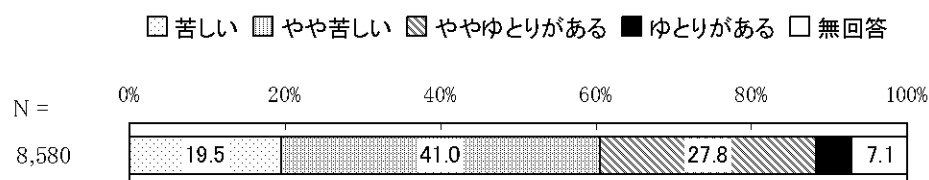
経済的にみた現在の暮らしの状況については、「ふつう」が38.2%と最も高く、次いで「やや苦しい」が36.2%、「大変苦しい」が16.5%となっています。

前回調査とは、選択肢が異なるため単純比較はできませんが、「大変苦しい」と「大変ゆとりがある」は減少しています。

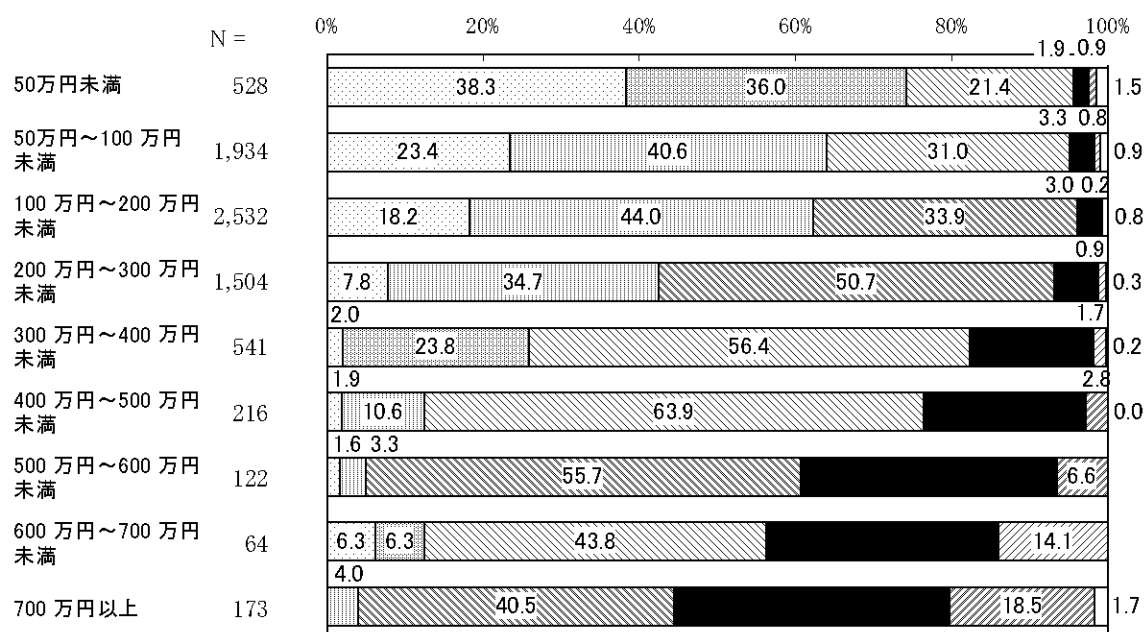
個人の年間総収入別でみると、年間総収入が減少するほど、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合が高くなっています。年間総収入が200万円未満では「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合が過半数を超えています。200万円以上では「ふつう」、「ややゆとりがある」、「大変ゆとりがある」を合わせた割合が過半数を超えています。



【前回調査（平成25年）（参考）】



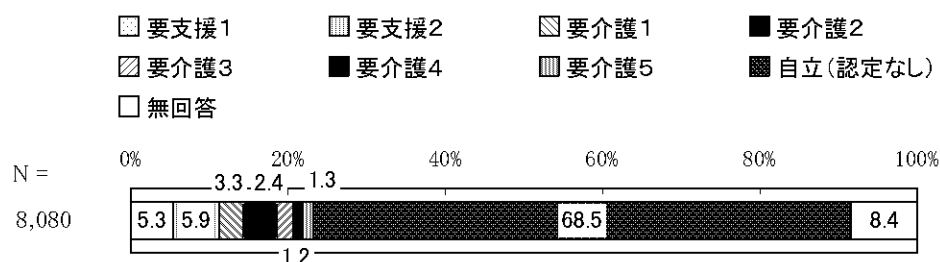
【個人の年間総収入別】



(11) 要介護認定の状況

問 1 Q 8. あなたの要介護認定区分は次のどれにあてはまりますか。＜○は1つ＞

回答者の要介護度については、「自立（認定なし）」が 68.5%と最も高くなっています。



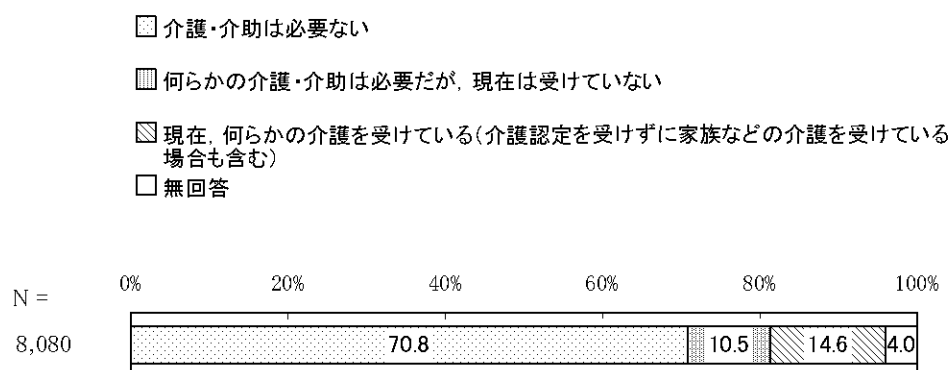
(12) 介護・介助の必要の有無

問 1 Q 9. あなたは普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。＜○は1つ＞

「普段の生活でどなたかの介護・介助が必要か」については、「介護・介助は必要ない」が 70.8%と最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が 14.6%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 10.5%となっています。

年齢別でみると、年齢が上がるとともに「介護・介助は必要ない」の割合が低くなり、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」の割合が高くなっています。

要介護度別でみると、要介護度が上がるとともに「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」の割合が高くなっており、要介護2以上で約8割となっています。



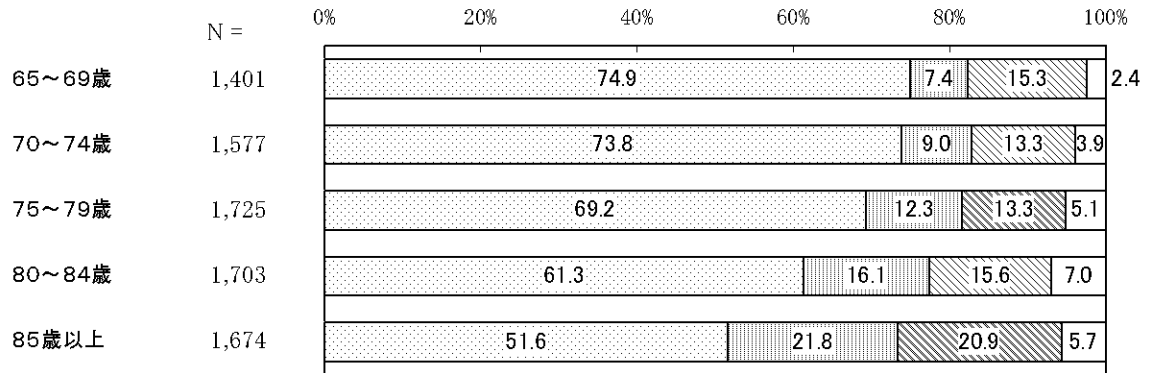
【年齢別】

□ 介護・介助は必要ない

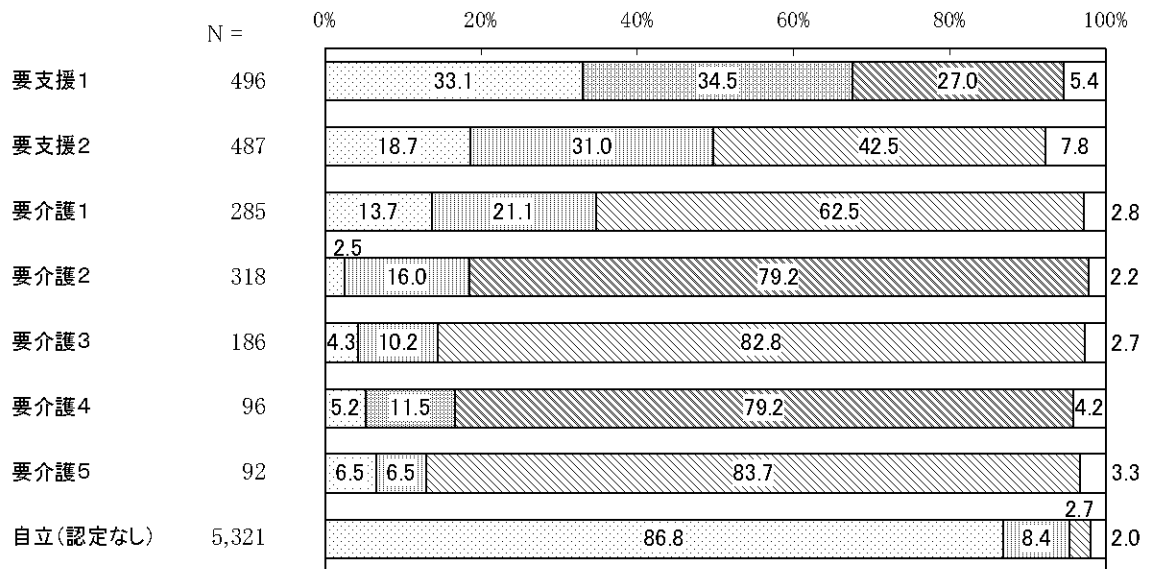
▨ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない

▤ 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

□ 無回答



【要介護度別】



(13) 介護・介助が必要になった原因

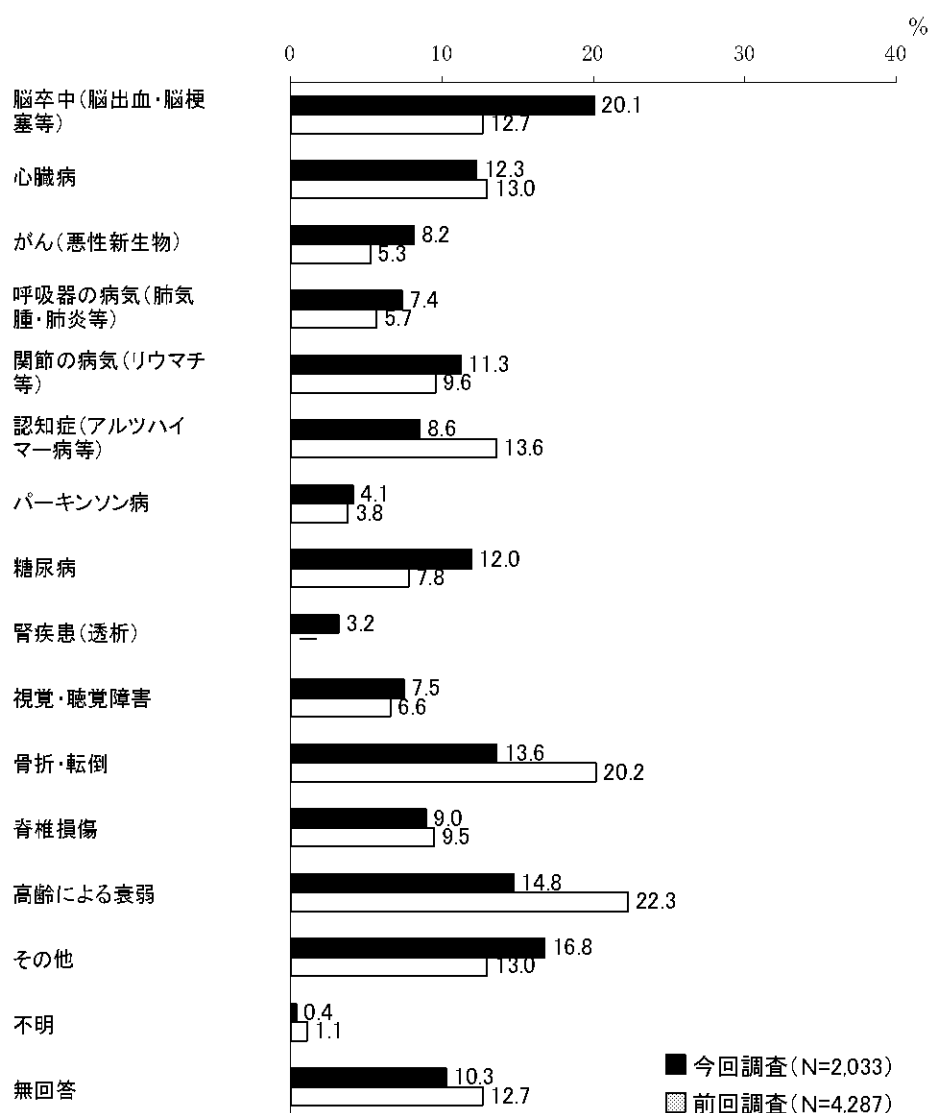
問1 Q9-1. Q9で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない。又は、3. 現在何らかの介護を受けている。」と回答した方にお聞きします。介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。〈あてはまるものすべてに○〉

介護・介助が必要になった原因については、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が20.1%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」が14.8%、「骨折・転倒」が13.6%となっています。

前回調査とは調査対象者の定義が異なっているため単純比較はできませんが、比較すると「高齢による衰弱」が7.5ポイント減少しています。

年齢別でみると、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」は年齢が上がるにつれて割合が低くなっています。一方、「認知症（アルツハイマー病等）」「視覚・聴覚障害」「骨折・転倒」「高齢による衰弱」は年齢が上がるにつれて割合が高くなっています。

要介護度別でみると、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」は要介護3～5で高く、「認知症（アルツハイマー病等）」は要介護2以上で高くなっています。「骨折・転倒」「高齢による衰弱」はいずれの要介護度でも高い割合を占めています。



※ 前回の調査対象者はサービス利用者、未利用者となっています。

【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	心臓病	がん(悪性新生物)	呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	関節の病気(リウマチ等)		パーキンソン病	糖尿病	腎疾患(透析)			脊椎損傷		その他	不明	無回答
65～69 歳	637	27.0	7.9	9.7	7.9	11.9	8.5	3.8	11.0	4.1	4.7	10.4	9.4	4.7	20.8	0.6	8.5
70～74 歳	525	25.6	15.1	8.5	7.1	10.2	7.4	6.3	13.9	4.0	7.7	12.5	8.8	11.1	17.0	0.0	8.2
75～79 歳	423	13.8	12.6	7.7	7.9	12.6	8.1	3.8	11.3	1.6	8.1	14.9	9.7	16.7	17.8	0.0	12.6
80～84 歳	280	11.3	15.4	6.5	7.2	12.2	10.0	2.8	13.9	3.3	10.0	17.8	9.3	25.0	10.6	0.9	12.2
85 歳以上	168	6.9	14.3	5.2	5.3	6.7	11.3	2.0	8.1	1.1	12.3	19.3	5.0	42.4	8.8	1.1	14.0

【要介護度別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	心臓病	がん(悪性新生物)	呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	関節の病気(リウマチ等)	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患(透析)	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
要支援1	430	12.9	11.8	6.1	6.0	9.0	8.3	3.0	9.8	2.2	8.2		6.9		12.0	0.6	10.4
要支援2	480	8.2	14.8	7.2	6.9	11.8	2.3	3.0	12.5	2.3	7.2		11.8		20.1	1.0	8.2
要介護1	265	12.6	13.6	6.9	5.0	13.6	3.2	3.4	10.3	2.9	7.1		12.6		15.2	0.0	11.3
要介護2	301	12.4	15.7	9.3	8.8	10.0		3.6	12.1	3.3	8.4		6.0		12.4	0.4	4.8
要介護3	191		13.0	8.9	7.2	11.0		4.5	16.1	3.4	11.3		10.6		14.0	0.3	6.8
要介護4	97		12.9	4.7	4.1	9.3		7.0	12.9	1.7	6.5		7.0		10.5	0.0	7.0
要介護5	105		5.3	6.5	7.9	7.9		9.2	9.2	3.9	5.3		1.3		9.2	0.0	11.8

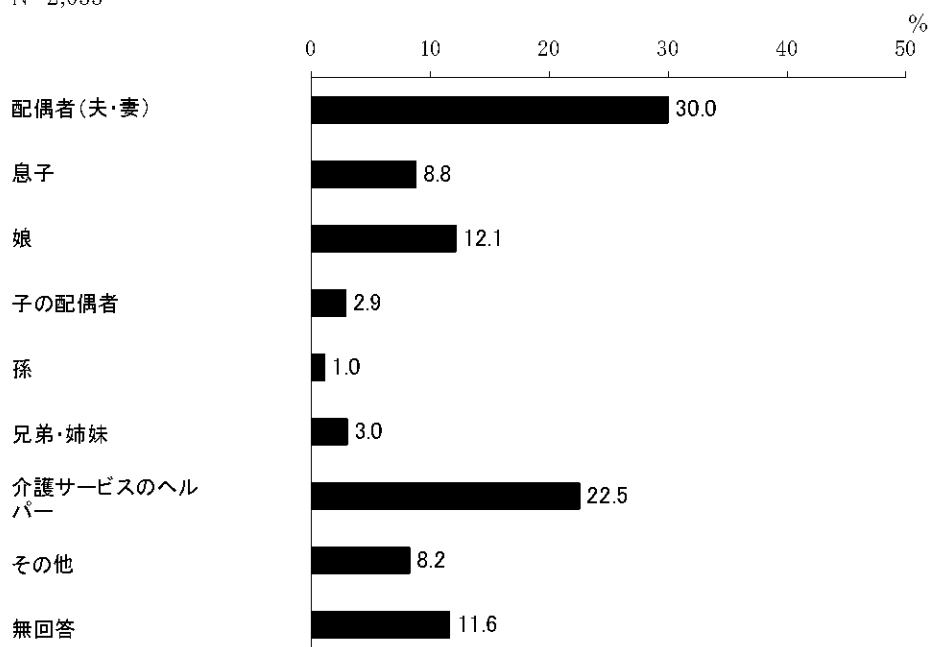
(14) 主な介護・介助者

問1 Q9-2. Q9で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない。又は、3. 現在何らかの介護を受けている。」と回答した方にお聞きします。主にどなたの介護、介助を受けていますか。＜あてはまるものすべてに○＞

主な介護・介助者については、「配偶者（夫・妻）」が30.0%と最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」が22.5%、「娘」が12.1%と、「息子」が8.8%となっています。

年齢別でみると、「配偶者（夫・妻）」「介護サービスのヘルパー」は年齢が上がるるとともに低くなる一方、「息子」「娘」の割合は年齢が上がるるとともに高くなっています。

N=2,033



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)				子の配偶者	孫	兄弟・姉妹		その他	無回答
65～69 歳	637	47.2	7.9	10.4	3.1	0.3	6.9	34.6	12.9	11.9
70～74 歳	525	44.0	9.4	13.4	1.7	1.1	4.0	32.7	11.4	15.6
75～79 歳	423	38.1	11.5	18.5	2.5	1.8	1.8	30.0	10.4	18.1
80～84 歳	280	31.5	17.4	22.0	6.9	2.0	2.4	22.8	7.0	18.5
85 歳以上	168	19.6	24.5	31.0	11.5	3.6	0.8	17.8	10.8	16.8

2 お住まいについて（問2）

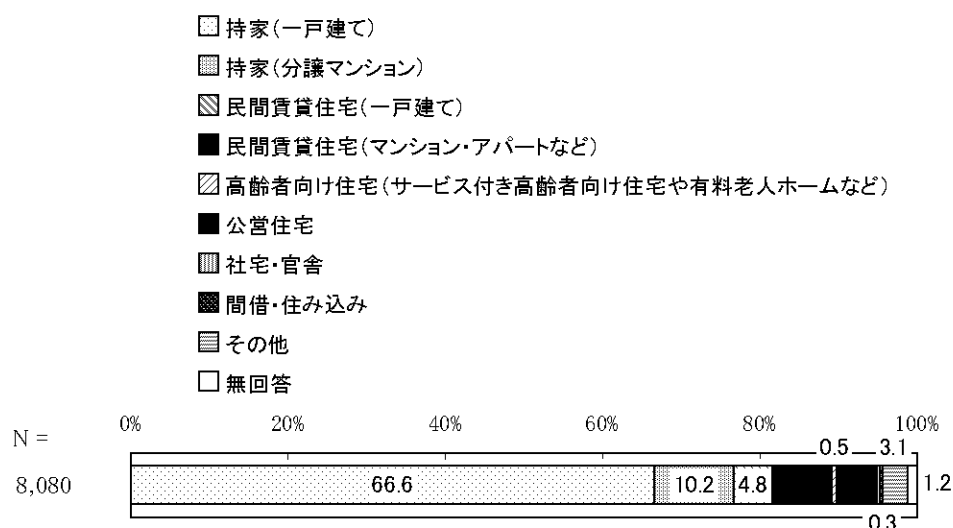
（1）住居形態

問2 Q 1. あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。＜○は1つ＞

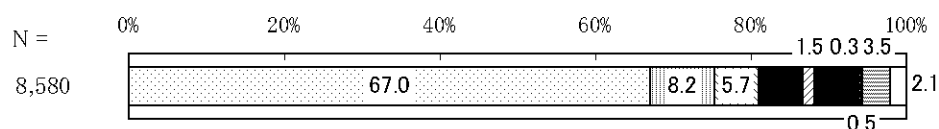
住居形態については、「持家（一戸建て）」が66.6%と最も高く、次いで「持家（分譲マンション）」が10.2%、「民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）」が7.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

家族構成別でみると、「一人暮らし」、「家族などと同居」では、いずれも「持家（一戸建て）」が最も高くなっており、「一人暮らし」では42.9%と、「家族などと同居」より30.6ポイント低くなっています。



【前回調査（平成25年）】



【家族構成別】

単位：%

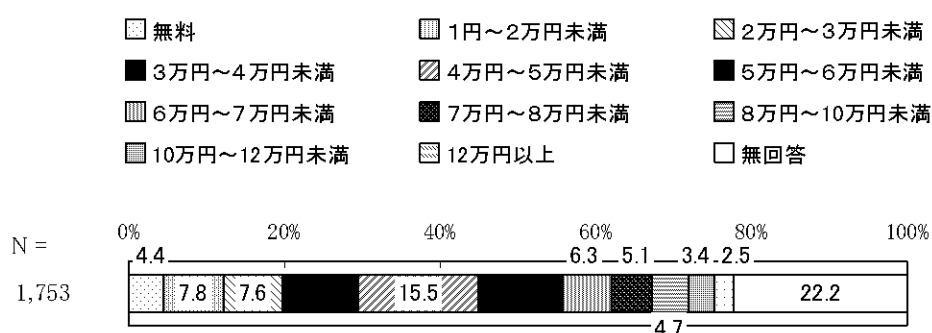
区分	有効回答数(件)	持家(一戸建て)	持家(分譲マンション)	民間賃貸住宅(一戸建て)	民間賃貸住宅(マンション・アパートなど)	高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなど)	公営住宅	社宅・官舎	間借・住み込み	その他	無回答
一人暮らし	1,819	42.9	13.0	5.6	21.8	1.5	8.6	0.3	0.7	3.8	1.9
家族などと同居(二世帯住宅を含む)	6,166	73.5	9.4	4.6	3.6	0.2	4.2	0.4	0.2	2.9	0.9

(2) 現在の住まいに係る居住費

問2 Q1-1. Q1で「3. 民間賃貸住宅（一戸建て）」～「9. その他」と回答した方にお聞きします。現在のお住まいに係る住居費（月額、共益費含む。）は、次のどれにあたりますか。＜○は1つ＞

持家以外に住んでいると回答した人に、現在の住まいに係る住居費については、「4万円～5万円未満」が15.5%と最も高く、次いで「5万円～6万円未満」が10.8%、3万円～4万円未満」が9.6%となっています。

居住形態別でみると、民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）は「4万円～5万円未満」（27.9%）、高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）は「12万円以上」（26.2%）が最も高くなっています。



【居住形態別】

単位：%

区分	有効回答数（件）	無料	1万円～2万円未満	2万円～3万円未満	3万円～4万円未満	4万円～5万円未満	5万円～6万円未満	6万円～7万円未満	7万円～8万円未満	8万円～10万円未満	10万円～12万円未満	12万円以上	無回答
民間賃貸住宅（一戸建て）	388	1.3	7.2	10.1	15.2	16.5	13.1	10.1	8.2	8.0	3.6	3.4	3.4
民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）	621	0.2	0.8	2.4	9.7	27.9	15.5	9.0	7.6	5.0	6.0	2.4	13.7
高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなど）	42	—	—	—	—	2.4	11.9	4.8	0.0	14.3	4.8	26.2	35.7
公営住宅	418	0.7	15.6	15.3	7.4	4.5	6.7	1.9	2.2	2.9	0.7	0.5	41.6
社宅・官舎	31	—	6.5	0.0	0.0	6.5	0.0	9.7	6.5	6.5	0.0	3.2	19.4
間借・住み込み	27	—	3.7	7.4	14.8	3.7	7.4	0.0	3.7	3.7	0.0	0.0	29.6
その他	252	19.0	15.1	6.0	7.1	6.0	4.0	2.0	0.4	1.2	1.2	0.4	37.7

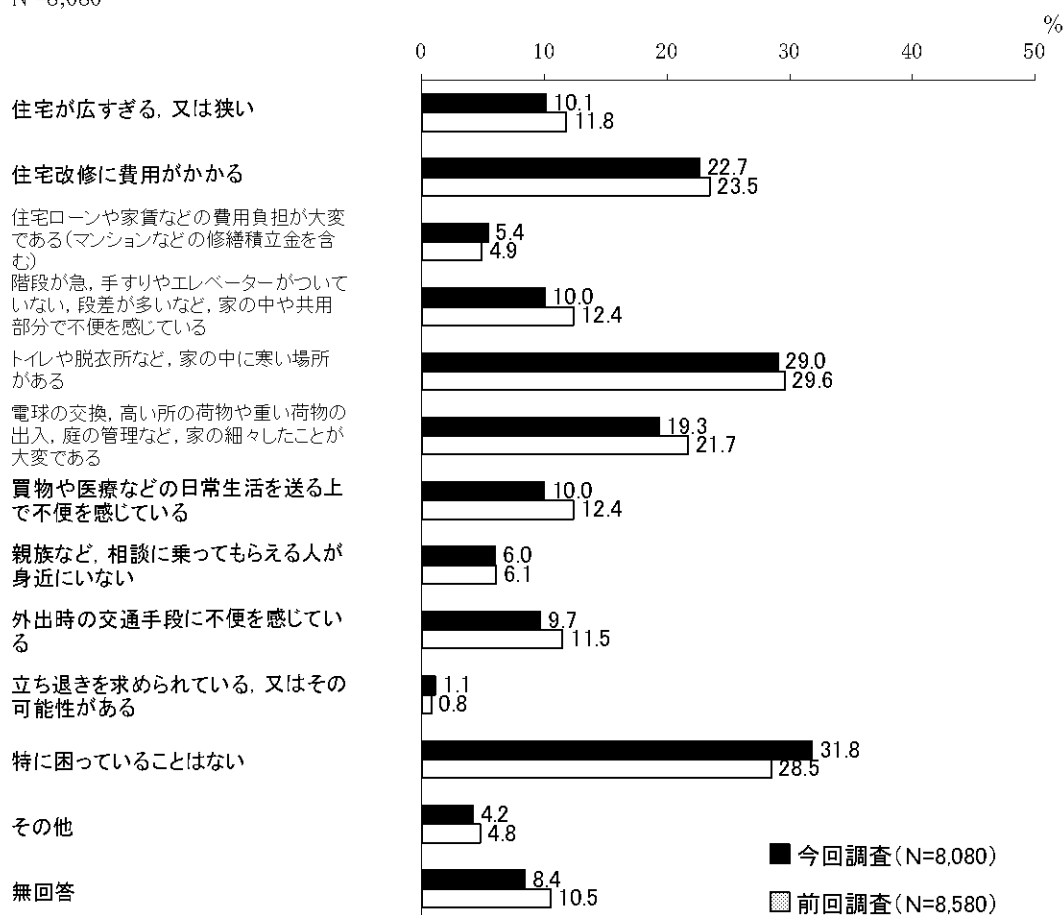
(3) 現在の住まいで困っていること

問2 Q2. あなたの現在のお住まいについてお困りのことは、次のどれですか。
 <あてはまるものすべてに○>

現在の住まいで困っていることについては、「特に困っていることはない」が31.8%と最も高く、次いで「トイレや脱衣所など、家の中に寒い場所がある」が29.0%、「住宅改修に費用がかかる」が22.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

N=8,080



3 リスク評価について

この項における「生活機能評価」、「日常生活評価」、「社会参加評価」の判定方法は、P 6 の「リスク評価の概要を参照

(1) 生活機能評価

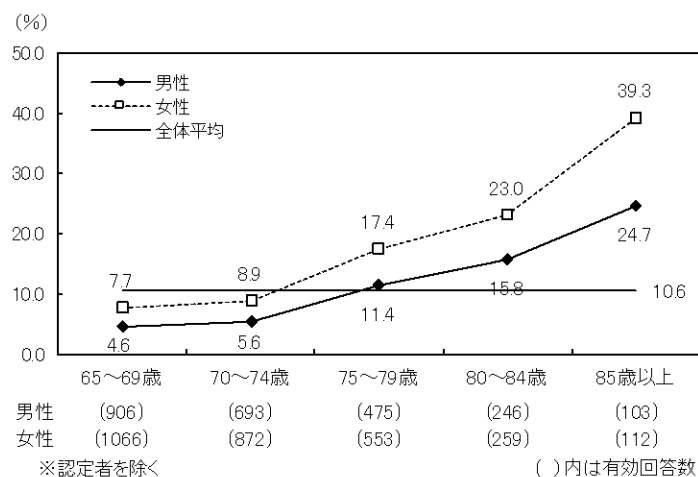
生活機能の低下リスクに関する質問項目に対する回答を点数化し、その得点を集計することにより、①運動器、②閉じこもり予防、③栄養改善、④口腔機能、⑤認知機能障害、⑥うつ予防、⑦転倒の各項目に対するリスク評価を行いました。

① 運動器

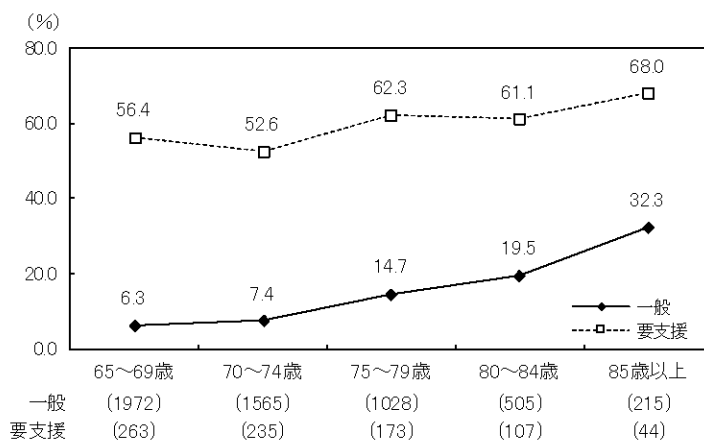
【リスク該当状況】

- ・基本チェックリストに基づく運動器の評価結果をみると、運動器の機能低下のリスクありに該当する方の割合は全体平均で 10.6%となっています。
- ・性・年齢階級別にみると、全ての年代で女性が男性に比べリスクありに該当する方の割合は高くなっており、また、男性、女性ともに、年齢が上がるるとともに割合が高くなり、75 歳以上から全体平均を上回っています。
- ・要介護度・年齢階級別にみると、要支援者では、75 歳未満ではリスクありに該当する方の割合が 50%台ですが、75 歳以上になると該当する方の割合が 60%台に上昇しています。一般高齢者では、年齢階級が上がるるとともに上昇しており、特に最も高い「85 歳以上」では、「80～84 歳」に比べ 12.8 ポイントも急激に上昇しています。

【性・年齢階級別】



【要介護度・年齢階級別】

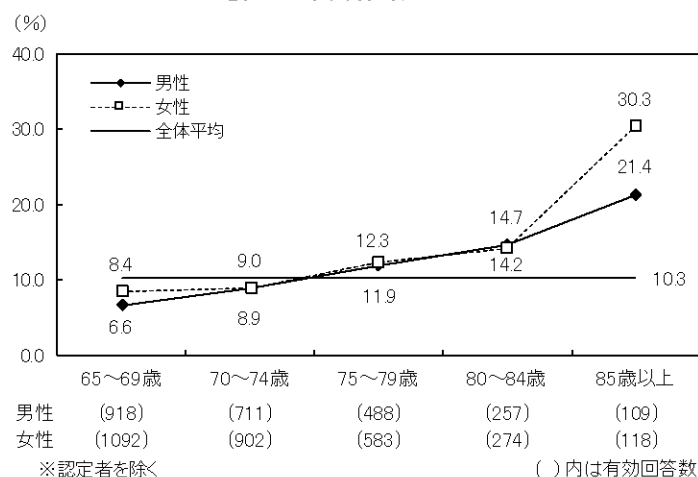


② 閉じこもり予防

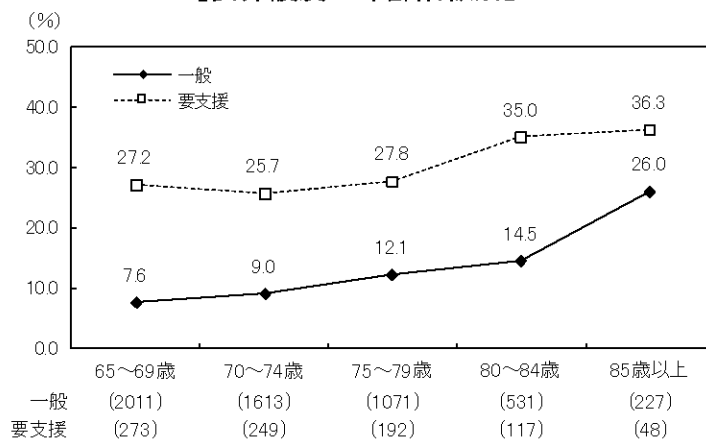
【リスク該当状況】

- ・基本チェックリストに基づく閉じこもり予防の評価結果をみると、閉じこもりの機能低下のリスクありに該当する方の割合は全体平均で 10.3% となっています。
- ・性・年齢階級別にみると、男性、女性とも年齢階級が上がるとともにリスクありに該当する方の割合が高くなり、75 歳以上になると全体平均を上回り、「85 歳以上」で男性では 21.4%、女性では 30.3% と最も高くなっています。したがって、男性、女性ともに 85 歳以上で加齢に伴う身体状態の悪化などにより急激に外出の頻度が減少していることが考えられます。
- ・要介護度・年齢階級別にみると、要支援者で 80 歳未満では、リスクありに該当する方の割合が 20% 台で推移していますが、80 歳以上になると該当者が 30% 台と上昇しています。一般高齢者では年齢階級が上がるごとに割合が高くなっており、「85 歳以上」で 26.0% と最も高く、また、「80～84 歳」に比べ 11.6 ポイントも急激に上昇しています。

【性・年齢階級別】



【要介護度・年齢階級別】

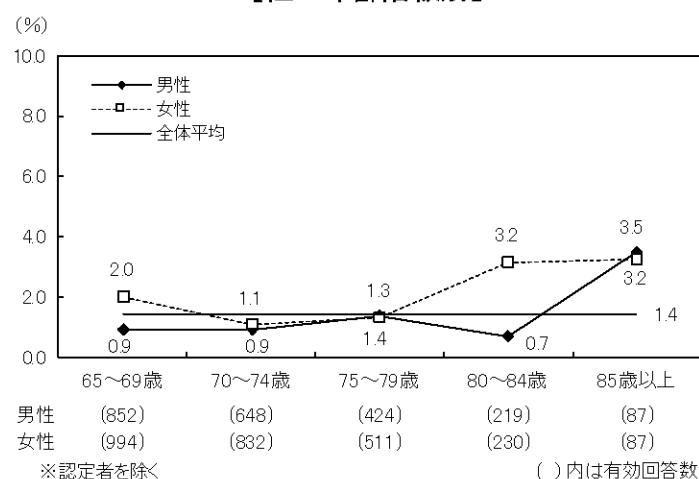


③ 栄養改善

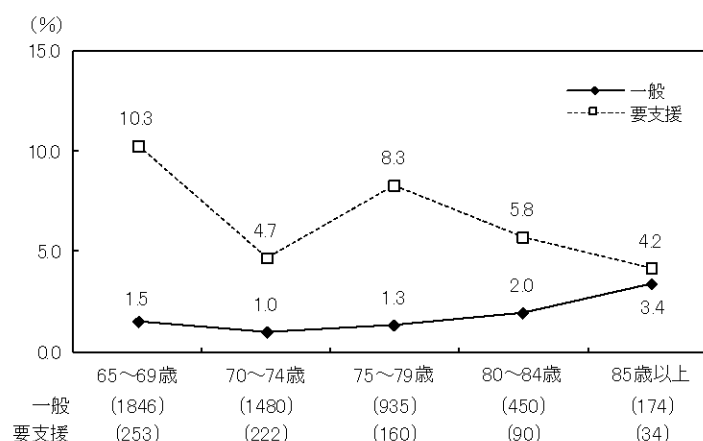
【リスク該当状況】

- ・基本チェックリストに基づく栄養改善の評価結果をみると、低栄養リスクありに該当する方の割合は全体平均で1.4%となっています。
- ・性・年齢階級別にみると、男女間では、女性では「80～84歳」から、男性では「85歳以上」からリスクありに該当する方の割合が高くなるという違いはあるものの、大きな差はみられません。
- ・要介護度・年齢階級別にみると、要支援者の「65～69歳」で10.3%と最も高くなっていますが、他のリスクに比べ加齢に伴うリスクへの影響は少ないことがうかがえます。

【性・年齢階級別】



【要介護度・年齢階級別】

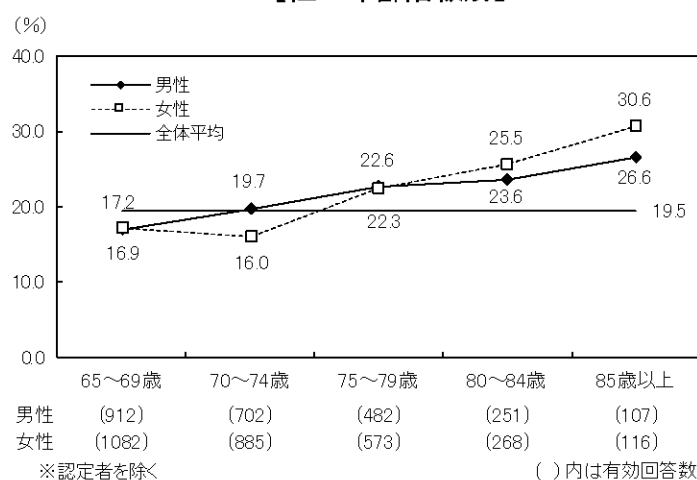


④ 口腔機能

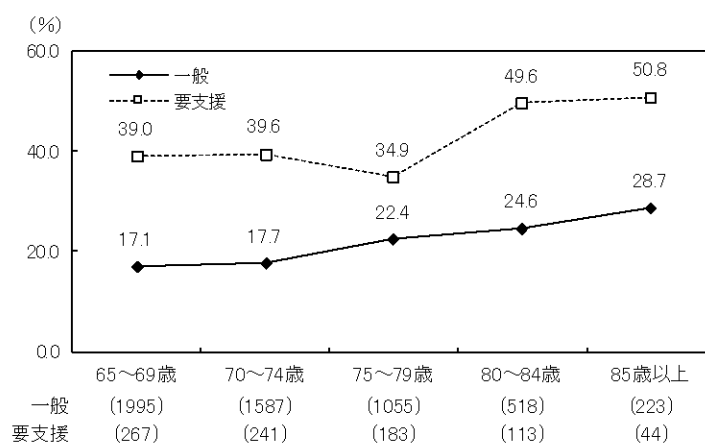
【リスク該当状況】

- ・基本チェックリストに基づく口腔機能の評価結果をみると、口腔機能低下のリスクありに該当する方の割合は全体平均で 19.5%となっています。
- ・性・年齢階級別にみると、男性、女性ともに、年齢階級が上がるとともにリスクありに該当する方の割合が高くなっており、「75～79 歳」から 20%を超え上昇するなど、75 歳以上になると嚥下機能の低下によるリスクが高くなることがうかがえます。女性では、「85 歳以上」で 30.6%と最も高くなっています。
- ・要介護度・年齢階級別にみると、要支援者では、80 歳未満では、リスクありに該当する方の割合は 30%台で推移しているものの、80 歳以上になると該当者が約 50%と上昇しています。一般高齢者では、年齢階級が上がるとともに上昇しています。

【性・年齢階級別】



【要介護度・年齢階級別】

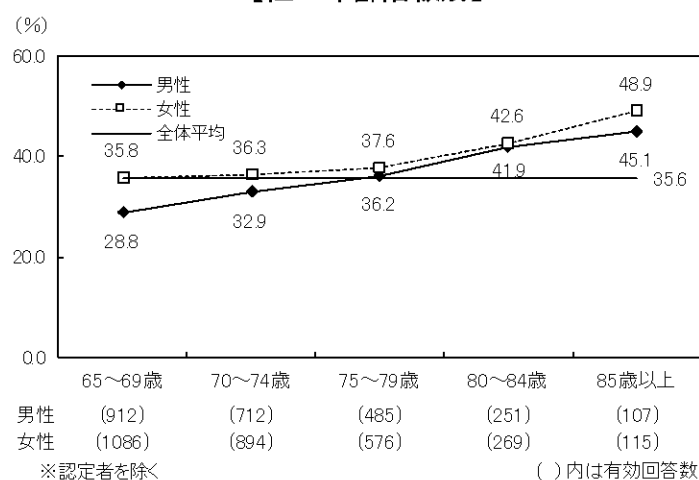


⑤ 認知機能障害

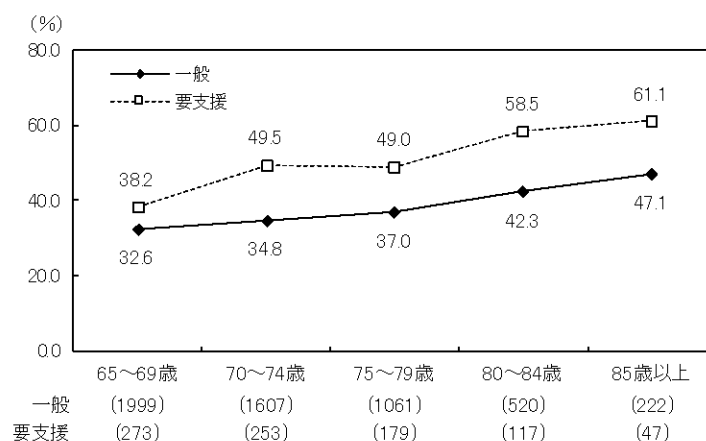
【リスク該当状況】

- ・基本チェックリストに基づく認知機能障害の評価結果をみると、認知機能低下のリスクありに該当する方の割合は全体平均で 35.6% となっています。
- ・性・年齢階級別にみると、男性、女性ともに、年齢階級が上がるとともにリスクありに該当する方の割合が高くなっています。女性では、男性に比べ高い傾向にあり、また全ての年齢階級で全体平均を上回っています。一方、男性では 75 歳以上から全体平均を上回っています。
- ・要介護度・年齢階級別にみると、要支援者では、75～79 歳を除き、年齢階級が上がるとともに、リスクありに該当する方の割合が概ね高くなっており、「85 歳以上」では 61.1% と最も高くなっています。一般高齢者でも同様の傾向であり、「80 歳以上」で 47.1% と最も高くなっています。

【性・年齢階級別】



【要介護度・年齢階級別】

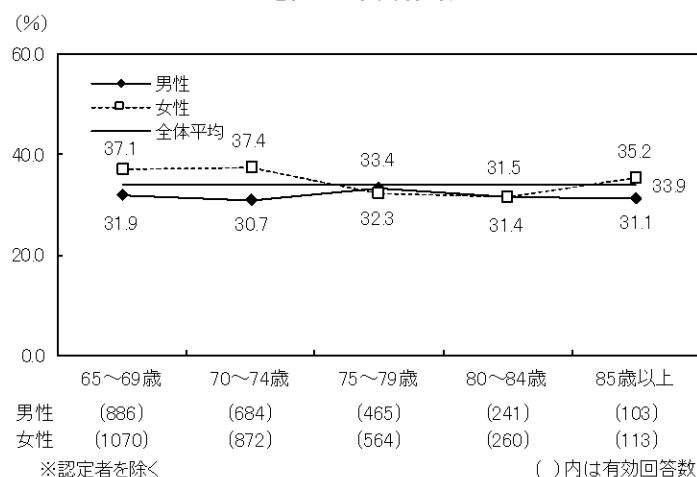


⑥ うつ予防

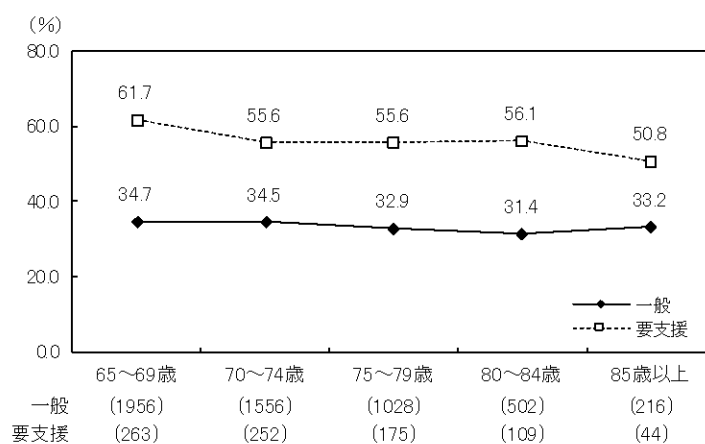
【リスク該当状況】

- ・基本チェックリストに基づくうつ予防の評価結果をみると、リスクありに該当する方の割合は全体平均で 33.9% となっています。
- ・性・年齢階級別にみると、リスクありに該当する方の割合は、男性、女性ともに 3 割台となっており、男女間では、「75～79 歳」を除くと概ね女性が男性に比べ高くなっています。また、年齢階級による割合の変化は少なく、他のリスクに比べ加齢に伴うリスクへの影響は少ないことがうかがえます。
- ・要介護度・年齢階級別にみると、要支援者では、概ね年齢階級が上がるとともに減少しており、「85 歳以上」では 50.8% と最も低くなっています。一般高齢者では、全ての年齢階級で 30% 台前半で推移しています。

【性・年齢階級別】



【要介護度・年齢階級別】

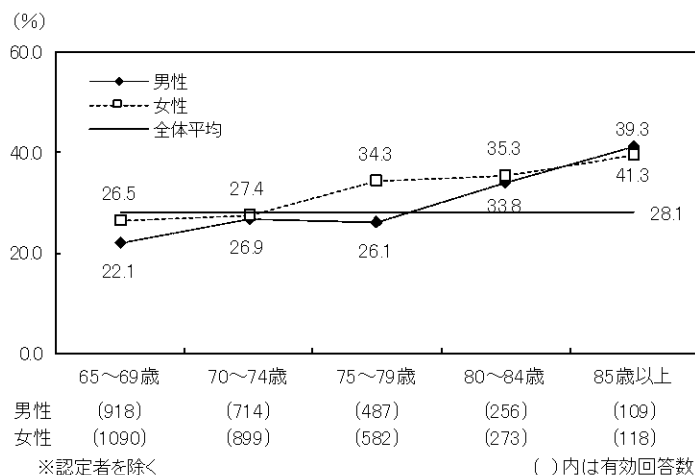


⑦ 転倒

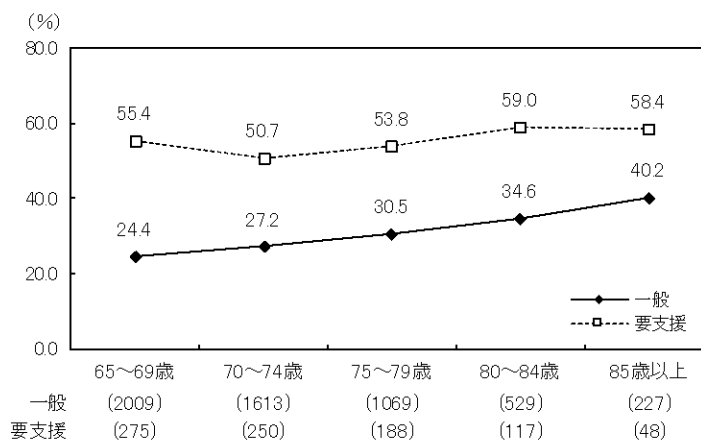
【リスク該当状況】

- ・基本チェックリストに基づく転倒の評価結果をみると、転倒のリスクありに該当する方の割合は、全体平均で28.1%となっています。
- ・性・年齢階級別にみると、男女間では、女性が男性に比べやや転倒リスクありに該当する方の割合が高くなっているものの、大きな差異は見られません。また、女性では、「75～79歳」から平均より割合が高くなっている一方、男性では、「80～84歳」から全体平均より高くなっています。
- ・要介護度・年齢階級別にみると、要支援者では、「80～84歳」で転倒リスクありに該当する方の割合が59.0%と最も高く、いずれの年齢階級でも50%台で推移しています。一般高齢者では、年齢階級が上がるとともに上昇し、「85歳以上」では40.2%と最も高くなっています。

【性・年齢階級別】



【要介護度・年齢階級別】



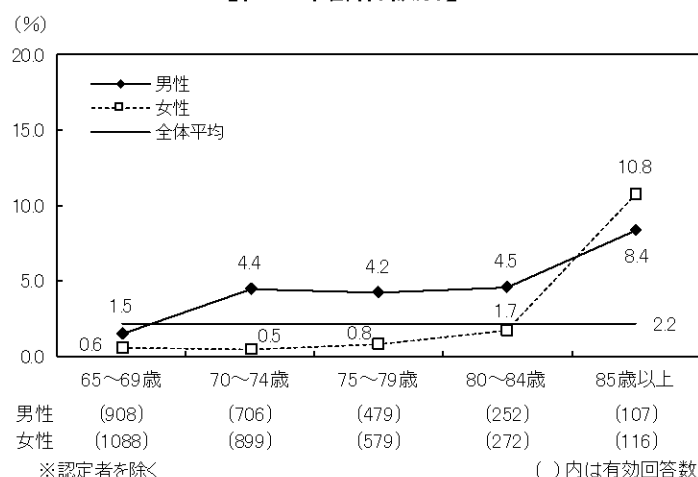
(2) 日常生活

① 手段的自立度 (IADL)

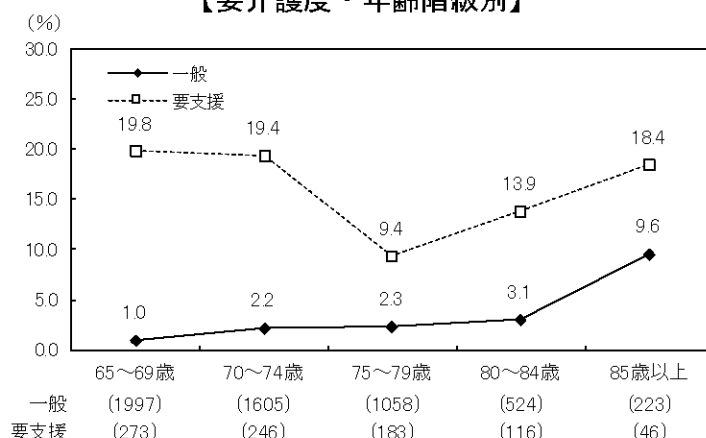
【該当状況】

- ・調査項目には、高齢者の比較的高いレベルでの生活機能を評価することが可能な「老研式活動能力指標」に準じた項目を設けています。この指標のひとつである「手段的自立度 (IADL)」は、買い物や洗濯、掃除等の家事全般や、金銭管理や服薬管理、外出して乗り物に乗ること、趣味のための活動など、日常生活を送るうえで必要な動作のことで、食事を摂ることや排せつ、入浴などの日常生活動作 (ADL) より複雑で高次の動作を行える自立度の程度を示しています。
- ・手段的自立度 (IADL) について、各設問で「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価しています。手段的自立度の低下のリスクありに該当する方の割合は全体平均で2.2%となっています。
- ・性・年齢階級別について4点以下を低下のリスクありに該当する方とした場合、性別でみると、男性、女性ともに85歳未満では低下ありに該当する方の割合は5%以下となっていますが、85歳以上になると大きく上昇し、男性では8.4%、女性では10.8%となっています。
- ・要介護度別でみると、要支援者では「75～79歳」が9.4%と低いものの、それ以外の年齢階級では高く、「65～69歳」、「70歳～74歳」、「85歳以上」では、2割近くとなっています。一般高齢者では、「85歳以上」で9.6%となっていますが、その他の年齢階級では1～3%台で推移しています。

【性・年齢階級別】



【要介護度・年齢階級別】

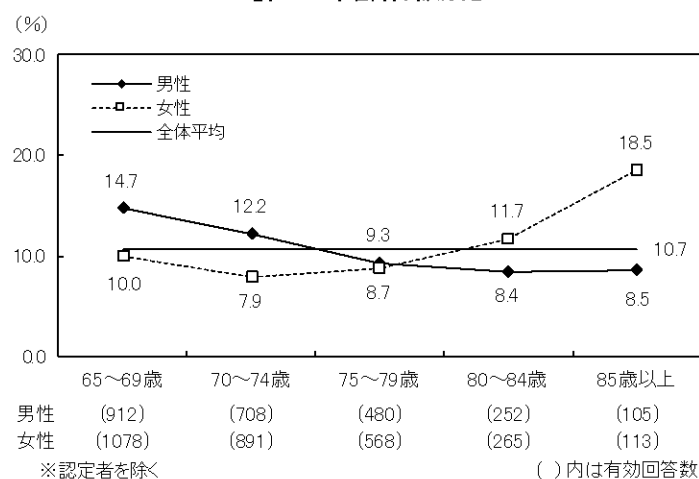


② 知的能動性

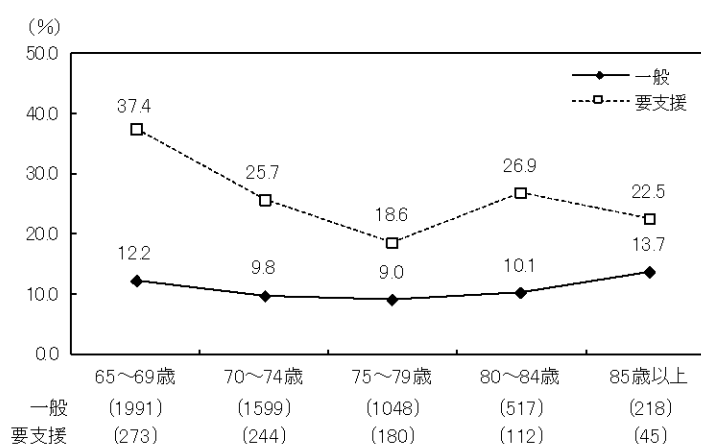
【該当状況】

- ・「老研式活動能力指標」のひとつである「知的能動性」は、書類などを書くことや、本や新聞を読むこと、物事に対する関心など、高齢者の知的活動の自立度の程度を示しており、高齢者の知的活動に関する設問が4問あり、「知的能動性」として尺度化されています。
- ・評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価します。低下のリスクありに該当する方の割合は全体平均で10.7%となっています。
- ・性・年齢階級別について3点以下を低下のリスクありに該当する方とした評価結果をみると、男性では年齢階級が上がるとともに減少しており、75歳以上で全体平均を下回っています。一方、女性では70歳以上で年代が上がるとともに増加しており、「80～84歳」で全体平均を上回り、「85歳以上」で18.5%と最も高くなっています。
- ・要介護度別でみると、要支援者では「65～69歳」が37.4%と最も高くなっていますが、各年齢階級でばらつきがあります。一般高齢者では各年齢階級で、10%前後で推移しています。

【性・年齢階級別】



【要介護度・年齢階級別】



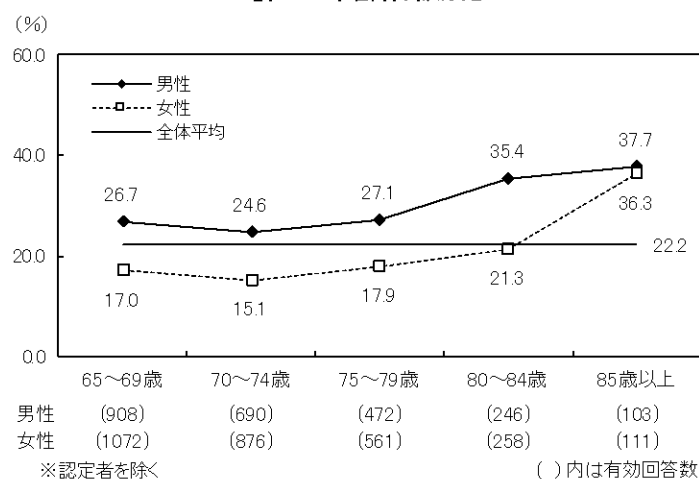
③ 社会的役割

【該当状況】

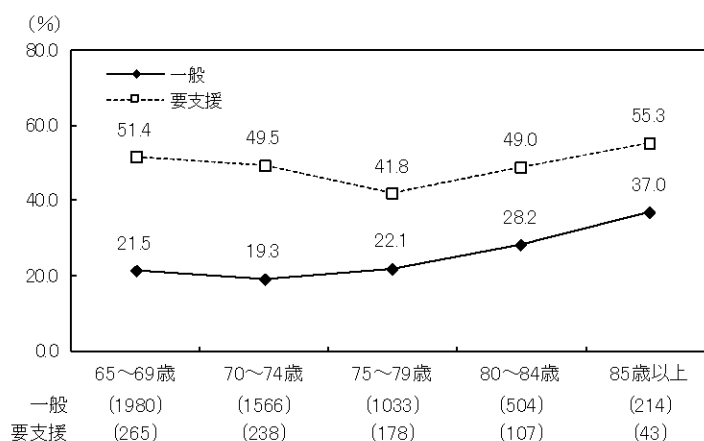
「老研式活動能力指標」のひとつである「社会的役割」は、友人宅を訪問することや家族や友人からの相談に応じることなど、高齢者の他者との関わりの程度や社会活動の自立度の程度を示しており、高齢者の社会活動に関する設問が4問あり、「社会的役割」として尺度化されています。

- ・評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。低下のリスクありに該当する方の割合は全体平均で22.2%となっています。
- ・性・年齢階級別について3点以下を低下のリスクありに該当する方とした評価結果をみると、男性では、すべての年齢階級で全体平均を上回っており、「80～84歳」から大きく上昇し、「85歳以上」で37.7%と最も高くなっています。女性では、85歳未満では全体平均を下回っているものの、「85歳以上」で36.3%、「80～84歳」に比べ15.0ポイントも大きく上昇しています。
- ・要介護度別でみると、要支援者では、「75～79歳」が41.8%と最も低く、これより年齢が乖離するほど、割合が上昇しています。一般高齢者では、「70～74歳」で19.3%と最も低く、以降は年齢階級が上がるとともに割合が上昇し、「85歳以上」で37.0%と最も高くなっています。

【性・年齢階級別】



【要介護度・年齢階級別】



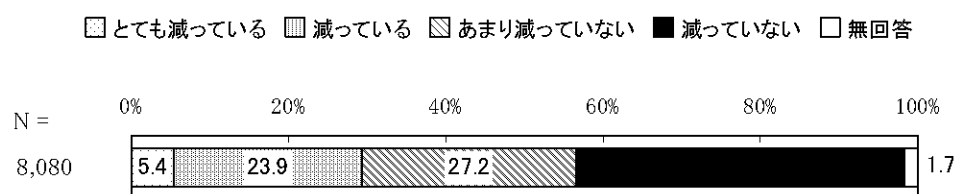
4 外出等について（問3）

（1）外出回数

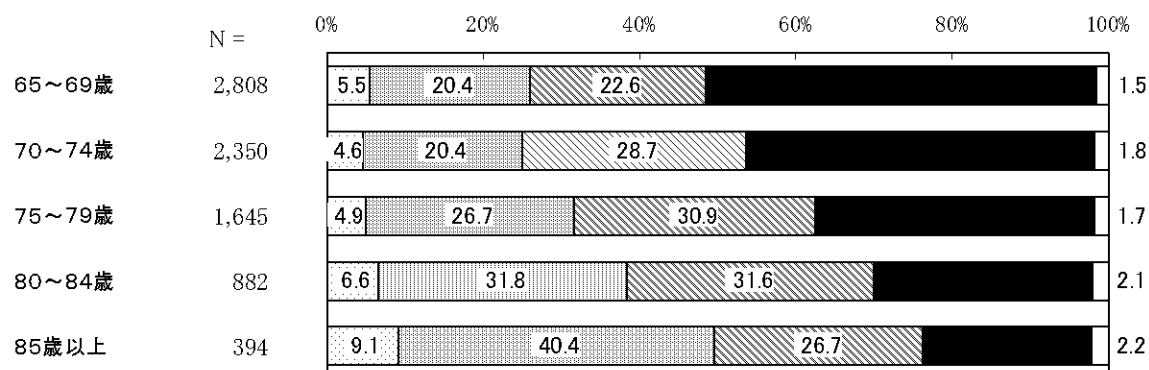
問3 Q5. あなたは昨年と比べて外出の回数が減っていますか。＜○は1つ＞

「昨年と比べて外出の回数が減っているか」については、「減っていない」が41.7%と最も高く、次いで「あまり減っていない」が27.2%、「減っている」が23.9%となっています。

年齢別でみると、「とても減っている」と「減っている」を合わせた割合は年齢が上がるにつれて高くなっており、85歳以上で半数近くまで増加しています。



【年齢別】

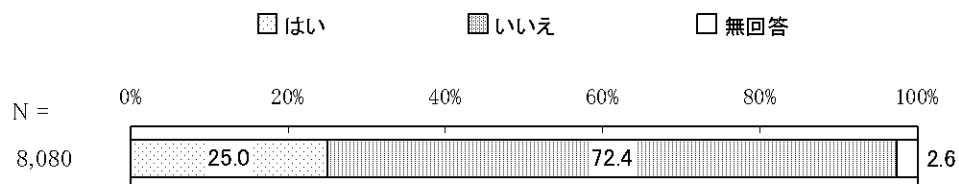


(2) 外出を控えているか

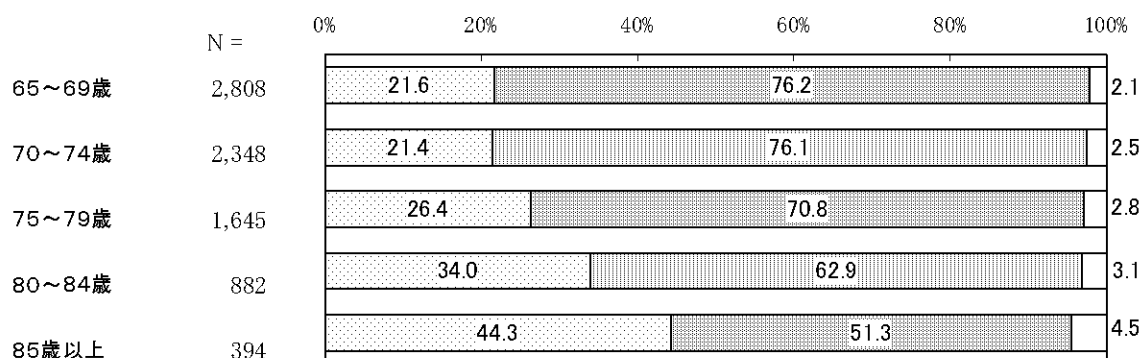
問3 Q6. あなたは外出を控えていますか。＜○は1つ＞

「外出を控えているか」については、「はい（控えている）」が 25.0%、「いいえ（控えていない）」が 72.4%となっています。

年齢別でみると、「はい（控えている）」は概ね年齢が上がるとともに高くなっており、「85歳以上」で 44.3%と最も高くなっています。



【年齢別】



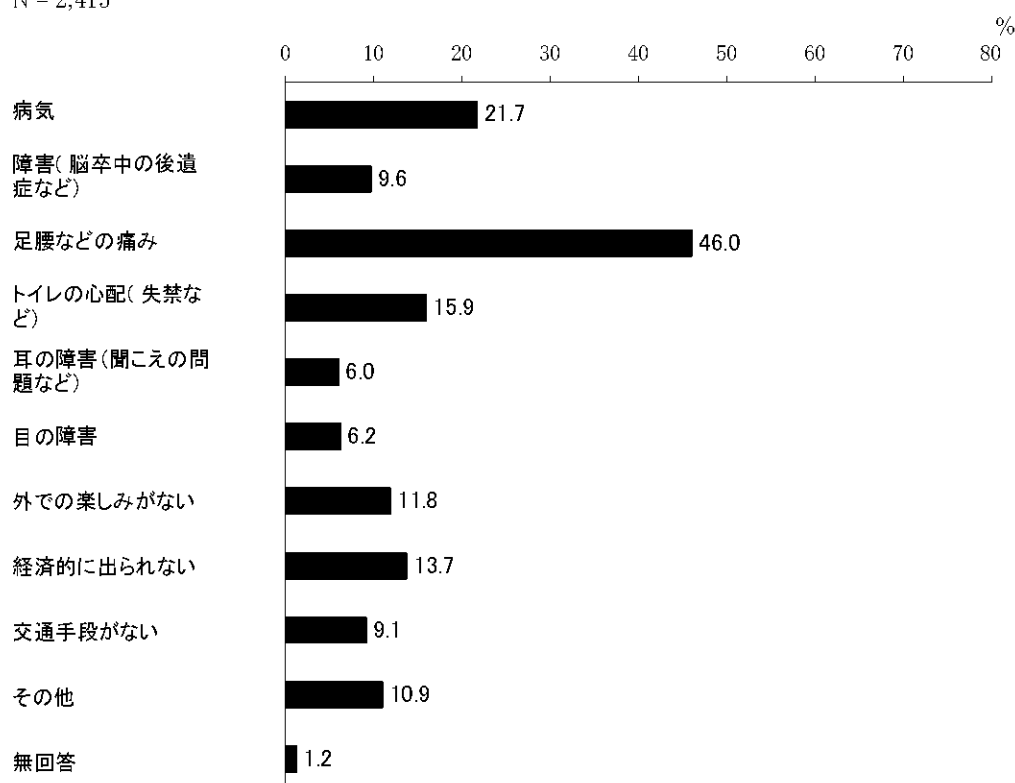
(2) 外出を控えている理由

問3 Q6-1. Q6で「1. はい」と回答した方にお聞きします。外出を控えている理由は、次のどれですか。＜あてはまるものすべてに○＞

外出を控えていると回答した方にその理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」が46.0%と最も高く、次いで「病気」が21.7%、「トイレの心配（失禁など）」が15.9%となっています。

年齢別でみると、「足腰などの痛み」、「耳の障害」は年齢が上がるとともに高くなっています。一方で、「病気」や「障害（脳卒中の後遺症など）」「経済的に出られない」「交通手段がない」は年齢が下がるとともに低くなっています。

N = 2,415



【年齢別】

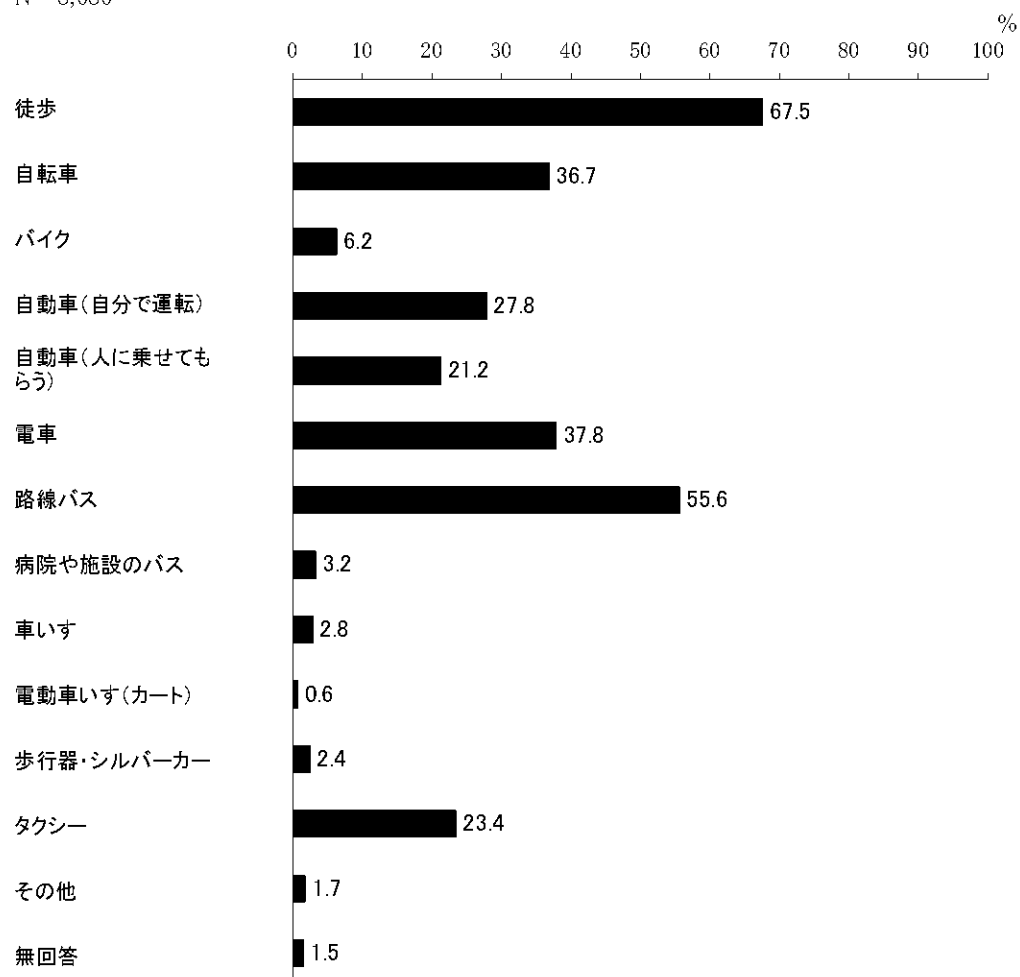
区分	有効回答数 (件)	病気	障害(脳卒中の後遺症など)		トイレの心配(失禁など)	耳の障害(聞こえの問題など)	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
65～69 歳	607	33.3	17.8	45.2	19.5	3.0	6.3	16.5	23.4	12.9	12.5	0.3
70～74 歳	502	30.0	13.1	52.8	22.0	4.7	7.1	13.9	15.7	11.3	14.8	0.6
75～79 歳	434	20.4	9.2	62.2	16.9	10.3	8.1	11.9	15.8	9.9	11.2	2.6
80～84 歳	300	20.0	4.1	61.3	17.1	9.8	7.6	14.3	9.2	9.7	14.9	2.6
85 歳以上	174	12.7	3.6	67.3	17.7	16.5	10.4	12.3	7.0	6.9	11.6	2.8

（３）外出の際に移動手段

問３Ｑ７．あなたが外出する際の移動手段は何ですか。＜あてはまるものすべてに○＞

外出の際の移動手段については、「徒歩」が67.5%と最も高く、次いで「路線バス」が55.6%、「電車」が37.8%となっています。

N = 8,080



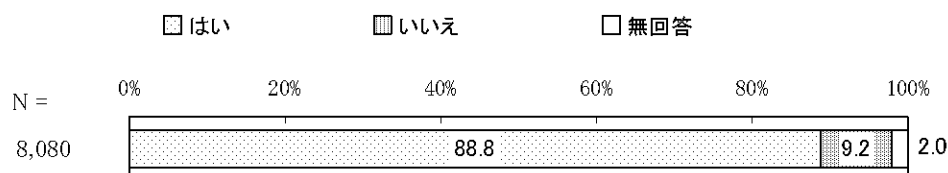
5 口腔・栄養について（問5）

（1）歯磨きの状況

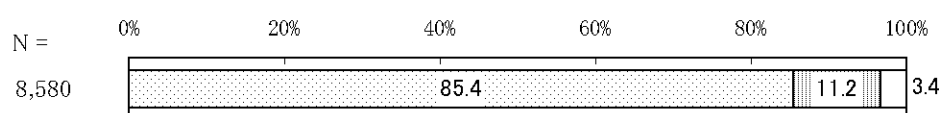
問5 Q 6. あなたは歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。
＜○は1つ＞

「歯磨きを毎日しているか」については、「はい（している）」が88.8%、「いいえ（していない）」が9.2%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



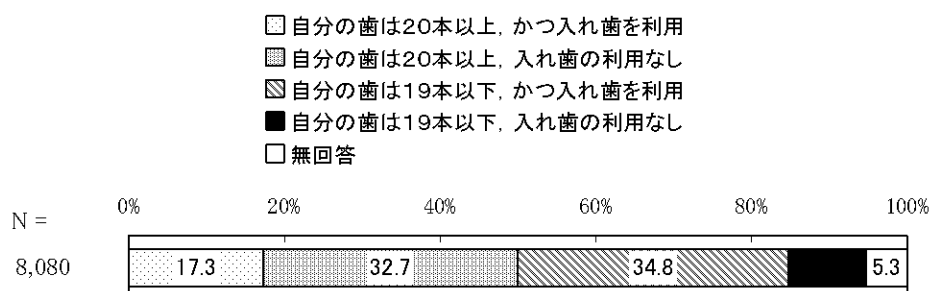
【前回調査（平成25年）】



（2）歯の本数

問3 Q 7. あなたの歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。）。＜○は1つ＞

歯の本数については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が34.8%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が32.7%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が17.3%となっています。

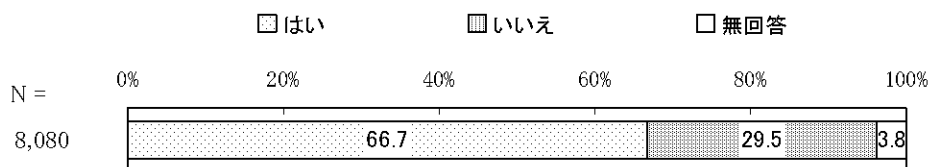


(3) 歯の噛み合わせの状況

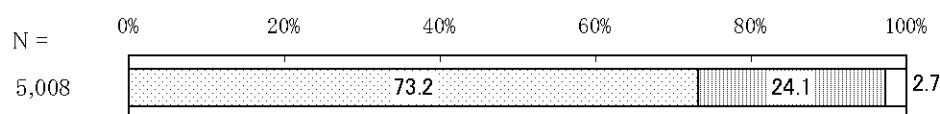
問3 Q7-1. あなたの歯の噛み合わせは良いですか。＜○は1つ＞

「歯の噛み合わせが良いか」についてたずねたところ、「はい（良い）」が66.7%、「いいえ（良くない）」が29.5%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が6.5ポイント減少しています。一方「いいえ（していない）」が5.5ポイント増加しています。



【前回調査（平成25年）】

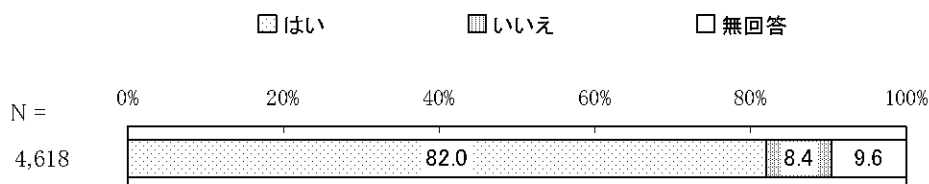


(4) 入れ歯の手入れの状況

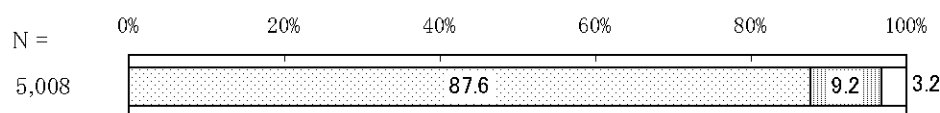
問3 Q7-2. Q7で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方にお聞きします。毎日入れ歯の手入れをしていますか。＜○は1つ＞

入れ歯を使用していると回答した人に、「毎日入れ歯の手入れをしているか」についてたずねたところ、「はい（している）」が82.0%、「いいえ（していない）」が8.4%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が5.6ポイント減少しています。



【前回調査（平成25年）】

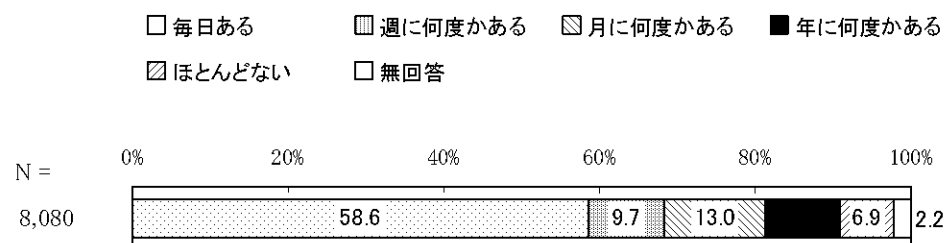


(5) 共食の機会の頻度

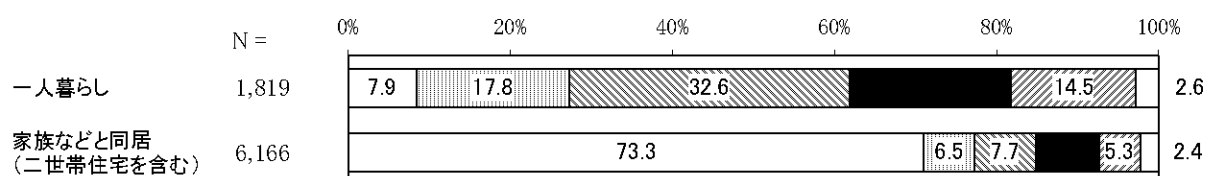
問5 Q 8. あなたはどなたかと食事をともにする機会がありますか。＜○は1つ＞

「どなたかと食事をともにする機会はあるか」については、「毎日ある」が58.6%と最も高く、次いで「月に何度かある」が13.0%、「週に何度かある」が9.7%となっています。

家族構成別でみると、「一人暮らし」では、「毎日ある」(7.9%)は約1割、「年に何度かある」と「ほとんどない」を合わせた割合は約3割となっています。



【家族構成別】

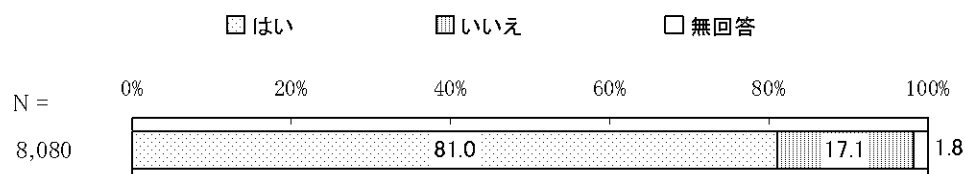


6 物忘れについて（問6）

（1）電話番号を調べてからの電話の有無

問6 Q2. あなたは自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていますか。
<○は1つ>

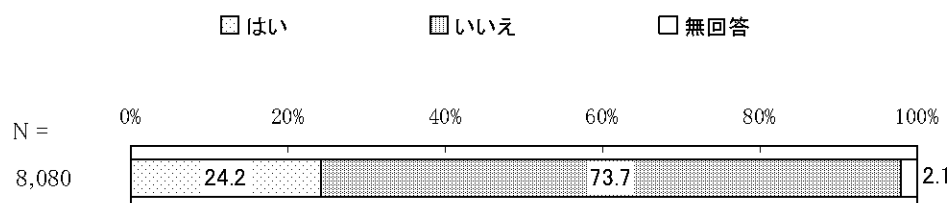
「自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているか」については、「はい」が 81.0%、「いいえ」が 17.1%となっています。



（2）月日の認知の有無

問6 Q3. あなたは今日が何月何日かわからない時がありますか。 <○は1つ>

「今日が何月何日かわからない時があるか」については、「はい」が 24.2%、「いいえ」が 73.7%となっています。



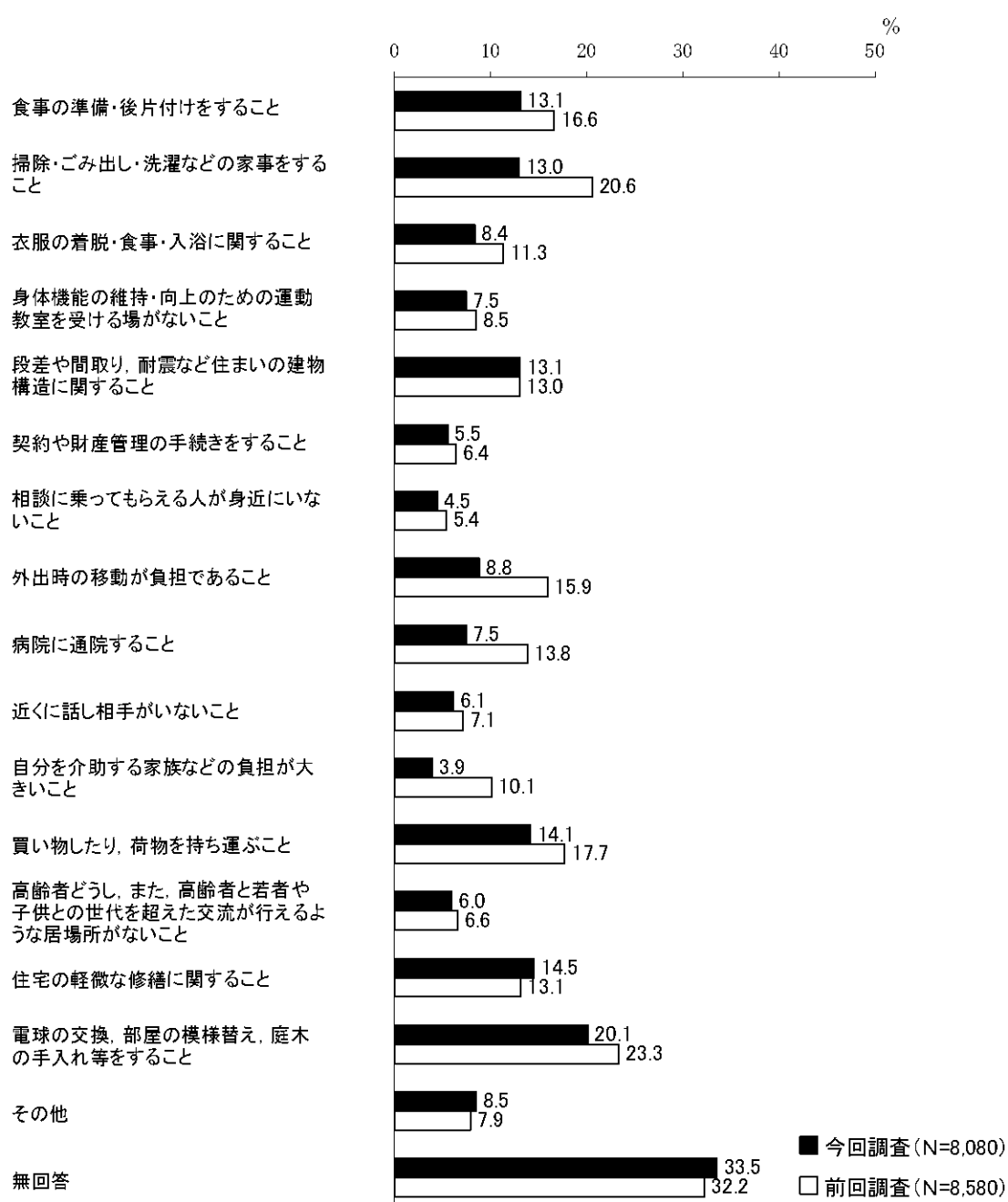
7 日常生活について（問7）

（1）日常生活の中で不自由と感じていること

問7 Q6. 現在、あなたが日常生活の中で不自由と感じているのはどんなことですか。
 <○は5つまで。うち最もそう感じるものに◎>

日常生活の中で不自由と感じていることについては、「電球の交換，部屋の模様替え，庭木の手入れ等をする事」が20.1%と最も高く，次いで「住宅の軽微な修繕に関する事」が14.5%，「買い物したり，荷物を持ち運ぶこと」が14.1%となっています。ただし，全体では，「無回答」が33.5%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると，「掃除・ごみ出し・洗濯などの家事をする事」が7.6ポイント減少しています。



年齢別でみると、「買い物したり、荷物を持ち運ぶこと」や「電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等をするこ

と」は年齢が上がるとともに高くなっています。
 家族構成別でみると、「掃除・ごみ出し・洗濯などの家事をすること」「買い物したり、荷物を持ち運ぶこと」「電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等をするこ

【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数（件）	食事の準備・後片付けをすること	掃除・ごみ出し・洗濯などの家事をすること	衣服の着脱・食事・入浴に関すること	身体機能の維持・向上のための運動教室を受ける場がないこと	物構造に関すること	段差や間取り、耐震など住まいの建物構造に関すること	契約や財産管理の手続きをすること	相談に乗ってもらえる人が身近にいないこと	外出時の移動が負担であること	病院に通院すること	近くに話し相手がないこと	自分を介助する家族などの負担が大きいこと		住宅の軽微な修繕に関すること		その他	無回答
65～69 歳	2,808	12.7	7.3	4.9	4.3	7.2	2.5	2.6	4.4	3.3	3.4	2.0	6.5	2.7	7.8	9.1	5.0	19.7
70～74 歳	2,350	12.2	6.3	4.5	4.1	7.3	2.5	2.5	4.4	3.9	3.0	2.2	6.8	3.5	7.9	9.9	4.9	19.4
75～79 歳	1,645	12.5	6.0	3.6	4.0	6.9	3.5	2.2	4.4	4.5	3.4	1.9	8.4	3.5	7.8	12.2	4.6	16.6
80～84 歳	883	16.0	7.7	4.2	3.2	6.5	3.8	2.1	5.3	4.7	2.9	2.0	9.2	3.1	7.4	13.2	3.0	13.9
85 歳以上	394	17.4	8.7	5.3	2.7	5.0	3.6	1.7	7.1	4.9	3.8	2.7	10.1	3.1	6.4	12.8	2.5	11.8

【家族構成別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	食事の準備・後片付けをすること	掃除・ごみ出し・洗濯などの家事をすること	衣服の着脱・食事・入浴に関するこ	身体機能の維持・向上のための運動教室を受ける場がないこと	物構造に関するこ	段差や間取り、耐震など住まいの建	契約や財産管理の手続きをすること	相談に乗ってもらえる人が身近にいないこと	外出時の移動が負担であること	病院に通院すること	近くに話し相手がないこと	自分を介助する家族などの負担が大きいこと	買い物したり、荷物を持ち運ぶこと	住宅の軽微な修繕に関するこ	電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等をするこ	その他	無回答
一人暮らし	1,819	15.7		9.7	6.8	11.0	5.2	9.2	9.3	8.2	11.0	1.6		7.4	17.5		5.6	26.0
家族など同居	6,261	12.2		7.9	7.5	13.6	5.6	3.0	8.5	7.1	4.6	4.5		5.5	13.4		9.2	35.1

8 社会参加について（問8）

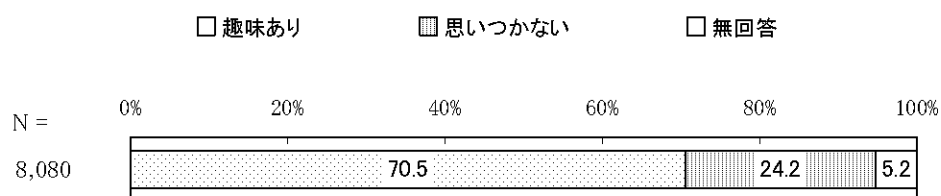
（1）趣味の有無

問8 Q9. あなたは趣味がありますか。＜○は1つ＞

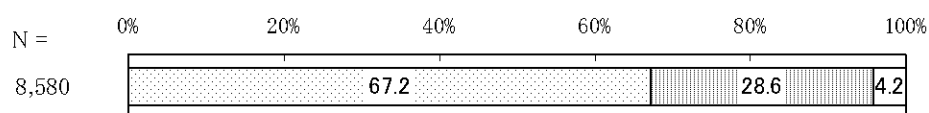
「趣味があるか」については、「趣味あり」が 70.5%、「思いつかない」が 24.2%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

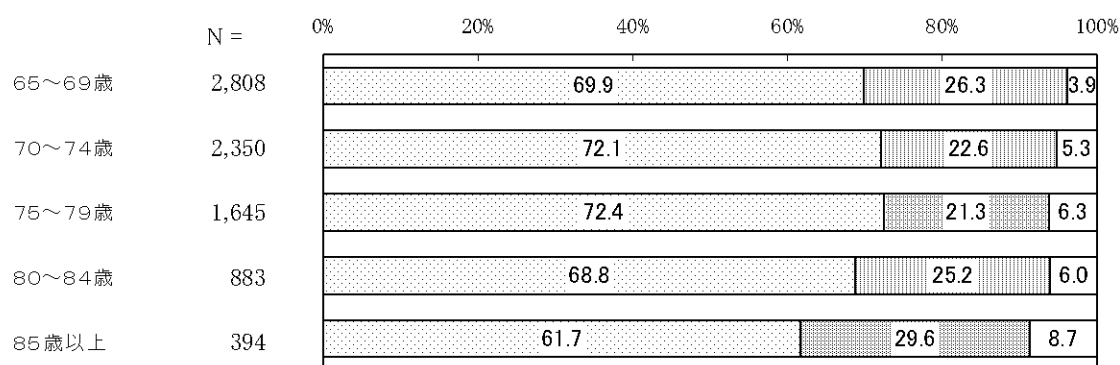
年齢別でみると、「趣味あり」は、「75～79 歳」で 72.4%と最も高くなっていますが、大きな差異は見られません。



【前回調査（平成 25 年）】



【年齢別】



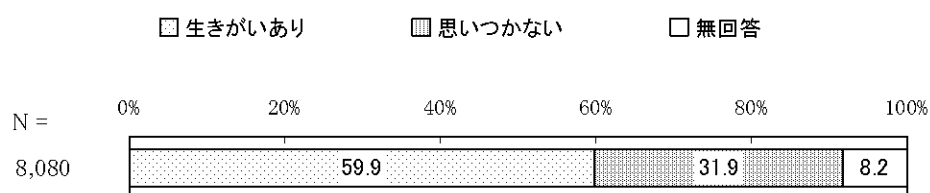
(2) 生きがいの有無

問8 Q10. あなたは生きがいがありますか。＜○は1つ＞

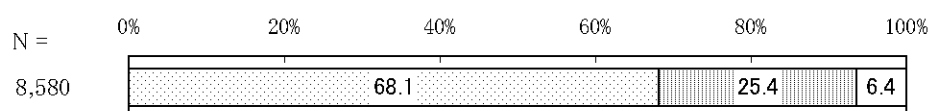
「生きがいがあるか」については、「生きがいあり」が 59.9%、「思いつかない」が 31.9%となっています。

前回調査と比較すると、「生きがいあり」が8.2ポイント減少しています。

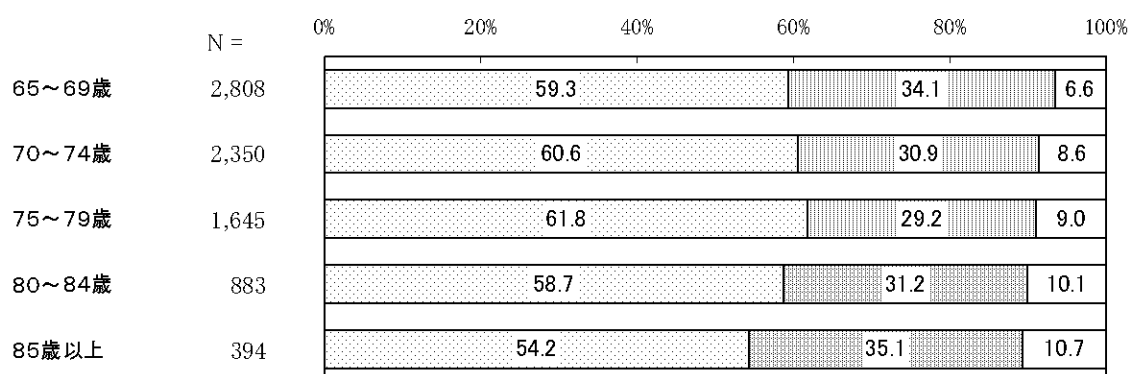
年齢別でみると、「生きがいあり」は、「75～79歳」で 61.8%と最も高くなっていますが、大きな差異は見られません。



【前回調査（平成 25 年）】



【年齢別】



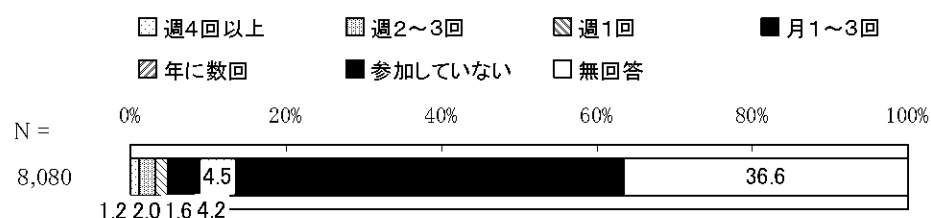
(3) 会・グループの参加頻度

問8 Q11. あなたは以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
 <(1)から(7)までそれぞれ○は1つつつ>

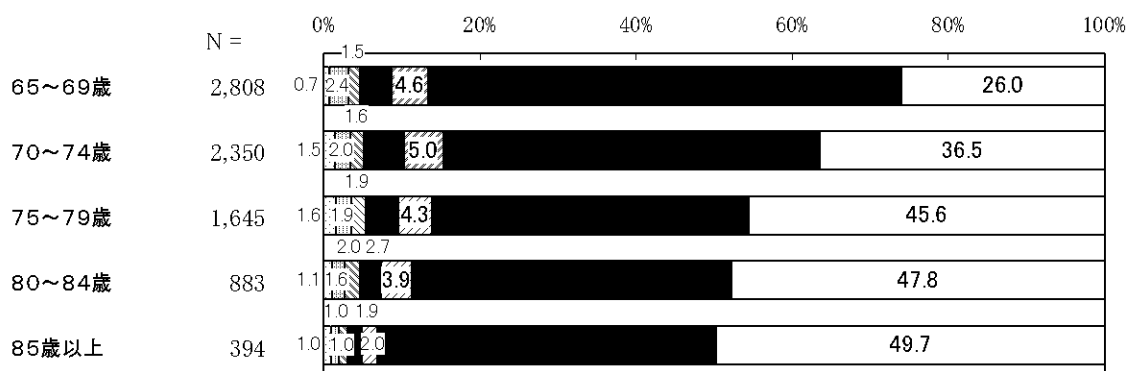
① ボランティアのグループ

ボランティアのグループの参加頻度については、「参加していない」が50.0%と最も高く、次いで、「無回答」が36.6%、「年に数回」が4.5%となっています。

年齢別でみると、“ボランティアに参加している方”の割合では、「70～74歳」で15.3%と最も高く、年齢が乖離するとともに減少しています。



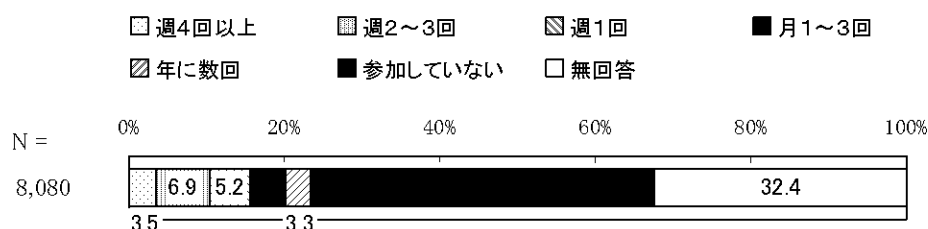
【年齢別】



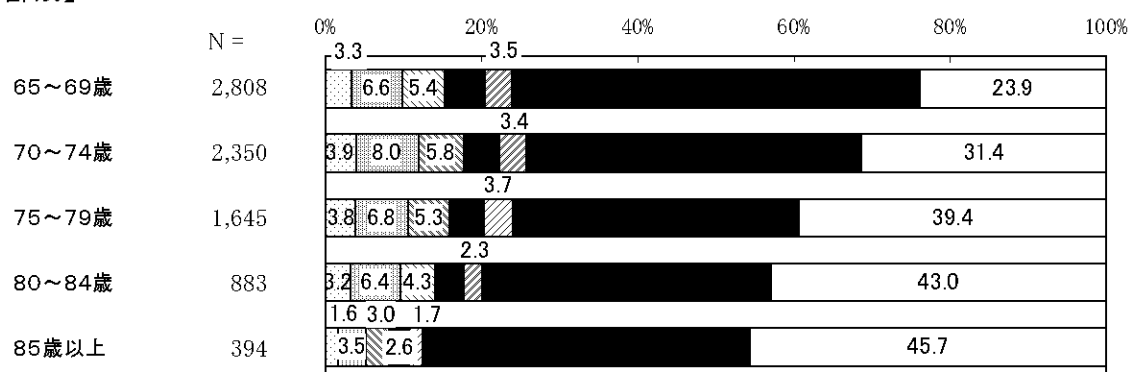
② スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブの参加頻度については、「参加していない」が 44.2%と最も高く、次いで「無回答」が 32.4%、「週 2～3 回」が 6.9%となっています。

年齢別でみると、「スポーツ関係のグループやクラブに参加している方」の割合では、「70～74 歳」では 25.7%と最も高く、年齢が乖離するとともに低くなっています。



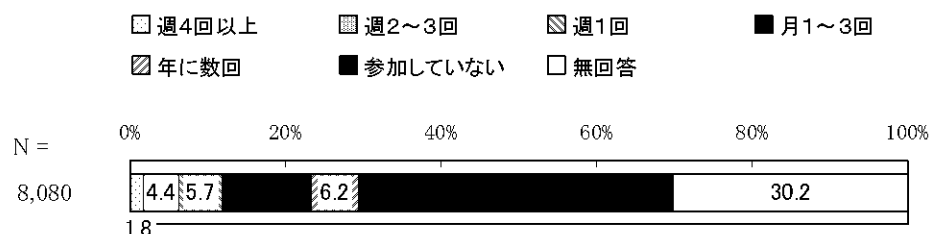
【年齢別】



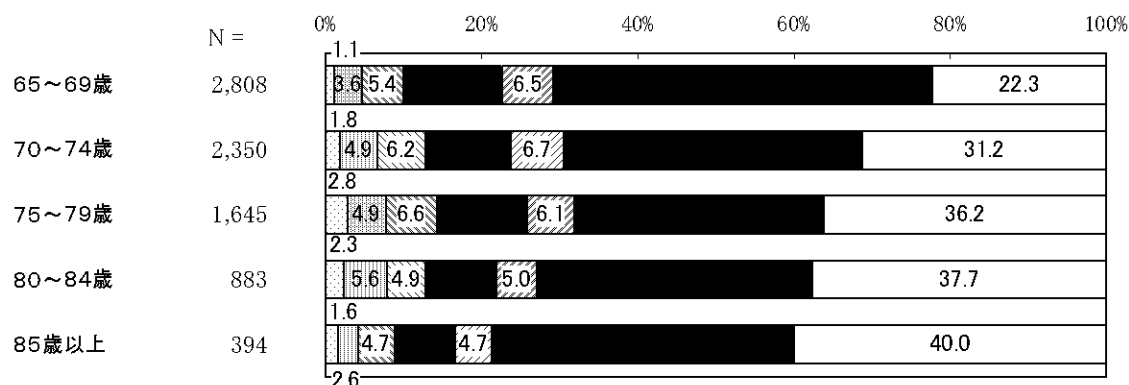
③ 趣味関係のグループ

趣味関係のグループの参加頻度については、「参加していない」が 40.3%と最も高く、次いで「無回答」が 30.2%、「月 1～3 回」が 11.3%となっています。

年齢別でみると、「趣味関係のグループに参加している方」の割合では、「75～79 歳」で 31.9%と最も多く、年齢が乖離するとともに低くなっています。



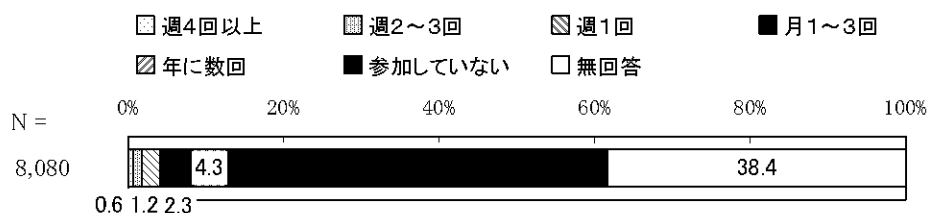
【年齢別】



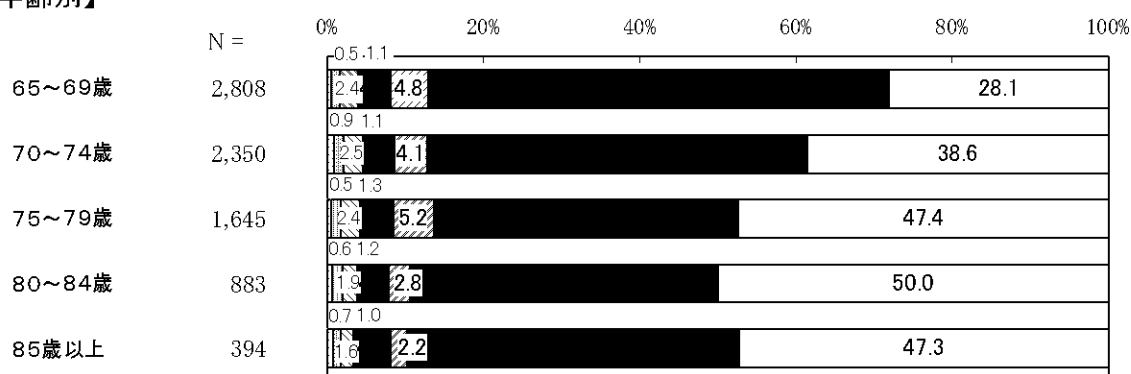
④ 学習・教養サークル

学習・教養サークルの参加頻度については、「参加していない」が 49.0%と最も高く、次いで「無回答」が 38.4%、「年に数回」が 4.3%となっています。

年齢別でみると、“学習・教養サークルに参加している方”の割合では、「75～79 歳」で 13.7%と最も多く、年齢が乖離するとともに低下しています。



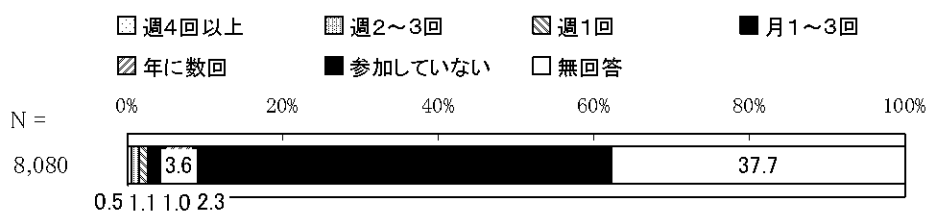
【年齢別】



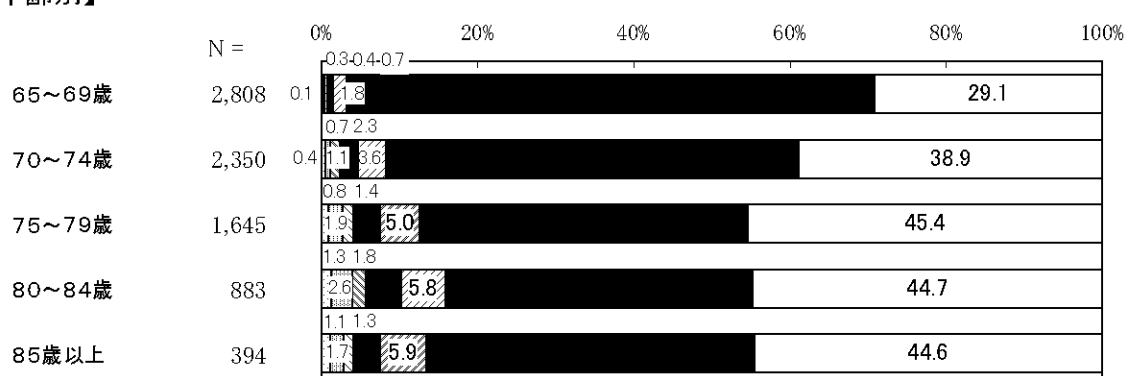
⑤ 老人クラブ

老人クラブの参加頻度については、「参加していない」が 53.8%と最も高く、次いで「無回答」が 37.7%、「年に数回」が 3.6%となっています。

年齢別でみると、“老人クラブに参加する方”の割合では、「80～84 歳」で 16.0%と最も多く、年齢が乖離するとともに低くなっています。



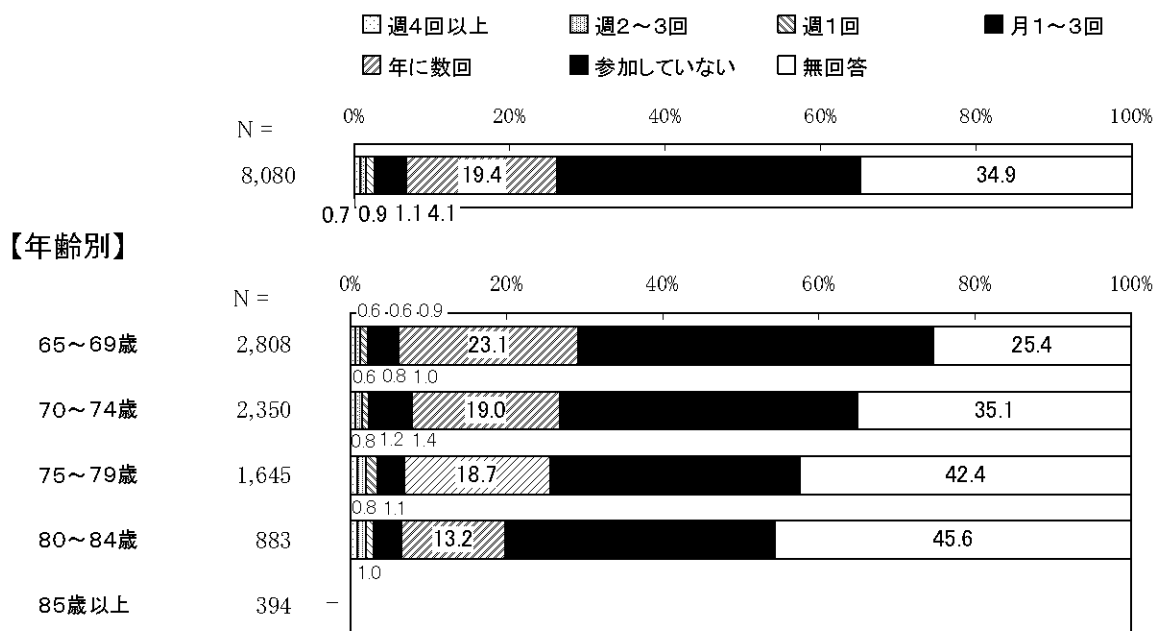
【年齢別】



⑥ 町内会・自治会

町内会・自治会の参加頻度については、「参加していない」が 39.0%と最も高く、次いで「無回答」が 34.9%、「年に数回」が 19.4%となっています。

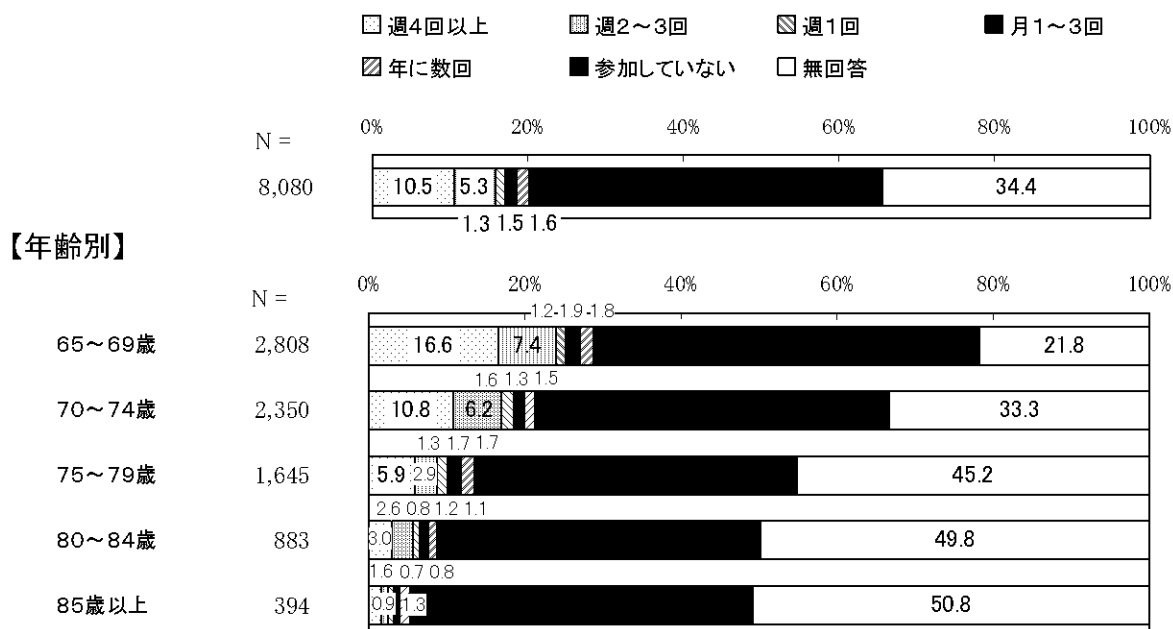
年齢別でみると，“町内会・自治会に参加する方”の割合では、「65～69 歳」が 29.1%と最も高く、年齢が上がるとともに低くなっています。



⑦ 収入のある仕事

収入のある仕事の参加頻度については、「参加していない」が 45.4%と最も高く、次いで「無回答」が 34.4%、「週4回以上」が 10.5%となっています。

年齢別でみると，“収入のある仕事に参加している方”の割合では、「65～69 歳」が 28.9%と最も高く、年齢が下がるとともに低くなっています。

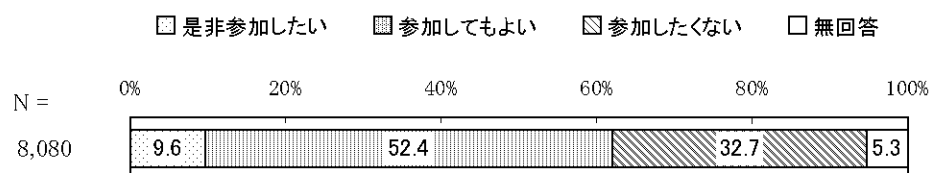


(4) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向

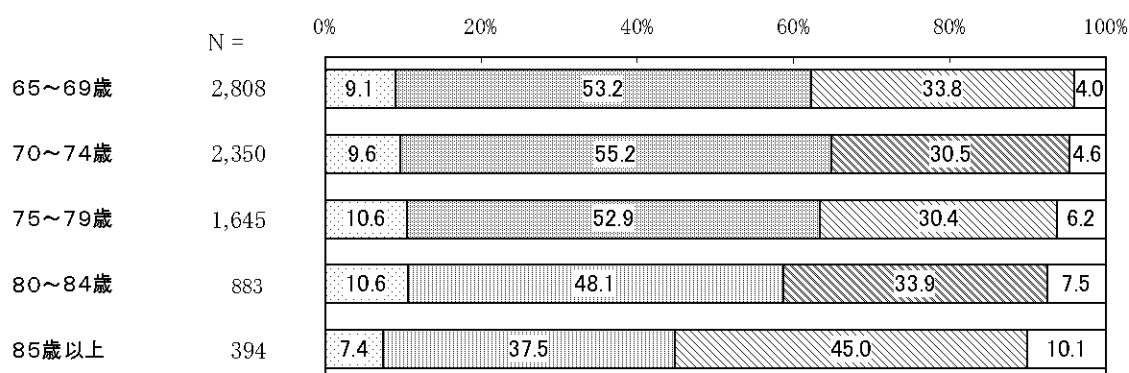
問8 Q12. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。＜○は1つ＞

「活動に参加者として参加してみたいと思うか」については、「参加してもよい」が52.4%と最も高く、次いで「参加したくない」が32.7%となっています。

年齢別でみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた方の割合は、「70～74歳」で64.8%と最も高く、年齢が乖離するごとに低くなっています。



【年齢別】

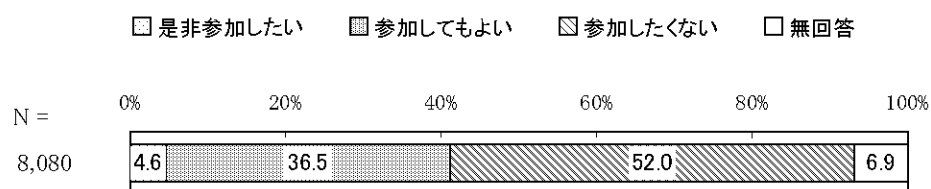


（５）健康づくり活動や趣味等のグループ活動への企画・運営への参加意向

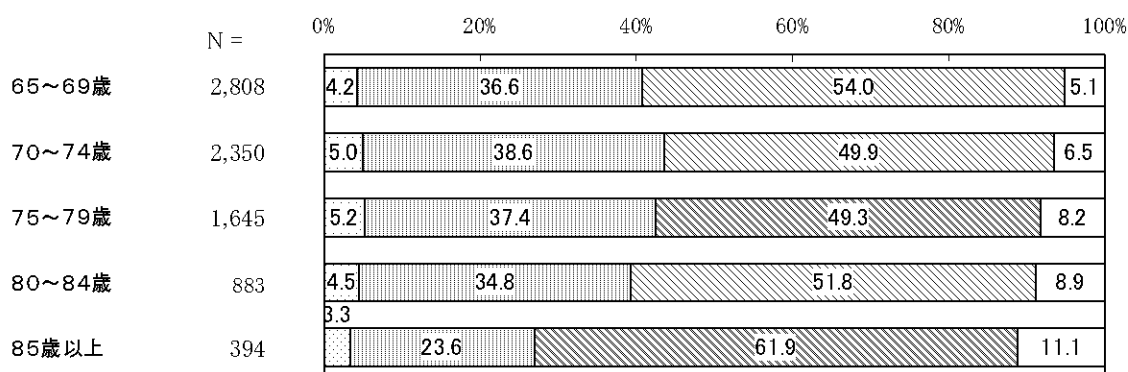
問 8 Q13. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。＜○は１つ＞

「活動に企画・運営として参加してみたいと思うか」については、「参加したくない」が 52.0% と最も高く、次いで「参加してもよい」が 36.5% となっています。

年齢別でみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた割合は、「70～74 歳」で 43.6% と最も高く、また 65～84 歳の各年齢階級で 4 割以上となっています。



【年齢別】



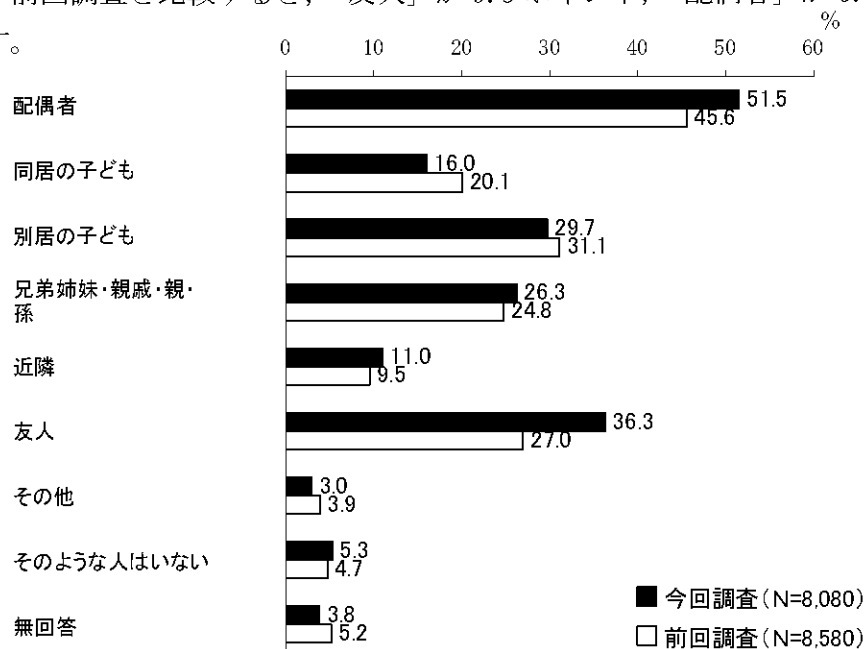
(6) たすけあいの状況

問8 Q14. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
 く(1)から(4)までそれぞれあてはまるものすべてに○

① あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人

「心配事や愚痴を聞いてくれる人」については、「配偶者」が51.5%と最も高く、次いで「友人」が36.3%、「別居の子ども」が29.7%となっています。

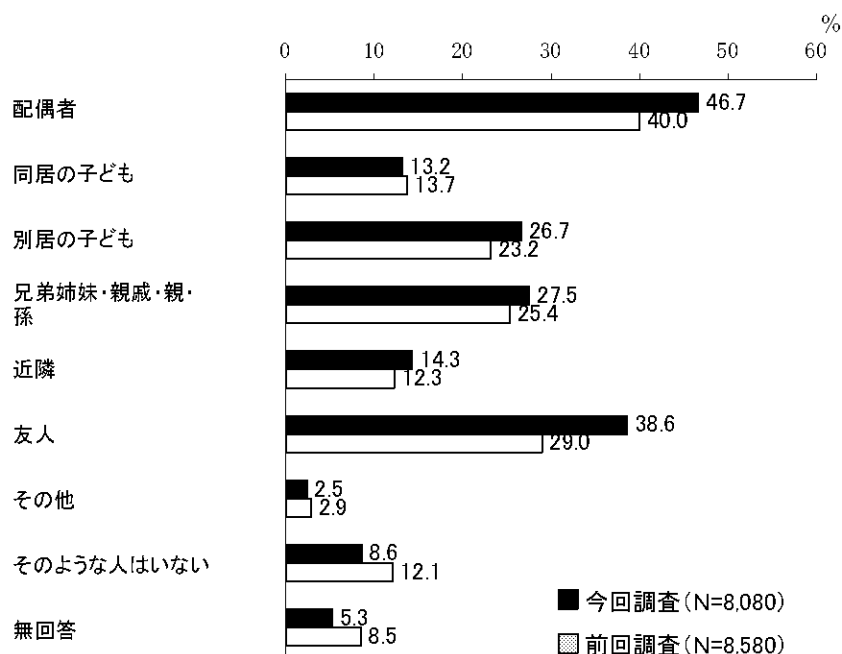
前回調査と比較すると、「友人」が9.3ポイント、「配偶者」が5.9ポイント増加しています。



② 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人

「心配事や愚痴を聞いてあげる人」については、「配偶者」が46.7%と最も高く、次いで「友人」が38.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が27.5%となっています。

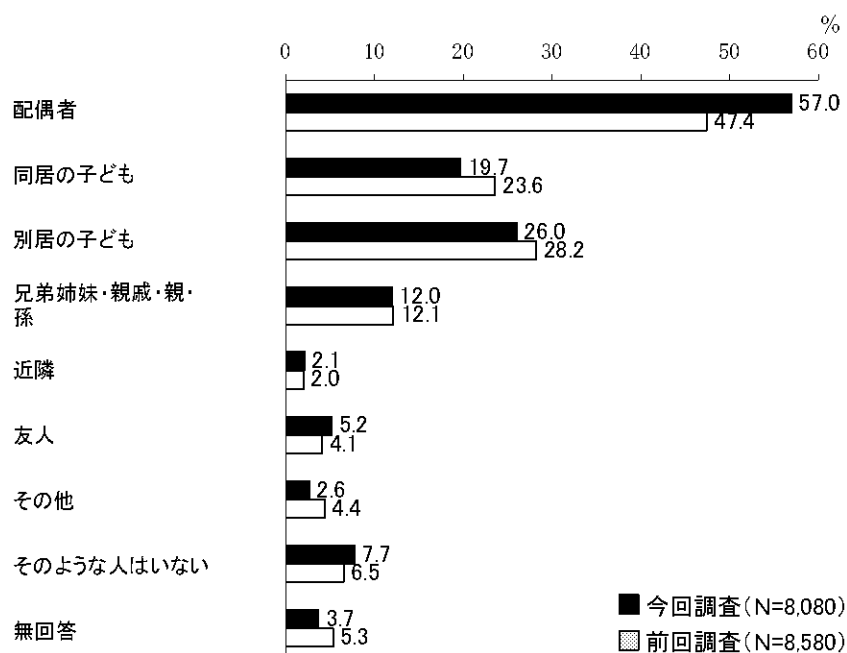
前回調査と比較すると、「友人」が9.6ポイント、「配偶者」が6.7ポイント増加しています。



③ あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

「病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人」については、「配偶者」が57.0%と最も高く、次いで「別居の子ども」が26.0%、「同居の子ども」が19.7%となっています。

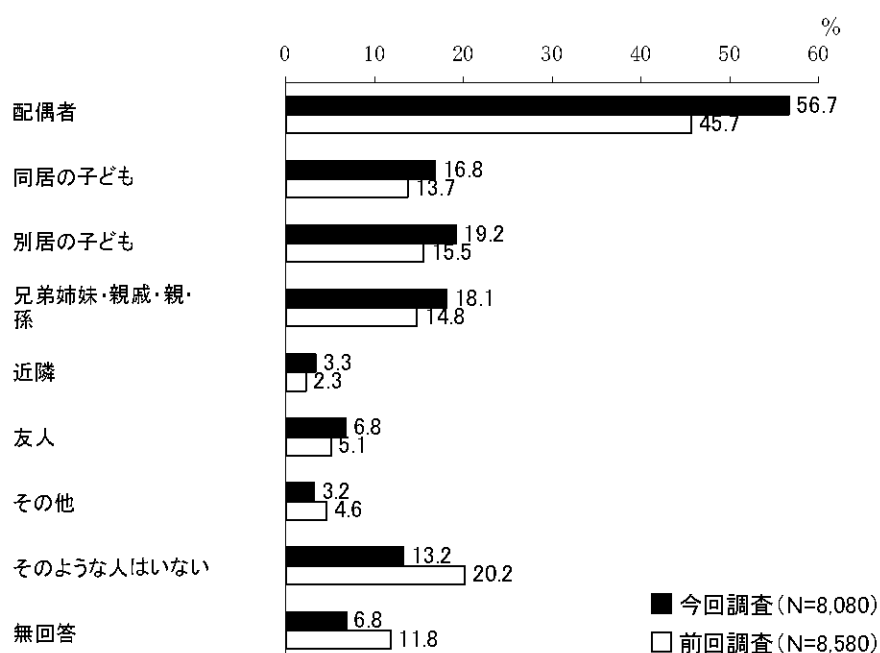
前回調査と比較すると、「配偶者」が9.6ポイント増加しています。



④ 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人

「看病や世話をしてあげる人」については、「配偶者」が56.7%と最も高く、次いで「別居の子ども」が19.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が18.1%となっています。

前回調査と比較すると、「配偶者」が11.0ポイント増加しています。一方で、「そのような人はいない」が7.0%と減少しています。



(7) 家族や友人・知人以外での相談相手

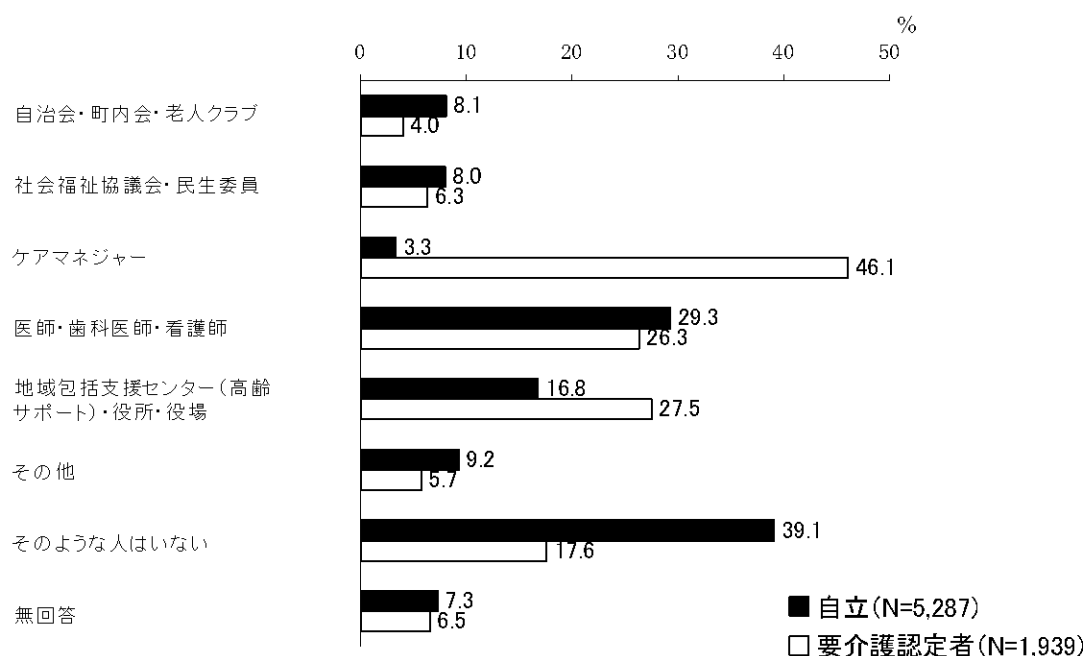
問8 Q15. あなたが家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。〈あてはまるものすべてに○〉

家族や友人・知人以外での相談相手については、「そのような人はいない」が32.5%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が27.9%、「地域包括支援センター（高齢サポート）・役所・役場」が18.9%となっています。

自立・要介護別でみると、「ケアマネジャー」は「要介護者」で「自立」より42.8ポイント高く、「地域包括支援センター（高齢サポート）・役所・役場」で10.7ポイント高くなっています。「そのような人はいない」は「自立」で「要介護者」より高くなっています。

家族構成別でみると、全体において、「地域包括支援センター（高齢サポート）・役所・役場」は「一人暮らし」で「家族など同居」より7.6ポイント高くなっています。「医師・歯科医師・看護師」、「そのような人はいない」は「家族など同居」で「一人暮らし」より高くなっています。要介護者において、「地域包括支援センター（高齢サポート）・役所・役場」は「一人暮らし」で「家族など同居」より高くなっています。自立において、「医師・歯科医師・看護師」「そのような人はいない」は「家族など同居」で「一人暮らし」より高くなっています。

【自立・要介護別】



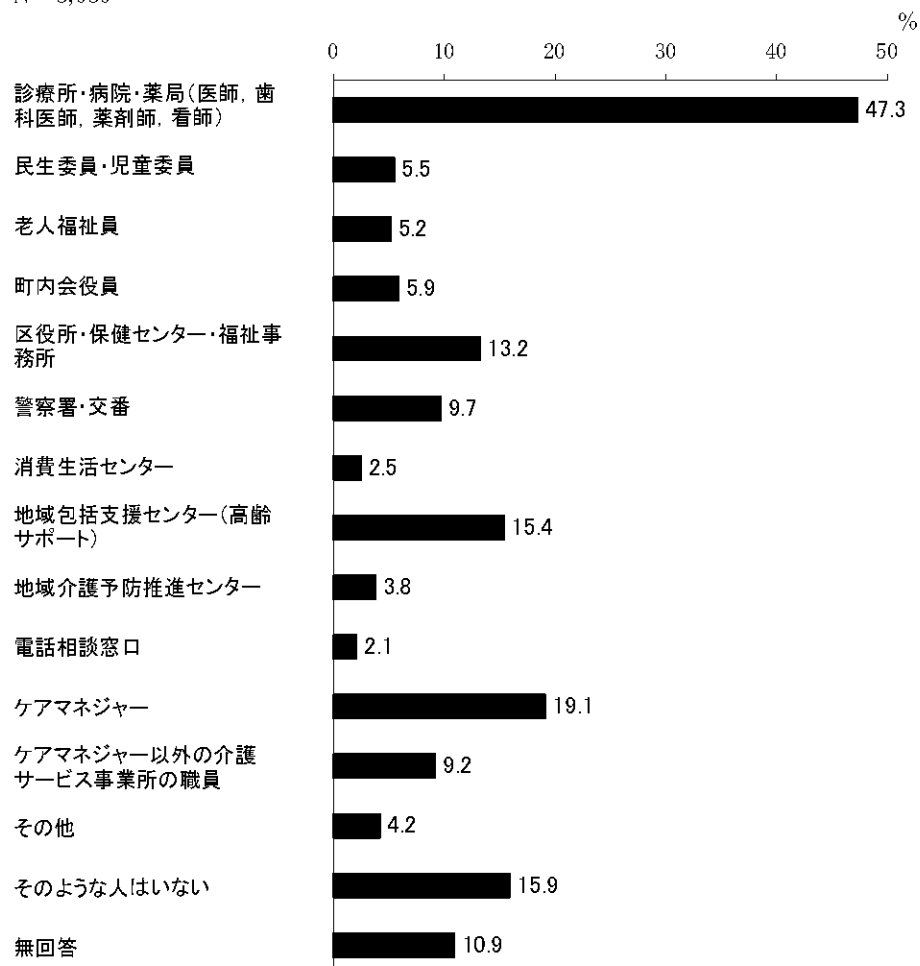
【家族構成別】

単位：％

区分		有効回答数 (件)	自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター(高齢サポート)・役所・役場	その他	そのような人はいない	無回答
全体	一人暮らし	1,819	6.3	11.1	16.6	27.0		6.4	23.1	9.2
	家族などと同居 (二世帯住宅を含む)	6,166	8.9	7.7	13.0	31.7		7.6	31.9	10.6
自立	一人暮らし	992	7.5	12.3	2.2	29.2		7.1	33.0	11.4
	家族などと同居 (二世帯住宅を含む)	4,832	11.8	11.1	4.1	40.0		10.1	44.2	11.5
要介護認定者	一人暮らし	575	4.5	10.2	47.9	29.2		6.8	11.8	7.3
	家族などと同居 (二世帯住宅を含む)	1,508	4.6	5.5	46.5		25.8	4.3		13.5

【参考：平成 25 年度】

N = 8,080



【家族構成別】

単位：％

区分		有効回答数（件）	診療所・病院・薬局（医師、歯科医師、薬剤師、看護師）	民生委員・児童委員	老人福祉員	町内会役員	区役所・保健センター・福祉事務所	警察署・交番	消費生活センター	地域包括支援センター（高齢サポート）	地域介護予防推進センター	電話相談窓口	ケアマネジャー	ケアマネジャー以外の介護サービス事業所の職員	その他	そのような人はいない	無回答
全体	一人暮らし	2,050	41.2	10.0	8.4	5.4	11.9	7.9	1.7	22.5	3.8	1.7	25.9	15.3	4.2	13.1	10.6
	家族などと同居（二世帯住宅を含む）	6,398	49.4	3.9	4.0	6.1	13.6	10.4	2.7	13.0	3.6	2.2	16.8	7.2	4.2	16.9	11.0

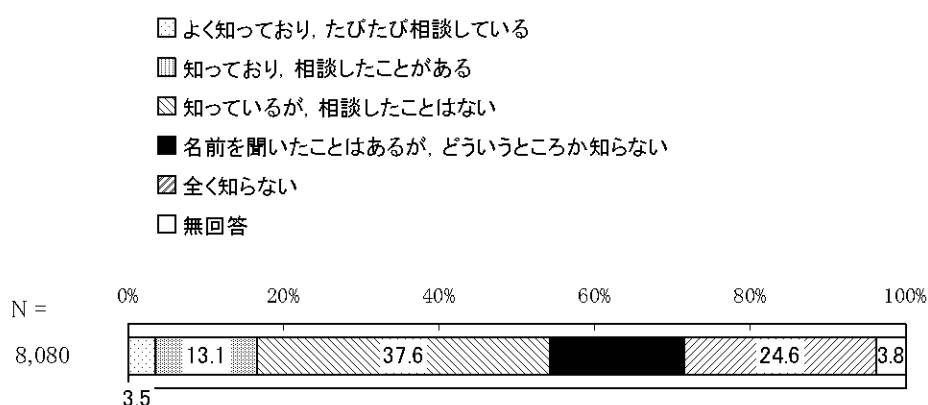
（８）地域包括支援センターの認知・利用状況

問 8 Q16. あなたは地域包括支援センター（愛称：高齢サポート）を知っていますか。また、相談したことはありますか。＜○は1つ＞

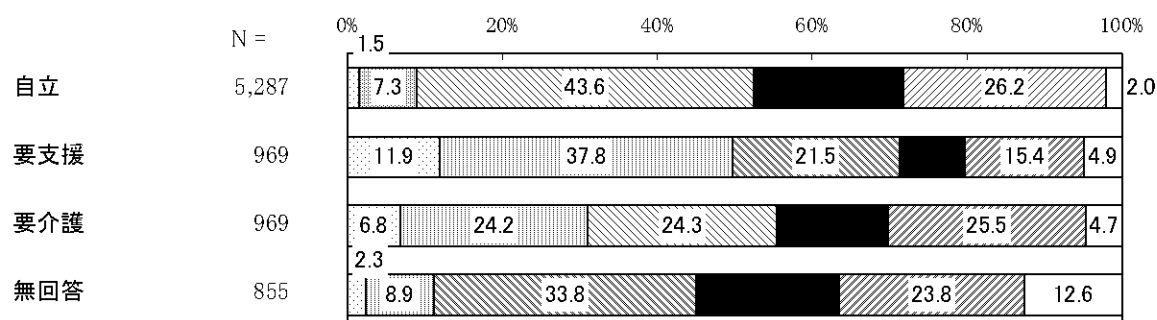
地域包括支援センター（高齢サポート）の認知・利用状況については、「知っているが、相談したことはない」が37.6%と最も高く、次いで「全く知らない」が24.6%、「名前を聞いたことはあるが、どういところか知らない」が17.3%となっています。

自立・要支援別でみると、「よく知っており、たびたび相談している」と「知っており、相談したことがある」、「知っているが、相談したことはない」を合わせた割合は、「要支援」で71.2%と、「自立」「要介護」より高くなっています。

家族構成別でみると、全体において「よく知っており、たびたび相談している」と「知っており、相談したことがある」、「知っているが、相談したことはない」を合わせた割合は、「一人暮らし」で75.1%と、「家族など同居」より12.9ポイント高くなっています。要支援、要介護において「よく知っており、たびたび相談している」と「知っており、相談したことがある」、「知っているが、相談したことはない」を合わせた割合は、「一人暮らし」で「家族などとの同居」より高くなっています。

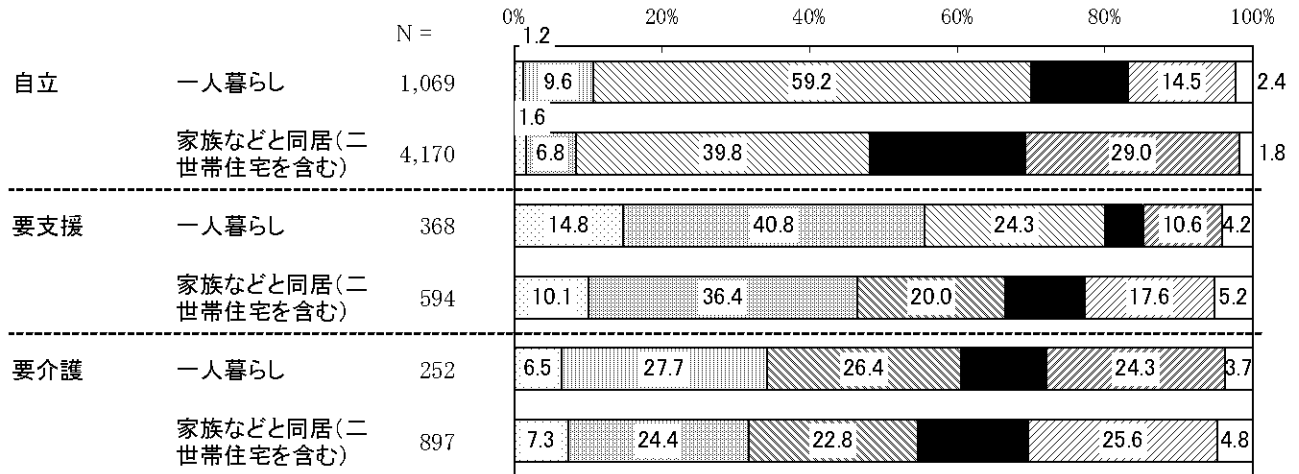


【自立、要介護度別】



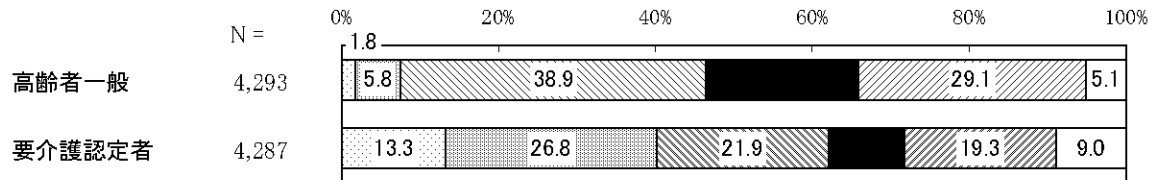
【家族構成別】

- ☐ よく知っており、たびたび相談している
- ☐ 知っており、相談したことがある
- ☐ 知っているが、相談したことはない
- ☐ 名前を聞いたことはあるが、どういところか知らない
- ☐ 全く知らない
- ☐ 無回答



【平成 25 年度調査結果】

- ☐ よく知っており、たびたび相談している
- ☐ 知っており、相談したことがある
- ☐ 知っているが、相談したことはない
- ☐ 名前を聞いたことはあるが、どういところか知らない
- ☐ 全く知らない
- ☐ 無回答



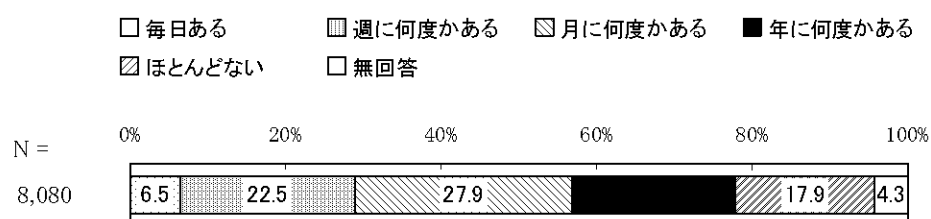
(9) 友だち・知人に会う頻度

問8 Q17. あなたの友人関係についておうかがいします。

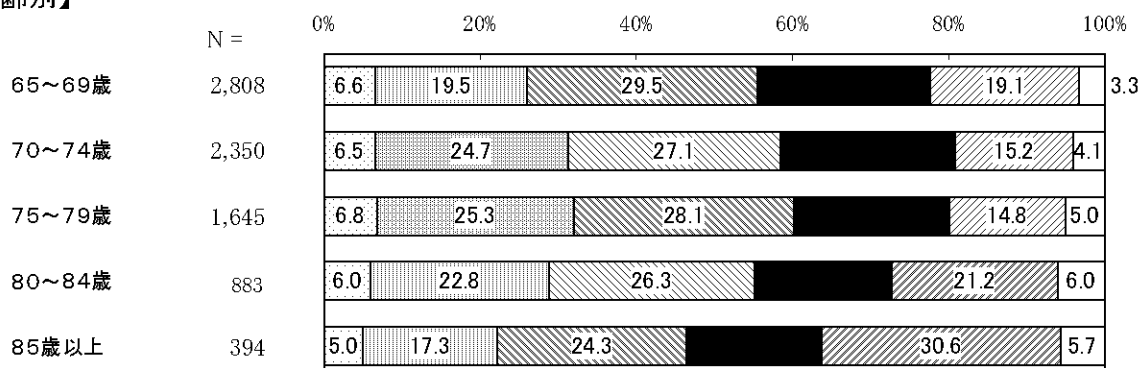
(1) あなたが友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。＜○は1つ＞

友人・知人と会う頻度については、「月に何度かある」が27.9%と最も高く、次いで「週に何度かある」が22.5%、「年に何度かある」が21.0%となっています。

年齢別でみると、友人・知人と頻度に関わらず会っている方の割合では、「70～74歳」で80.7%と最も高く、65～84歳で、7割以上となっています。一方、「85歳以上」で「ほとんどない」が30.6%を占めています。



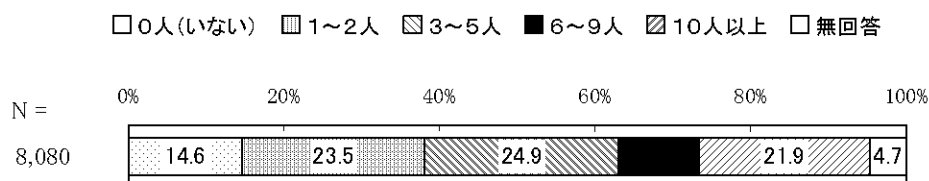
【年齢別】



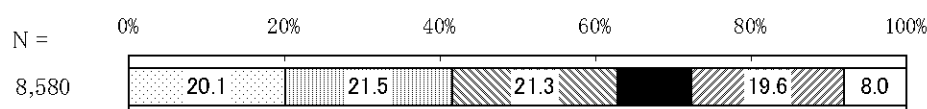
(2) あなたはこの1箇月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。＜○は1つ＞

この1箇月間に会った友人・知人の人数は、「3～5人」が24.9%と最も高く、次いで「1～2人」が23.5%、「10人以上」が21.9%となっています。

前回調査と比較すると、「0人 (いない)」が5.5ポイント減少しています。



【前回調査 (平成 25 年)】

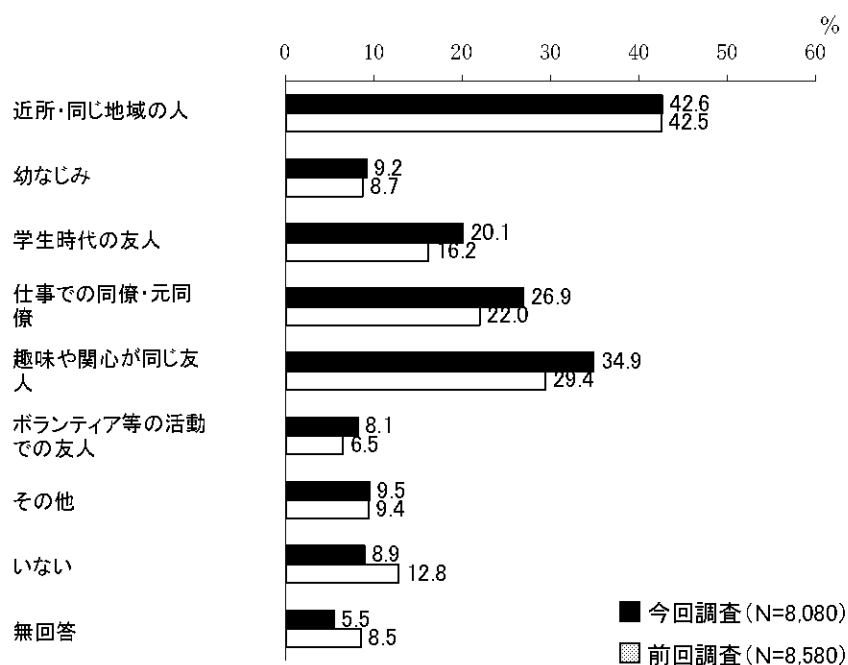


(3) あなたがよく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。

<あてはまるものすべてに○>

よく会う友人・知人との関係については、「近所・同じ地域の人」が 42.6%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が 34.9%、「仕事での同僚・元同僚」が 26.9%となっています。

前回調査と比較すると、「趣味や関心が同じ友人」は 5.5 ポイント増加しています。



9 健康について（問9）

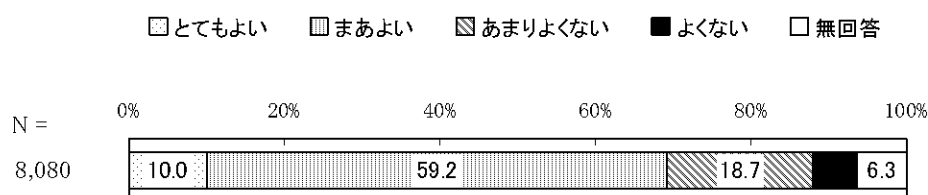
（1）主観的健康観

問9 Q 1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか。＜○は1つ＞

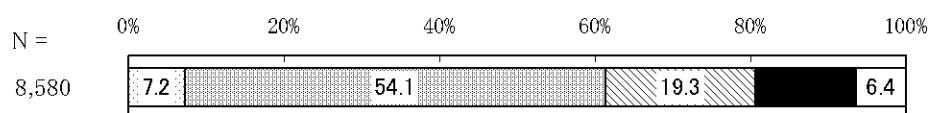
「健康状態」については、「まあよい」が 59.2%と最も高く、次いで「あまりよくない」が 18.7%、「とてもよい」が 10.0%となっています。「とてもよい」と「まあよい」を合わせた“よい”の割合は 69.2%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた“よくない”の割合は 24.4%となっています。

前回調査と比較すると，“よい”の割合は 7.9 ポイント増加しています。

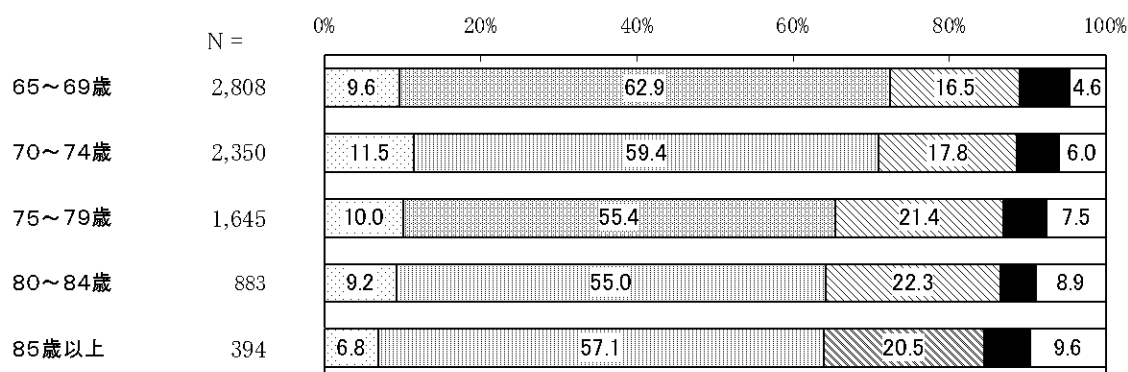
年齢別でみると，“よい”の割合は、「65～69 歳」で 72.5%と最も高く、年齢が上がるとともに減少しています。



【前回調査（平成 25 年）】



【年齢別】



(2) 現在治療中の病気

問9 Q2. あなたは現在治療中又は後遺症のある病気はありますか。
 <あてはまるものすべてに○>

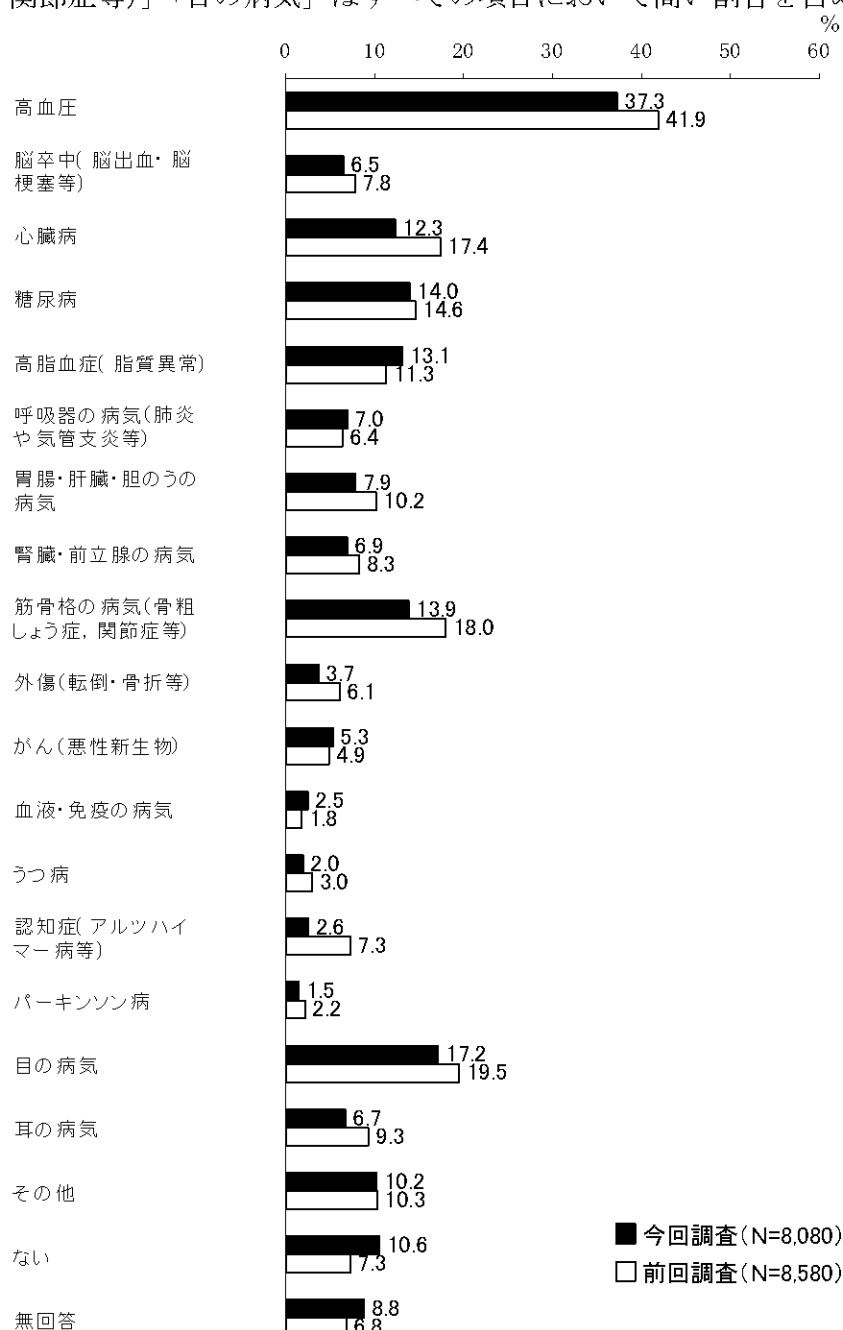
「現在治療中又は後遺症のある病気」については、「高血圧」が37.3%と最も高く、次いで「目の病気」が17.2%、「糖尿病」が14.0%となっています。

前回調査と比較すると、「心臓病」が5.1ポイント減少しています。

年齢別でみると、「高血圧」「心臓病」「腎臓・前立腺の病気」「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」「外傷（転倒・骨折等）」「認知症（アルツハイマー病等）」「目の病気」「耳の病気」は年齢が上がるとともに高くなっています。

要介護度別でみると、全ての要介護度で「高血圧」の割合が30%以上と最も高くなっています。「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」は要介護度が上がるにつれて、割合が高くなる傾向にあります。

日常生活の中での不自由点別でみると、「高血圧」「心臓病」「糖尿病」「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」「目の病気」はすべての項目において高い割合を占めています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数(件)		脳卒中(脳出血・脳梗塞等)		糖尿病	高脂血症(脂質異常)	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	胃腸・肝臓・胆のうの病気				がん(悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病		パーキンソン病			その他	ない	無回答
65～69 歳	2,808	31.9	7.0	8.4	13.9	15.8	6.4	7.8	5.1	10.2	3.5	6.0	2.6	2.1	2.3	1.7	12.8	4.7	12.1	14.2	8.4
70～74 歳	2,350	39.7	7.4	11.5	14.1	13.1	6.8	7.1	6.3	13.0	3.2	4.8	2.7	2.1	2.0	1.6	17.4	6.3	9.5	9.6	9.5
75～79 歳	1,645	39.7	5.6	15.0	14.4	11.4	8.2	8.2	8.6	17.6	3.5	5.5	2.4	2.1	2.4	1.3	21.1	7.6	10.0	8.5	8.5
80～84 歳	883	41.1	5.2	18.9	14.3	10.6	7.5	9.2	9.6	18.6	5.1	5.1	2.5	1.1	4.1	1.2	20.9	10.0	7.9	6.7	9.1
85 歳以上	394	42.2	4.3	18.9	11.6	7.3	5.7	8.3	10.5	18.9	5.9	4.4	1.0	1.1	5.8	0.8	22.5	12.2	7.6	7.1	8.9

【要介護度別】

単位：％

区分	有効回答数(件)		脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症(脂質異常)	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	外傷(転倒・骨折等)	がん(悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	ない	無回答
要支援1	430		6.6	17.4	15.2	11.2	6.2	9.0	6.9	24.4	5.9	6.8	2.6	2.6	3.0	1.6	20.2	10.3	9.8	1.4	5.5
要支援2	480		10.9	21.7	16.8	8.8	9.2	12.9	9.7	29.5	7.6	7.2	4.1	4.7	2.7	3.3	24.7	11.1	12.7	2.3	3.5
要介護1	265		10.9	19.5	15.8	7.0	9.9	7.9	7.9	20.8	7.6	6.6	3.0	2.6	16.5	5.0	16.2	6.6	10.5	3.3	4.3
要介護2	301		23.7	16.8	20.8	7.6	11.1	8.1	9.3	24.7	10.2	10.0	5.5	3.9	16.3	3.9	21.3	9.3	11.1	1.2	3.9
要介護3	191		28.4	19.0	17.9	7.3	11.7	10.1	8.4	16.7	13.4	5.0	3.3	3.9	26.3	7.3	15.7	7.8	11.7	1.7	6.1
要介護4	97		31.7	19.0	16.9	3.1	15.8	12.7	11.6	17.9	8.4	8.4	1.0	5.3	21.1	5.3	25.3	13.7	10.5	2.1	5.3
要介護5	105		29.9	13.8	18.7	8.7	10.0	3.8	11.2	13.8	2.5	6.2	2.5	2.5	34.8	16.2	14.9	3.8	13.8	2.5	4.9

【日常生活の中の不自由点別】

単位：％

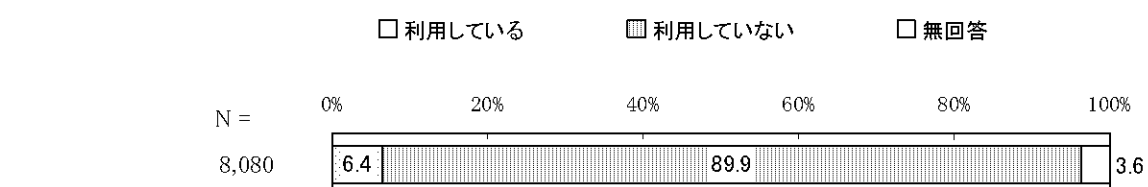
区分	有効回答数 (件)	高血圧	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症 (脂質異常)	呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)	外傷 (転倒・骨折等)	がん (悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症 (アルツハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	ない	無回答
食事の準備・後片付けをすること	1,059		8.7			9.3	9.7	9.9	10.5		6.2	5.3	2.5	3.5	5.7	2.2		11.3	8.5	3.9	5.5
掃除・ごみ出し・洗濯などの家事をすること	1,048		8.1			8.6	8.9	9.3	9.9		6.4	5.9	2.7	2.8	4.8	1.8		9.4	9.0	3.8	5.4
衣服の着脱・食事・入浴に関すること	676		17.1			6.0	9.3	8.2	8.7		9.4	6.7	2.8	3.0	11.7	4.4		10.3	9.3	3.8	3.6
身体機能の維持・向上のための運動教室を受ける場がないこと	602		10.0			12.9	10.2	10.9	12.7		3.8	8.0	4.9	1.8	3.5	1.7		10.7	10.2	6.9	6.0
段差や間取り、耐震など住まいの建物構造に関すること	1,055		5.4			14.6	8.8	10.6	9.8		7.1	6.6	3.5	2.2	2.5	0.8		9.8	12.1	6.8	7.6
契約や財産管理の手続きをすること	448		5.1			12.2	5.7	10.3	7.1		4.9	4.2	3.1	2.6	6.2	0.8		10.0	6.9	6.5	4.6
相談に乗ってもらえる人が身近にいないこと	361		5.3			9.7	10.6	10.9	15.4		6.2	7.1	2.1	2.9	3.5	1.5		11.8	14.1	8.5	8.0
外出時の移動が負担であること	713		11.3			8.8	9.0	7.3	9.3		7.2	6.6	2.0	2.1	7.6	3.0		9.7	9.9	1.7	4.0
病院に通院すること	602		10.6			8.5	9.5	9.1	12.3		7.6	8.7	3.2	2.8	6.5	2.3		12.2	8.3	1.6	4.0
近くに話し相手がいらないこと	496		4.5			10.6	8.2	10.2	9.7		3.4	6.2	2.6	3.3	4.0	1.6		9.2	9.5	6.1	9.0
自分を介助する家族などの負担が大ききこと	317		20.1			6.2	12.1	8.5	10.5		10.1	7.0	3.1	1.8	17.8	6.2		9.0	10.3	1.5	2.8
買い物したり、荷物を持ち運ぶこと	1,143		5.9			9.5	7.3	10.0	7.2		7.3	5.3	2.6	2.0	3.5	1.4		9.3	9.3	3.2	4.3
高齢者どうし、また、高齢者と若者や子供との世代を超えた交流が行えるような居場所がないこと	481		3.3			11.6	6.8	9.6	10.7		3.1	6.2	3.3	2.9	2.7	1.4		11.4	9.4	6.4	6.7
住宅の軽微な修繕に関すること	1,173		5.6			13.7	8.2	10.9	9.6		5.7	5.9	3.0	2.2	2.1	0.2		9.2	11.1	7.7	6.1
電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等をすること	1,624		4.9			11.6	5.8	8.8	7.2		5.7	4.8	2.4	1.7	1.9	0.8		8.5	9.5	4.9	5.8
その他	686		4.1			14.8	6.2	10.3	8.8		3.0	6.4	1.5	0.9	3.2	1.1		8.9	15.6	16.0	6.4

(3) 訪問診療の利用状況

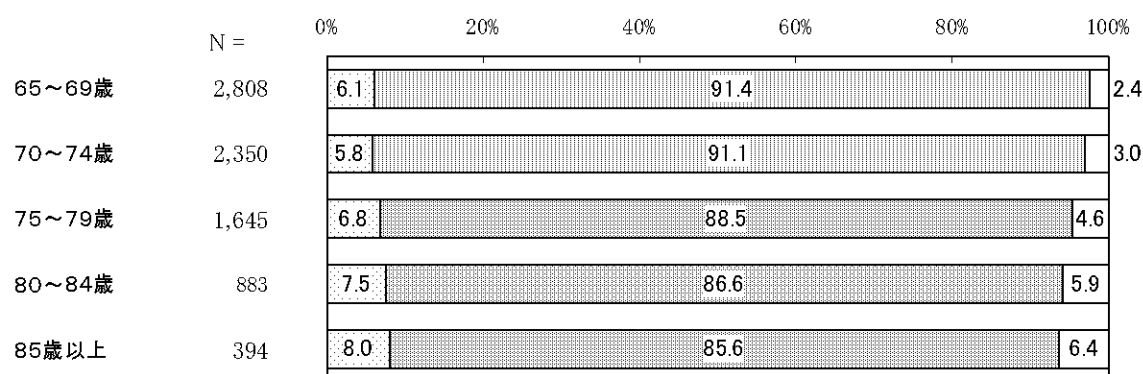
問9 Q3. あらかじめ、かかりつけ医等の医師が診療計画を立てて、月1～2回程度定期的に患者さんの居宅に訪問することを訪問診療といいます。あなたは、現在、訪問診療を利用していますか。＜○は1つ＞

「現在、訪問診療を利用しているか」については、「利用している」が6.4%、「利用していない」が89.9%となっています。

年齢別でみると、「利用している」の割合は、「85歳以上」で8.0%と最も高く、年齢が上がるとともに高くなっています。



【年齢別】

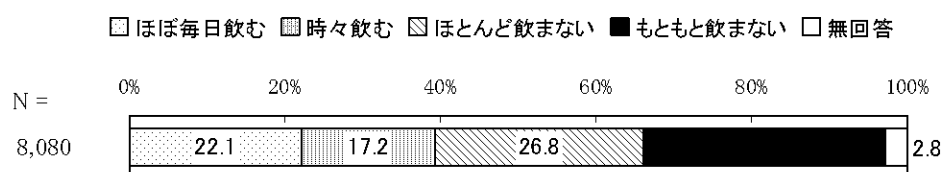


(4) 飲酒の状況

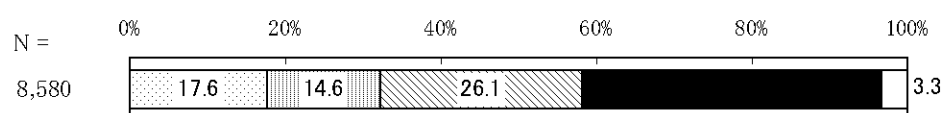
問9 Q4. あなたはお酒を飲みますか。＜○は1つ＞

「お酒を飲むか」については、「もともと飲まない」が31.1%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が26.8%、「ほぼ毎日飲む」が22.1%となっています。「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた“飲む”の割合は39.3%、「ほとんど飲まない」と「もともと飲まない」を合わせた“飲まない”の割合は57.9%となっています。

前回調査と比較して、“飲む”の割合は7.1ポイント増加しています。



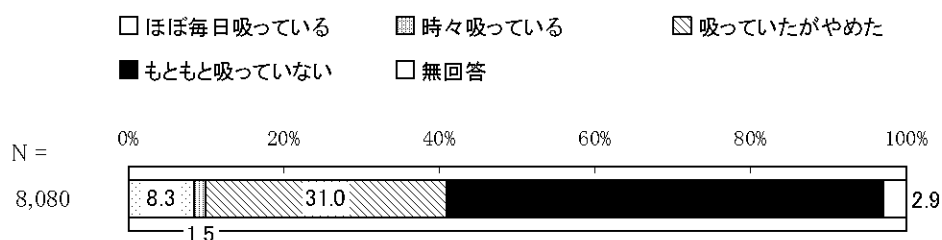
【前回調査（平成25年）】



（５）喫煙習慣

問９Ｑ５．あなたはタバコを吸っていますか。＜○は１つ＞

「タバコを吸っているか」については、「もともと吸っていない」が 56.3%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が 31.0%となっています。

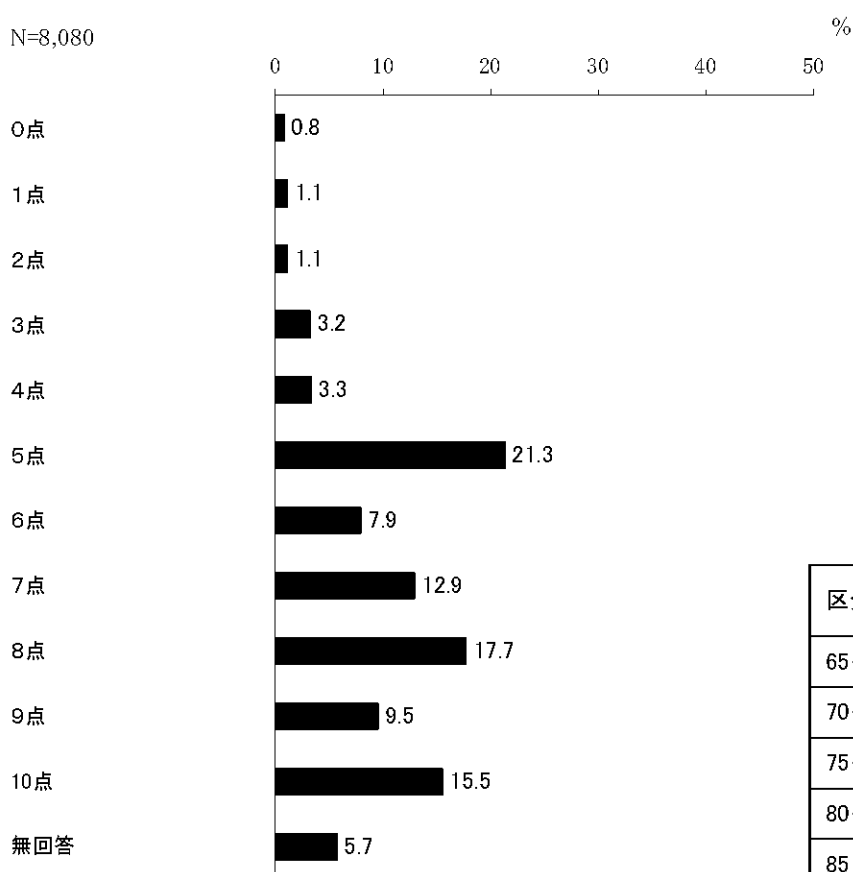


（６）現在の幸せの程度

問９Ｑ６．あなたは現在どの程度幸せですか（「とても不幸」を 0 点, 「とても幸せ」を 10 点として, 御記入ください。）＜○は１つ＞

現在の幸せの程度では、「5 点」が 21.3%と最も高く、次いで「8 点」が 17.7%, 「10 点」が 15.5%となっています。

年齢別でみると, 各年齢階級の現在の幸せの程度の点数を平均化して比較すると, 「85 歳以上」が 7.24 点と最も高く, 年齢が上がるとともに評価が高くなっています。



区分	平均点
65～69 歳	6.66
70～74 歳	6.83
75～79 歳	6.81
80～84 歳	7.18
85 歳以上	7.24

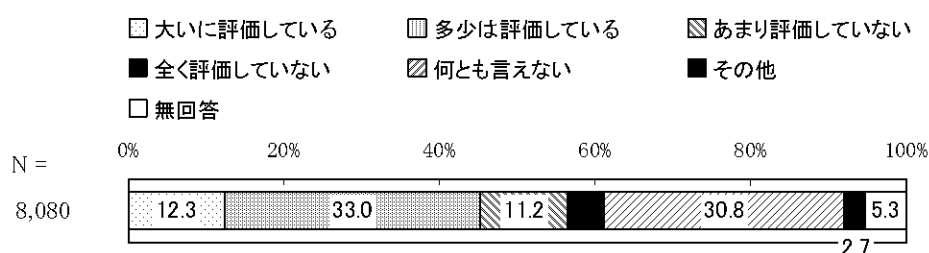
10 介護保険制度等について（問 10）

（１）介護保険制度への評価

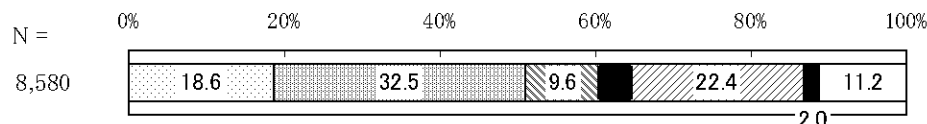
問 10Q 1. あなたの介護保険制度への評価として、御自身の考えに近いものは次のどれですか。＜○は１つ＞

介護保険制度への評価については、「多少は評価している」が 33.0%と最も高く、次いで「何とも言えない」が 30.8%、「大いに評価している」が 12.3%となっています。「大いに評価している」と「多少は評価している」を合わせた“評価している”の割合は 45.3%、「あまり評価していない」と「全く評価していない」を合わせた“評価していない”の割合は 15.9%となっています。

前回調査と比較して，“評価している”の割合は 5.8 ポイント減少しています。



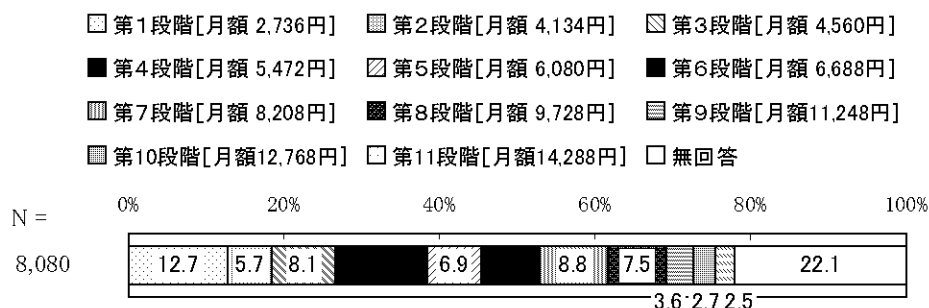
【前回調査（平成 25 年）】



（２）介護保険料の「段階区分」

問 10Q 2. あなたの介護保険料の「段階区分」は次のどれですか。＜○は１つ＞

回答者の介護保険料の段階区分については、「第 1 段階 [月額 2,736 円]」が 12.7%と最も高く、次いで「第 4 段階 [月額 5,472 円]」が 11.9%、「第 7 段階 [月額 8,208 円]」が 8.8%となっています。

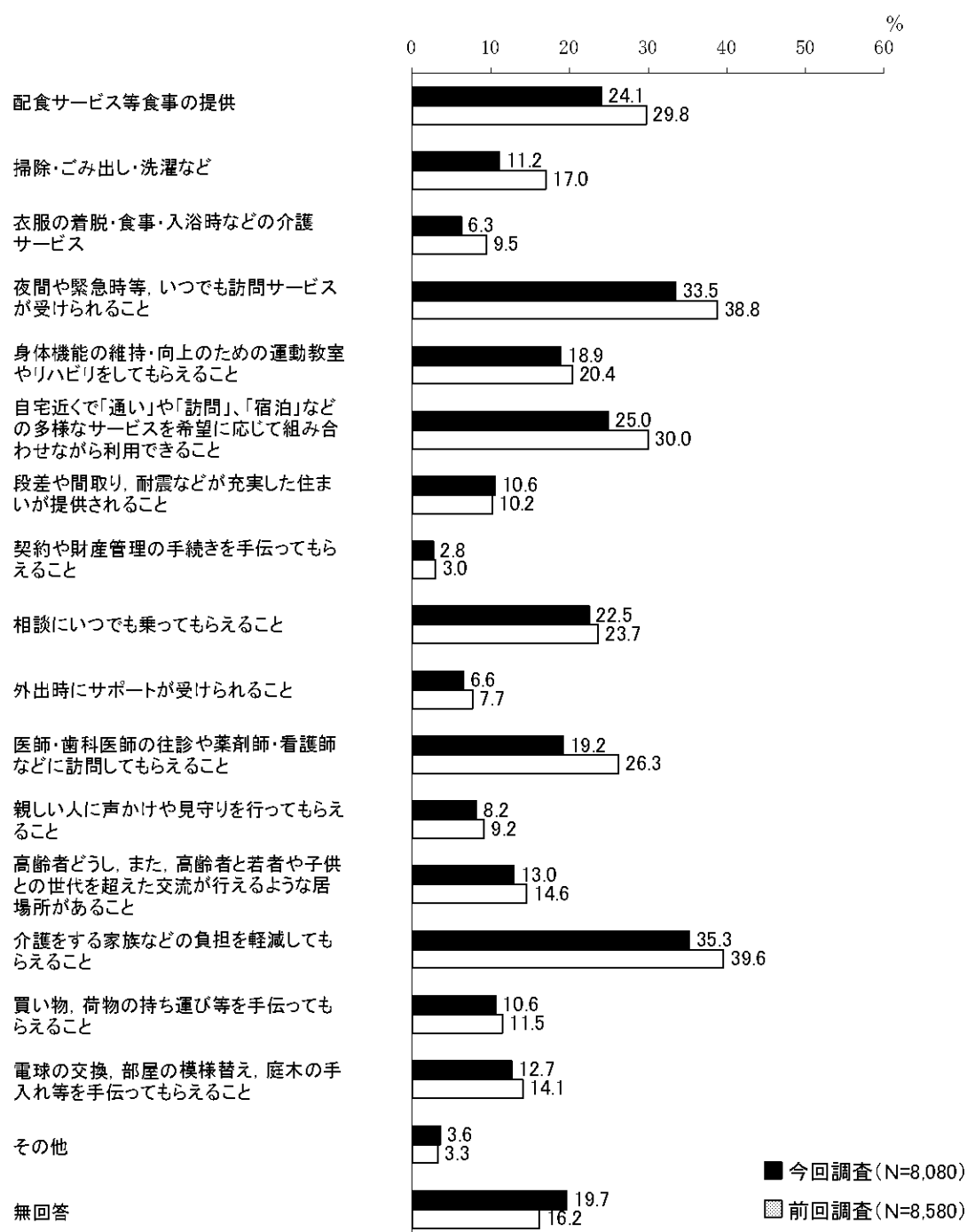


(3) 住み慣れた地域での継続生活で充実すべき支援

問 10Q 3. あなたは、今後も住み慣れた地域で生活をするには、どのような支援を充実すべきだと思いますか。＜○は5つまで。うち最もそう感じるものに◎＞

住み慣れた地域での継続生活で充実すべき支援については、「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が35.3%と最も高く、次いで「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が33.5%、「自宅近くで「通い」や「訪問」「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせて利用できること」が25.0%となっています。

前回調査と比較すると、「掃除・ごみ出し・洗濯など」が5.8ポイント、「配食サービス等食事の提供」が5.7ポイント減少しています。一方、「無回答」が3.5ポイント増加しています。



年齢別でみると、「医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること」「電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等を手伝ってもらえること」では概ね年齢が上がるにつれて割合が高くなる傾向があります。「身体機能の維持・向上のための運動教室やリハビリをしてもらえること」「自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること」「段差や間取り、耐震などが充実した住まいが提供されること」「相談にいつでも乗ってもらえること」「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」では年齢が上がるにつれて割合が低くなっています。

要介護度別でみると、「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」と「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」では、要介護3で低くなっている点を除けば概ね要介護度が上がるとともに高くなっています。「自宅近くで「通い」や「訪問」「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること」では要介護1～要介護5で20%以上と要支援よりなっています。「配食サービス等食事の提供」では、要支援2～要介護5で20%以上と高くなっています。どの要介護度でも高くなっています。「医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師等に訪問してもらえること」では、要介護5で最も高くなっています。

家族構成別でみると、「一人暮らし」では、「買い物、荷物の持ち運び等を手伝ってもらえること」と「電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等を手伝ってもらえること」は「家族などとの同居」より高くなっています。一方、「家族などとの同居」では、「身体機能の維持・向上のための運動教室やリハビリをしてもらえること」「自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること」「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」「医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること」は「一人暮らし」より高くなっています。

【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	配食サービス等食事の提供	掃除・こみ出し・洗濯など	衣服の着脱・食事・入浴時などの介護サービスなど	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること	身体機能の維持・向上のための運動教室やリハビリを してもらえること	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサ ビスを希望に応じて組み合わせながら利用できること	段差や間取り、耐震などが充実した住まいが提供され ること	契約や財産管理の手続きを手伝ってもらえること	相談にいつでも乗ってもらえること	外出時にサポートが受けられること		親しい人に声かけや見守りを行ってもらえること	高齢者どうし、また、高齢者と若者や子供との世代を 超えた交流が行えるような居場所があること	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること	買い物、荷物の持ち運び等を手伝ってもらえること		その他	無回答
65～69 歳	2,808	25.1	11.7	7.1	33.2	20.5	26.8	11.4	3.6	23.3	7.6	18.5	8.4	12.8	38.8	9.7	10.8	3.6	16.9
70～74 歳	2,350	24.9	10.3	6.0	34.4	20.8	27.8	11.0	2.0	23.9	5.5	18.2	7.8	14.7	34.8	10.7	12.6	3.4	18.2
75～79 歳	1,645	22.3	10.3	5.0	32.9	16.8	22.6	10.6	2.4	20.6	5.9	19.9	8.1	11.8	32.8	11.2	14.3	3.8	23.4
80～84 歳	883	23.1	12.6	6.3	34.6	15.9	20.3	8.7	3.1	21.7	7.0	21.3	9.1	12.4	32.3	12.0	15.0	3.6	22.8
85 歳以上	394	21.7	12.4	7.5	30.4	12.3	15.7	6.6	2.0	18.6	6.7	22.9	8.4	10.0	29.9	11.6	14.8	3.3	25.8

【要介護度別】

単位：％

区分	有効回答数（件）	配食サービス等食事の提供	掃除・こみ出し・洗濯など	衣服の着脱・食事・入浴時などの介護サービスなど	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること	身体機能の維持・向上のための運動教室やリハビリをしてくれること	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること	段差や間取り、耐震などが充実した住まいが提供されること	契約や財産管理の手続きを手伝ってもらえること	相談にいつでも乗ってもらえること	外出時にサポートが受けられること	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること	親しい人に声かけや見守りを行ってもらえること	高齢者どうし、また、高齢者と若者や子供との世代を超えた交流が行えるような居場所があること	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること	買い物、荷物の持ち運び等を手伝ってもらえること	電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等を手伝ってもらえること	その他	無回答
要支援1	430	18.4	13.1	5.3		17.4	15.7	8.2	1.8	17.0	7.1	17.6	8.0	9.8	19.3	15.4	17.0	2.5	21.8
要支援2	480		21.7	8.4		17.1	19.2	8.8	2.1	20.6	9.9	15.0	11.3	9.0	26.4	22.7	25.4	2.3	20.2
要介護1	265		15.1	12.9		20.8		11.2	2.4	19.2	15.8	17.8	7.2	7.6		12.9	16.5	1.3	15.1
要介護2	301		21.1	17.8		16.6		7.8	1.5	15.3	14.5	24.1	7.6	8.1		16.3	13.6	3.0	14.7
要介護3	191		13.4	29.6		21.2		11.2	3.9	11.2	17.3	17.9	3.9	3.9		11.2	10.6	2.8	27.9
要介護4	97		10.5	23.2		25.3		10.5	1.0	12.7	10.5	25.3	3.1	2.1		9.5	6.4	2.1	23.2
要介護5	105		13.8	28.6		21.2		7.4	2.5	13.8	13.8		7.4	4.9		8.7	2.5	6.2	24.9

【家族構成別】

単位：％

区分	有効回答数（件）	配食サービス等食事の提供	掃除・こみ出し・洗濯など	衣服の着脱・食事・入浴時などの介護サービスなど	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること	身体機能の維持・向上のための運動教室やリハビリをしてくれること	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること	段差や間取り、耐震などが充実した住まいが提供されること	契約や財産管理の手続きを手伝ってもらえること	相談にいつでも乗ってもらえること	外出時にサポートが受けられること	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること	親しい人に声かけや見守りを行ってもらえること	高齢者どうし、また、高齢者と若者や子供との世代を超えた交流が行えるような居場所があること	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること	買い物、荷物の持ち運び等を手伝ってもらえること	電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等を手伝ってもらえること	その他	無回答
一人暮らし	1,819	23.0	14.3	5.5	32.9	13.3	17.8	8.6	2.7	21.4	5.8	14.7	10.0	11.2	14.8		21.7	3.5	20.5
家族などとの同居（二世帯世帯）	6,166	24.5	11.0	6.7	33.9			10.3	2.7	22.2	6.8		7.9	12.8		9.8	11.1	3.7	22.1

(4) 介護が必要になった場合の介護を受けたい場所

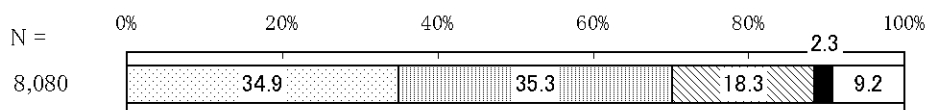
問 10Q 4. あなたはもし、御自身に介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいですか。〈○は1つ〉

「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が 35.3%と最も高く、次いで「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が 34.9%、「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」が 18.3%となっています。

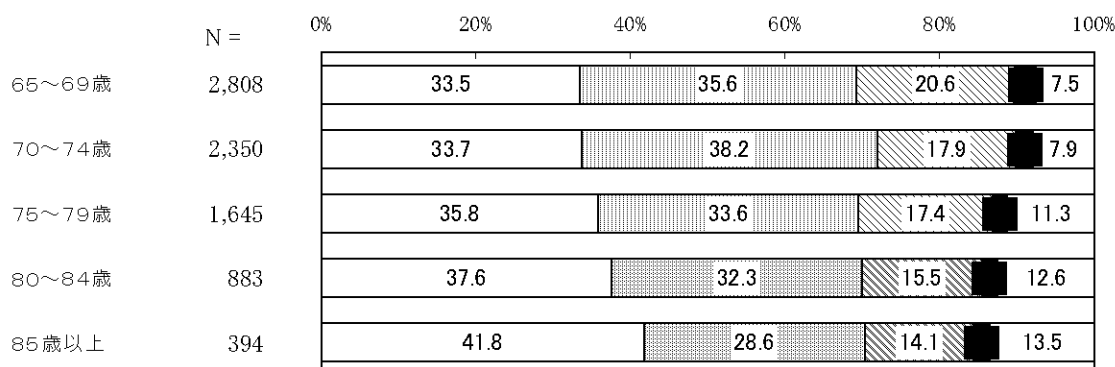
年齢別でみると、「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が年齢が上がるとともに高くなっています。

要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれ、「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」が低くなる傾向にあります。

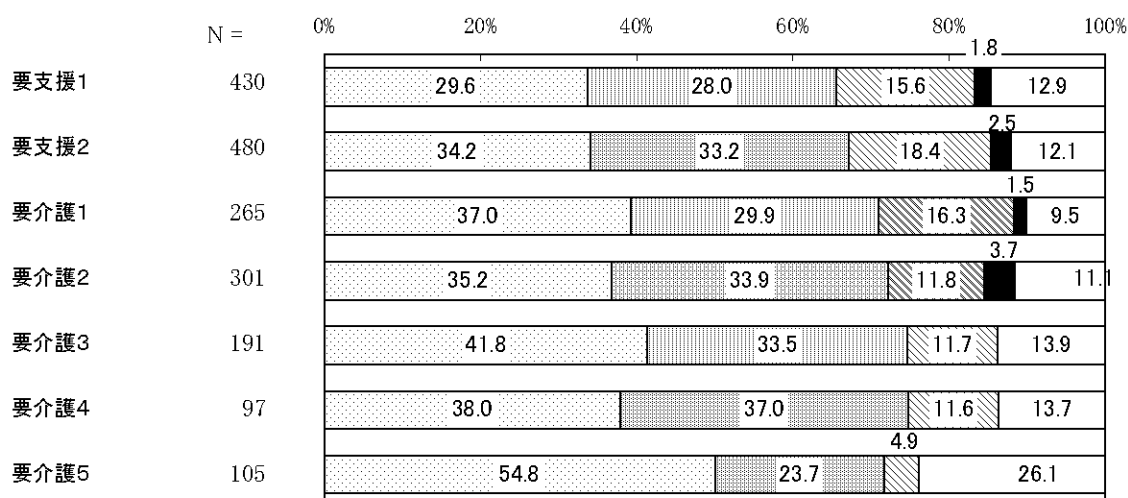
- できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい
- ▨ できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい
- ▤ 早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい
- その他
- 無回答



【年齢別】



【要介護度別】



(5) 希望する介護形態

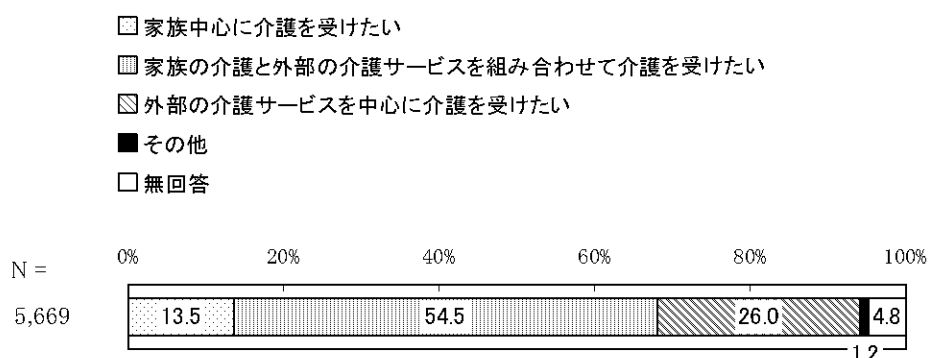
問 10Q4-1. Q4で「1. できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」又は「2. できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」と回答した方にお聞きします。
どのような介護を希望しますか。〈○は1つ〉

できるだけ自宅で介護を受けたいと回答した人に、どのような介護を希望するかについてたずねたところ、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が 54.5%と最も高く、次いで「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が 26.0%、「家族中心に介護を受けたい」が 13.5%となっています。

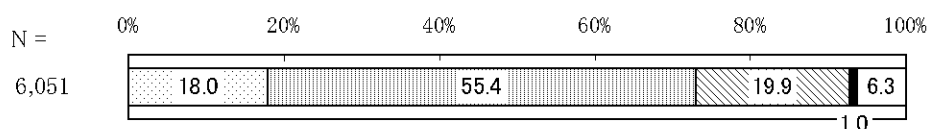
前回調査と比較すると、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が 6.1 ポイント増加しています。

要介護度別でみると、「外部の介護サービスを中心に受けたい」は要支援2で 30%以上と高くなっています。

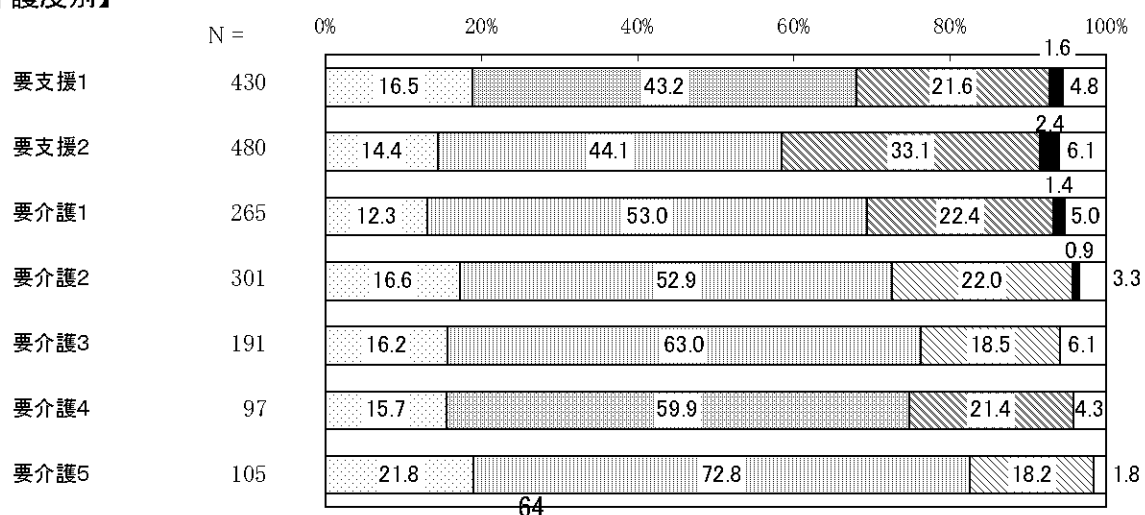
家族構成別でみると、「一人暮らし」では「外部の介護サービスを中心に受けたい」が 42.7%と最も高く、「家族など同居」より 26.0 ポイント高くなっています。一方、「家族など同居」では「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が 61.6%と最も高くなっています。



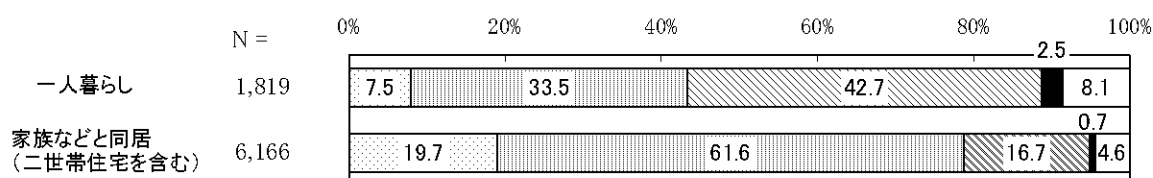
【前回調査（平成 25 年）】



【要介護度別】



【家族構成別】



(6) 人生の終末を迎えたい場所

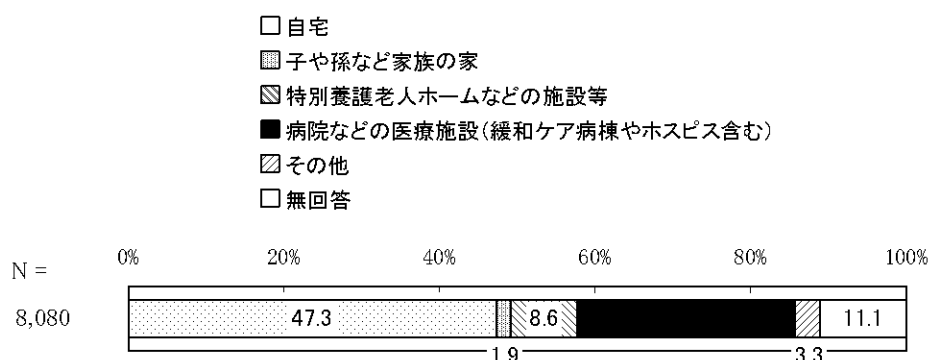
問10Q5. あなたは、どこで人生の終末を迎えたいですか。＜○は1つ＞

人生の終末を迎えたい場所については、「自宅」が47.3%と最も高く、次いで「病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)」が27.9%、「特別養護老人ホームなどの施設等」が8.6%となっています。

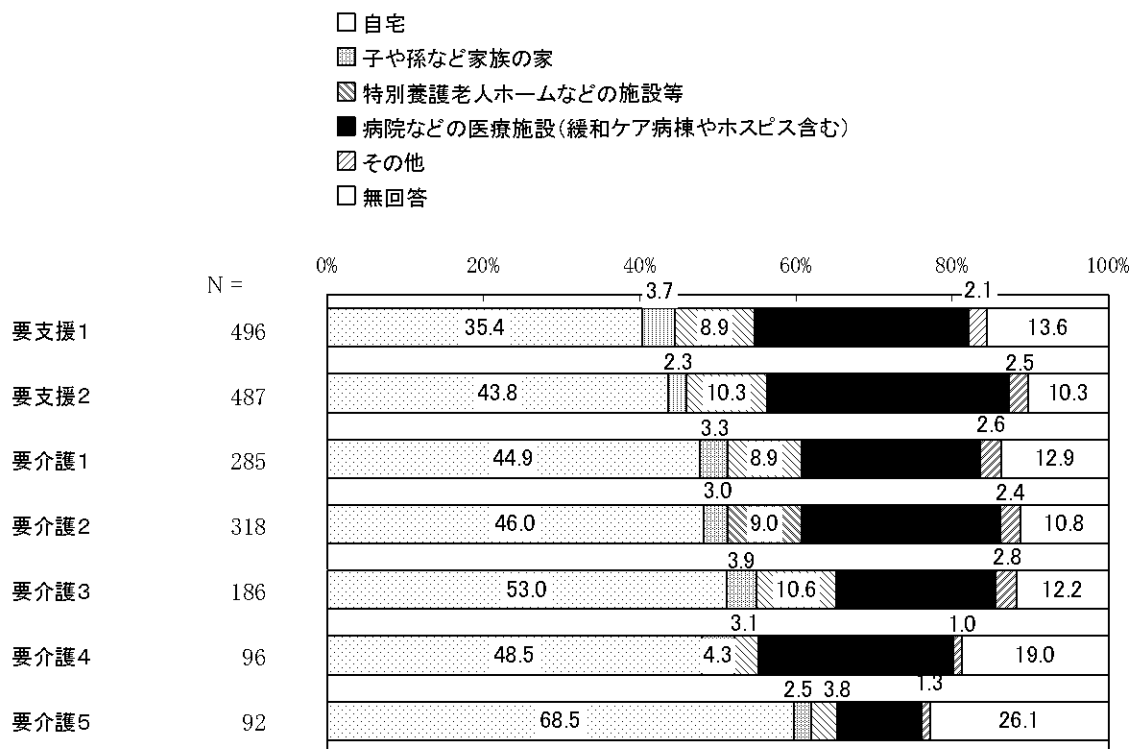
要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「自宅」の割合が高くなっています。「病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)」は要介護度が上がるとともに低くなっています。

家族構成別でみると、「自宅」は、「家族などと同居」で54.4%と、「一人暮らし」より19.6ポイント高くなっています。「病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)」は「一人暮らし」で30.4%と、「家族などと同居」より4.9ポイント高くなっています。

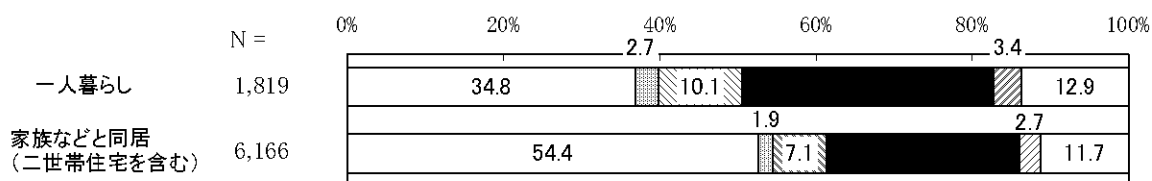
介護が必要になった場合の介護を受けたい場所別でみると、「自宅」は、「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」で76.9%と最も高く、次いで「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」で45.0%となっています。



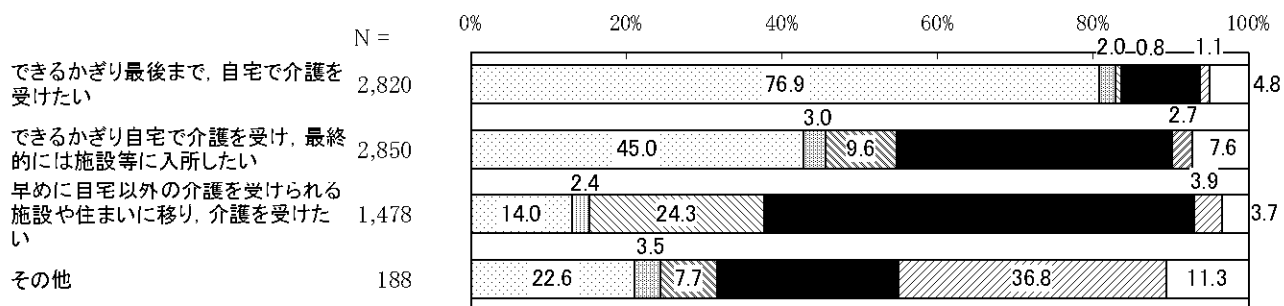
【要介護度別】



【家族構成別】



【介護が必要になった場合の介護受けたい場所別】



(7) 介護保険料のあり方について

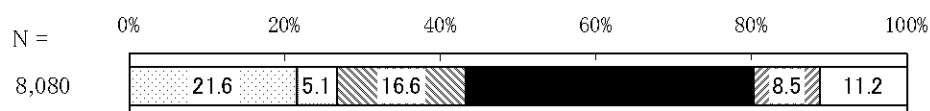
問 10 Q 6. 介護保険料は、介護サービス等の利用に必要な費用を基に算定しています。一人当たりが使う介護サービスが同じであっても、介護サービスを利用する高齢者数が増加すると、介護保険事業全体の総費用は増加し、保険料が上昇することとなります。あなたは、今後の介護保険料と介護サービスのあり方について、御自身の考え方に近いものは次のどれですか。〈○は1つ〉

介護保険料のあり方については、「わからない」が 37.0%と最も高く、次いで「現在の介護保険サービス水準を維持するためには必要な保険料上昇もやむを得ない」が 21.6%、「保険料を現状程度に維持するために介護サービス水準が縮小してもやむを得ない」が 16.6%となっています。

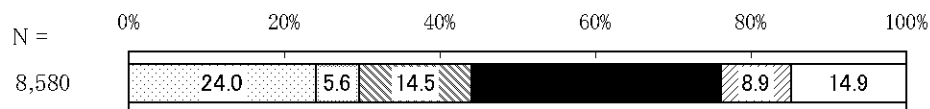
前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

介護保険制度に対する評価別でみると、「現在の介護保険サービス水準を維持するためには、必要な保険料上昇もやむを得ない」では、「大いに評価している」と「多少は評価している」で高くなっています。「保険料を現状程度に維持するために、介護サービス水準が縮小してもやむを得ない」では、「あまり評価していない」と「全く評価していない」で高くなっています。

- ☐ 現在の介護保険サービス水準を維持するためには必要な保険料上昇もやむを得ない
- ☐ 現在以上に介護保険サービス水準を充実するために、上記1よりもさらに保険料が上昇してもやむを得ない
- ☐ 保険料を現状程度に維持するために介護サービス水準が縮小してもやむを得ない
- ☐ わからない
- ☐ その他
- ☐ 無回答

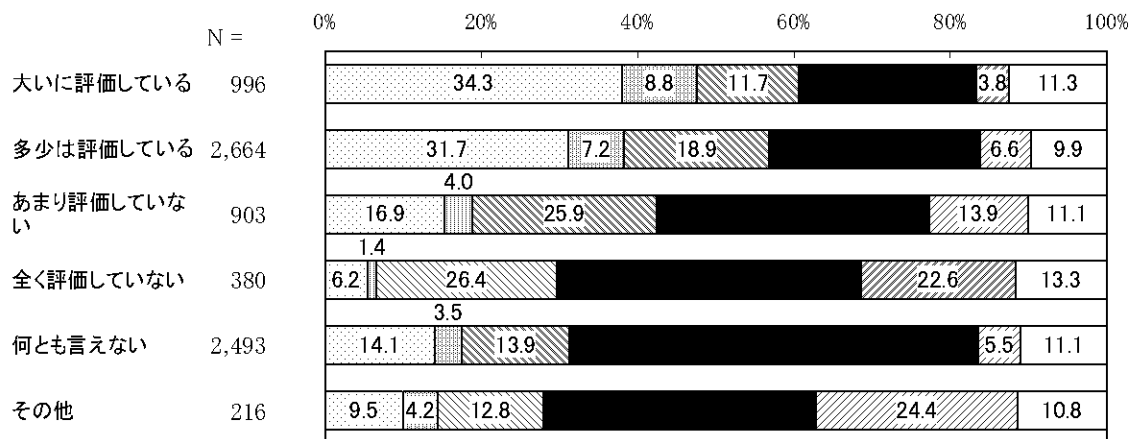


【前回調査（平成 25 年）】



【介護保険制度に対する評価別】

- ☐ 現在の介護保険サービス水準を維持するためには必要な保険料上昇もやむを得ない
- ☐ 現在以上に介護保険サービス水準を充実するために、上記1よりもさらに保険料が上昇してもやむを得ない
- ☐ 保険料を現状程度に維持するために介護サービス水準が縮小してもやむを得ない
- ☐ わからない
- ☐ その他
- ☐ 無回答



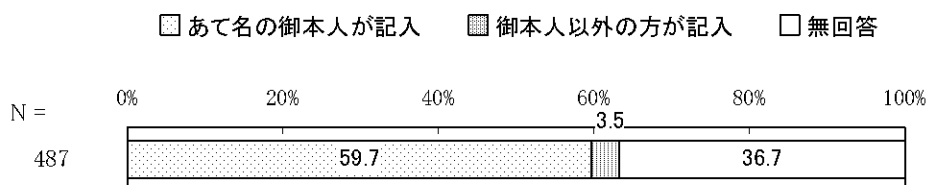
第3章 若年者の調査結果

1 回答者の基本属性

(1) 調査票記入者

Q. 調査票を記入された方をお教えてください。
<あてはまる方に○を付けてください。>

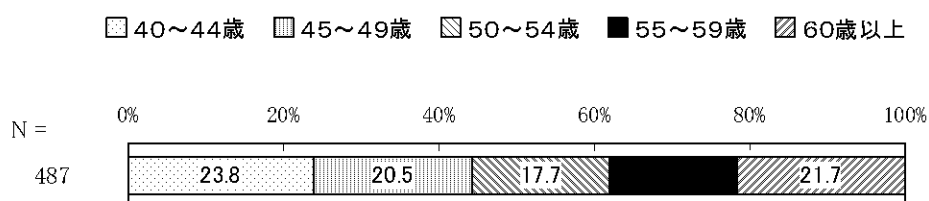
調査票の記入者は「あて名の御本人が記入」が 59.7%、「御本人以外の方が記入」が 3.5%となっています。



(2) 年齢

問1 Q 1. あなた（あて名の御本人。以下の問も同じです。）の年齢をお教えてください。
<○は1つ>

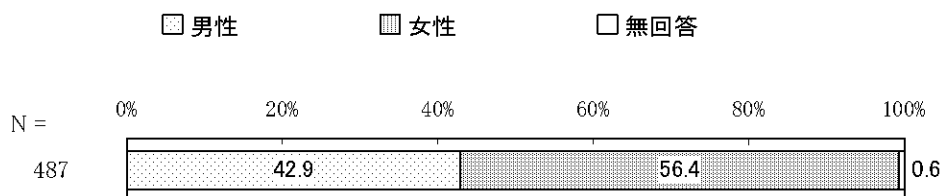
回答者の年齢は、「40～44 歳」が 23.8%で最も高く、次いで「60 歳以上」が 21.7%、「45～49 歳」が 20.5%となっています。



(3) 性別

問1 Q 2. あなたの性別をお教えてください。<○は1つ>

回答者の性別は、「女性」が 56.4%、「男性」が 42.9%となっています。

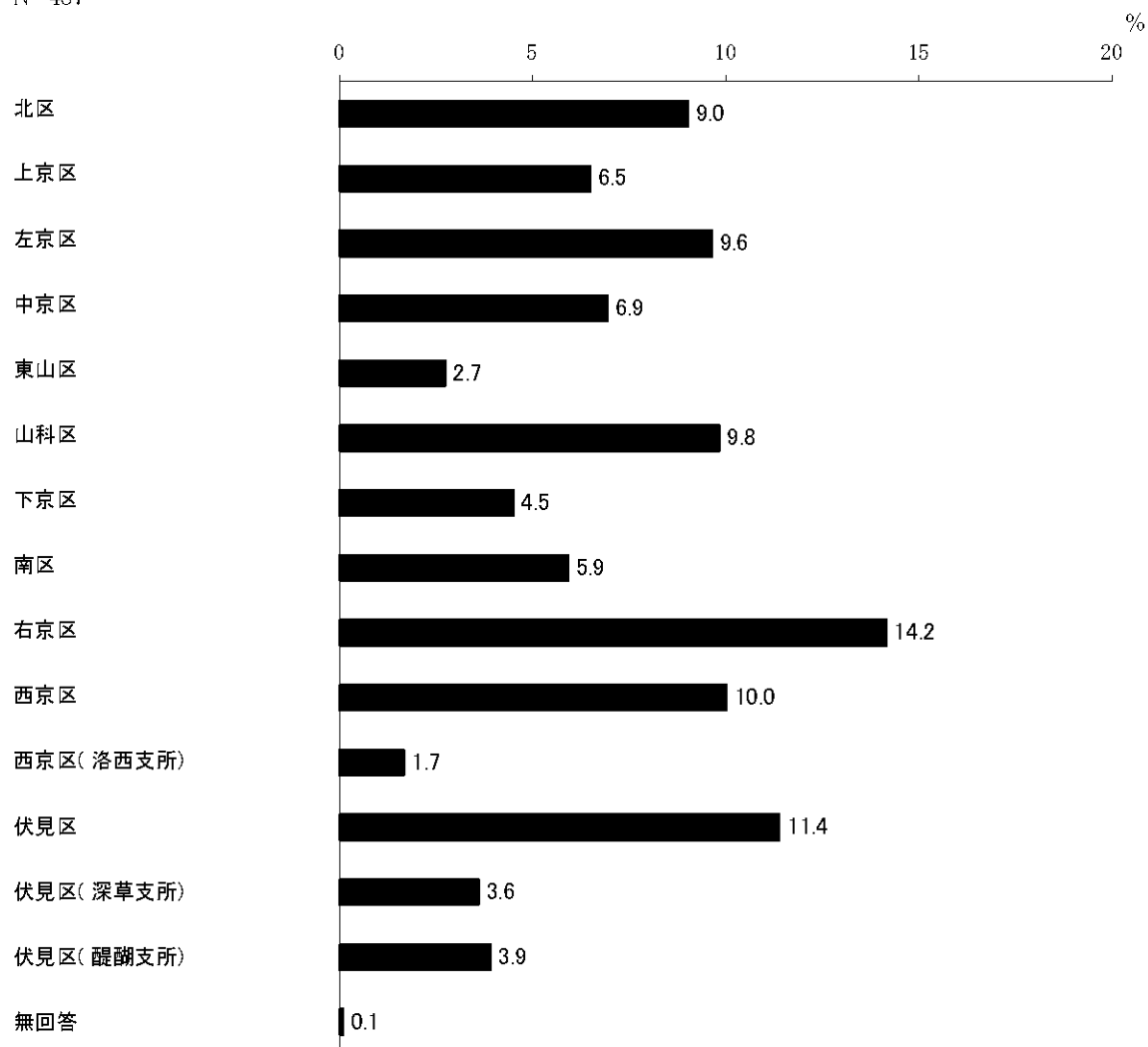


(4) 回答者の属する行政区・支所

問1 Q3. あなたがお住まいの区・支所をお教えてください。＜○は1つ＞

回答者の居住区・支所は、「右京区」が14.2%で最も高く、次いで「伏見区」が11.4%、「西京区」が10.0%となっています。

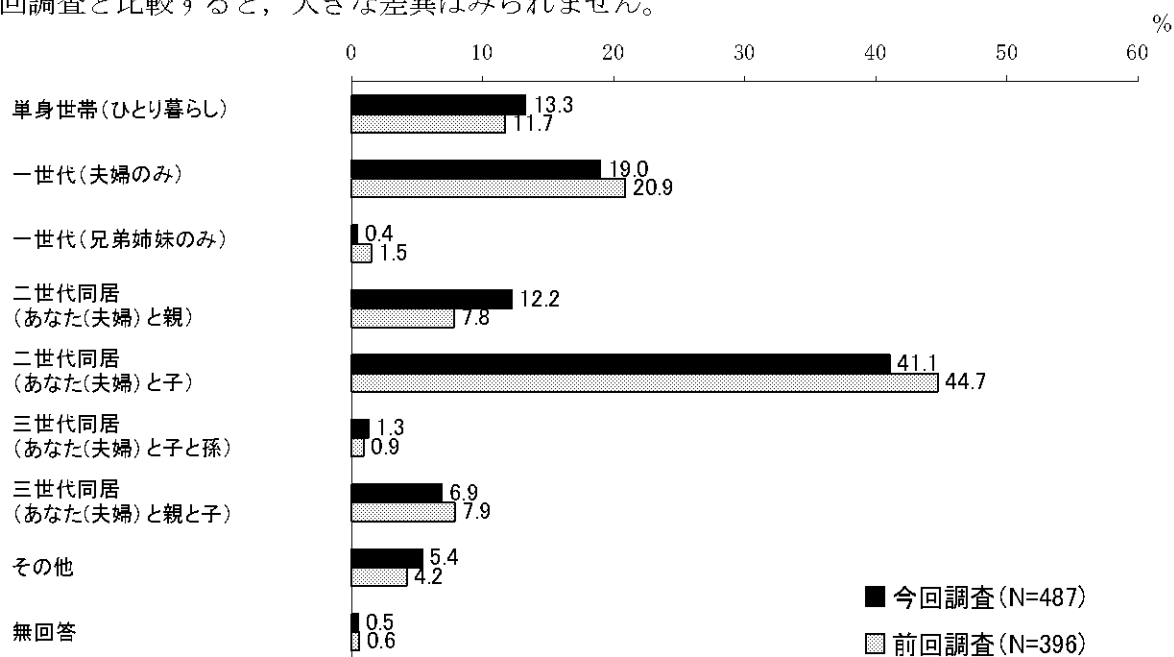
N = 487



(6) 家族構成

問1Q4. あなたの同居者（家族）の構成をお教えてください。＜○は1つ＞

回答者の家族構成については、「二世世代同居（あなた（夫婦）と子）」が41.1%で最も高く、次いで「一世代（夫婦のみ）」が19.0%、「単身世帯（ひとり暮らし）」が13.3%となっています。前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

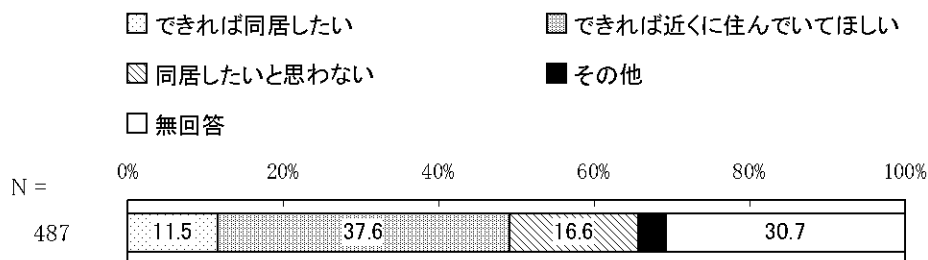


(7) 子との同居意向

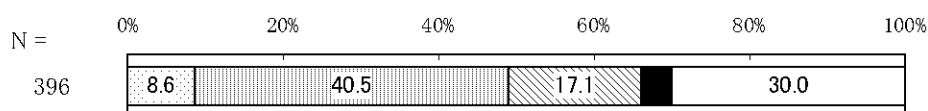
問1Q4-1. 子がおられる方にお聞きします。子と同居したい（し続けたい）ですか。＜○は1つ＞

子がいる人に、子との同居意向をたずねたところ、「できれば近くに住んでいてほしい」が37.6%で最も高く、次いで「同居したいと思わない」が16.6%、「できれば同居したい」が11.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



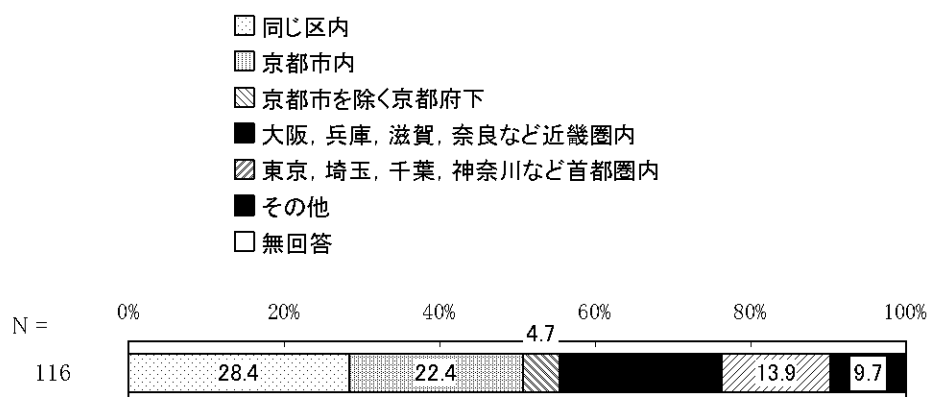
【前回調査（平成25年）】



（８）最も近居の子の居住地

問１Ｑ４－２．子がおられる方で、子と同居されていない方にお聞きします。子はどこに住んでおられますか。＜最も近くにお住まいの子の居住地１つに○＞

子がいる人で子と同居していない人に、最も近居の子の居住地をたずねたところ、「同じ区内」が28.4%で最も高く、次いで「京都市内」が22.4%、「大阪、兵庫、滋賀、奈良など近畿圏内」が20.9%となっています。

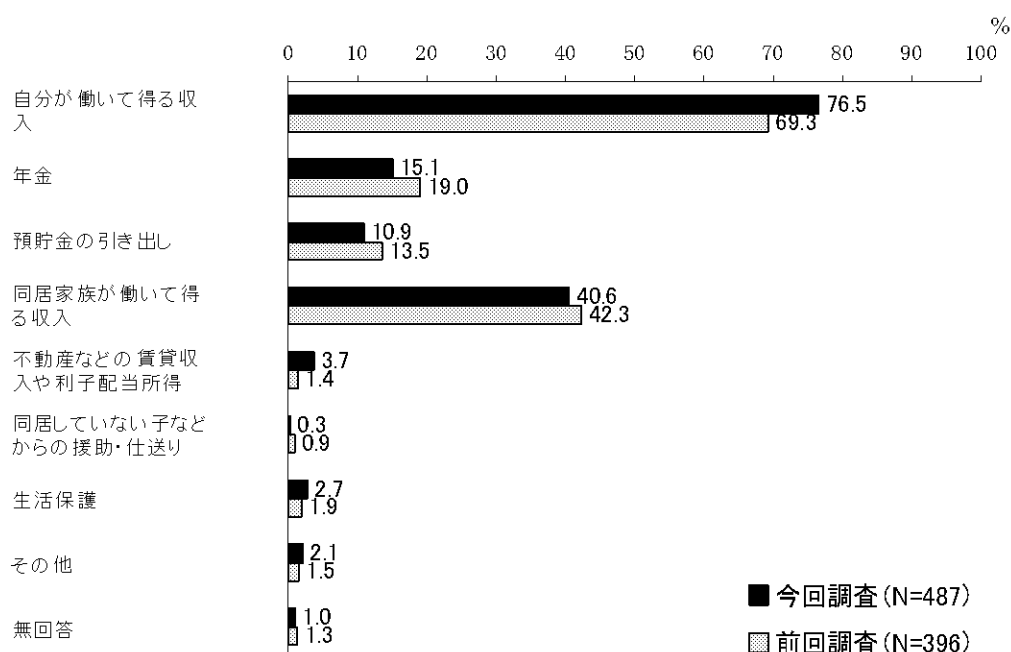


（９）生活費の収入源

問１Ｑ５．あなたは生活費をどのようにして得ていますか。＜○は３つまで＞

生活費の収入源については、「自分が働いて得る収入」が76.5%で最も高く、次いで「同居家族が働いて得る収入」が40.6%、「年金」が15.1%となっています。

前回調査と比較すると、「自分が働いて得る収入」が7.2ポイント増加しています。

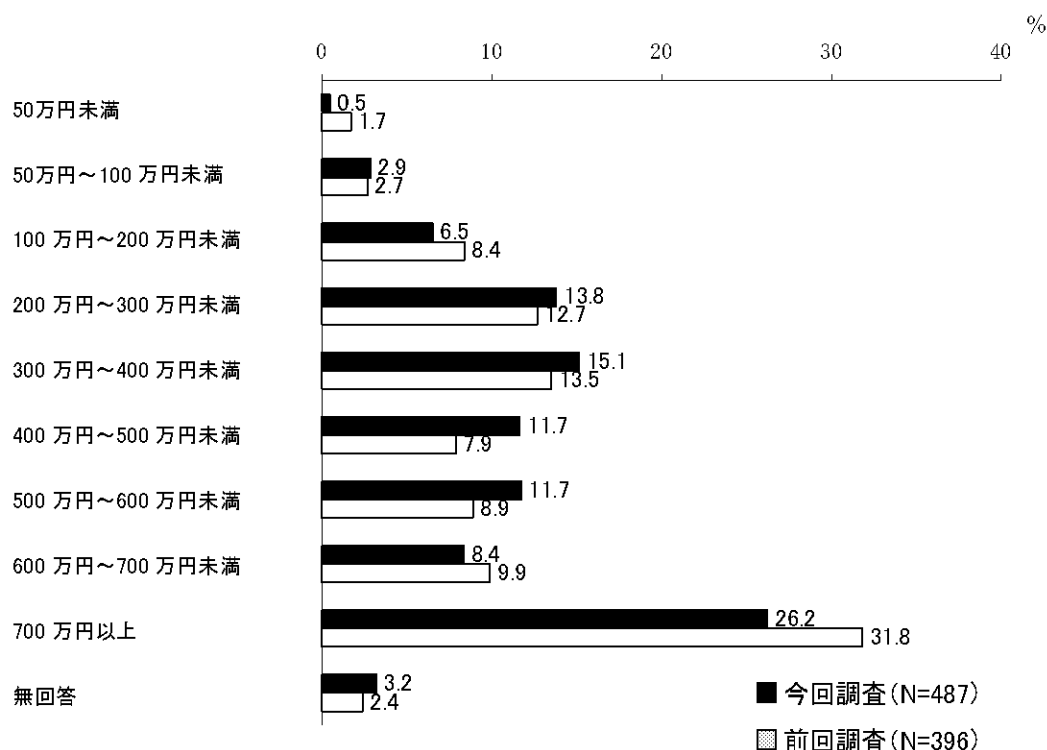


(10) 世帯の年間総収入

問 1 Q 6. あなたの世帯の年間総収入（年金収入を含む。税込）はどのくらいですか。＜○は1つ＞

世帯の年間総収入については、「700 万円以上」が 26.2%で最も高く、次いで「300 万円～400 万円未満」が 15.1%、「200 万円～300 万円未満」が 13.8%となっています。

年齢別でみると、40～59 歳では、「700 万円以上」が最も高く、「60 歳以上」では「300 万円～400 万円未満」が最も高くなっています。



【年齢別】

単位：%

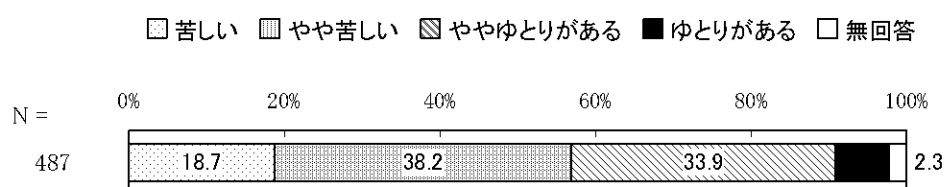
区	有効回答数 (件)	50万円未満	100万円～ 50万円未満	200万円～ 100万円未満	300万円～ 200万円未満	400万円～ 300万円未満	500万円～ 400万円未満	600万円～ 500万円未満	700万円～ 600万円未満	700万円以上	無回答
40～44歳	58	—	1.7	3.4	17.2	12.1	8.6	8.6	8.6		5.2
45～49歳	61	—	3.3	6.6	14.8	14.8	6.6	19.7	9.8		1.6
50～54歳	57	—	1.8	1.8	7.0	17.5	17.5	12.3	12.3		1.8
55～59歳	97	1.0	1.0	9.3	7.2	10.3	12.4	11.3	9.3		3.1
60歳以上	214	1.4	6.1	11.7	19.6		14.5	7.5	2.8	12.1	3.7
無回答	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(11) 経済的にみた現在の暮らしの状況

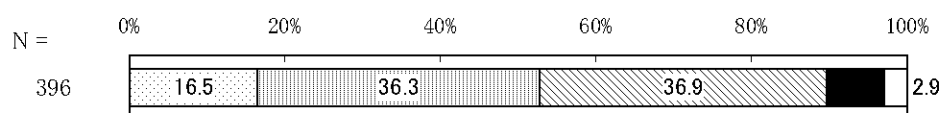
問 1 Q 7. あなたは現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。
<○は1つ>

経済的にみた現在の暮らしの状況については、「やや苦しい」が 38.2%で最も高く、次いで「ややゆとりがある」が 33.9%で、「苦しい」が 18.7%となっています。「苦しい」と「やや苦しい」を合わせた“苦しい”の割合は 56.9%、「ややゆとりがある」と「ゆとりがある」を合わせた“ゆとりがある”の割合は 40.8%，となっています。

前回調査と比較すると，“苦しい”の割合が 4.1 ポイント増加しています。



【前回調査（平成 25 年）】



2 住まいについて

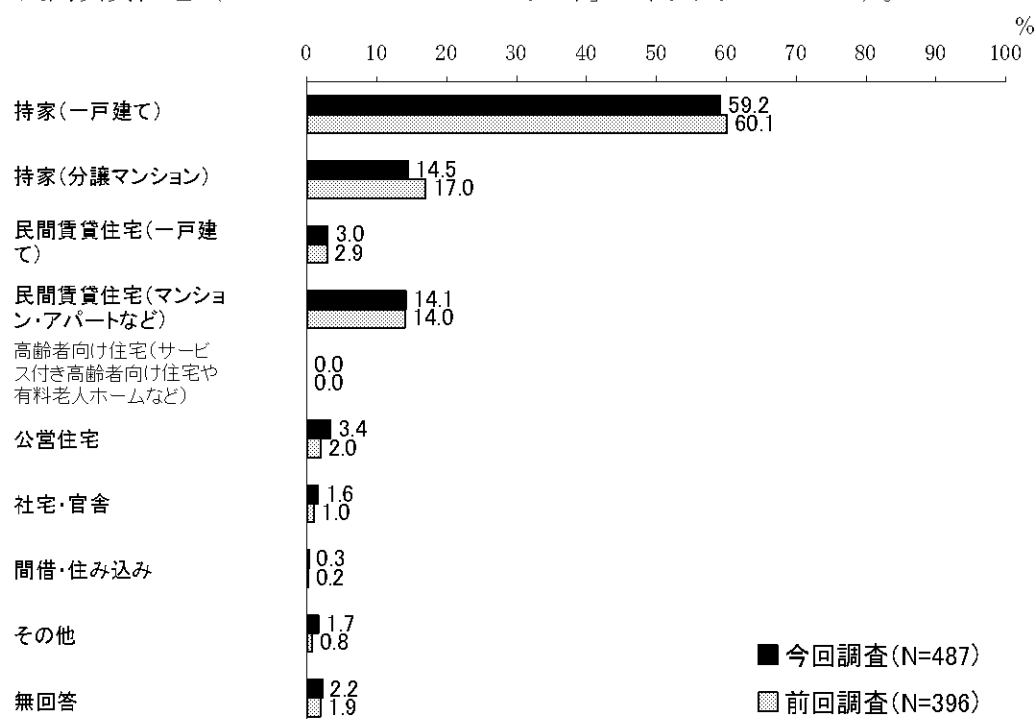
(1) 居住形態

問2 Q 1. あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。＜○は1つ＞

住居形態については、「持家（一戸建て）」が59.2%で最も高く、次いで「持家（分譲マンション）」が14.5%、「民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）」が14.1%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

家族構成別でみると、一世代、二世世代同居、三世世代同居では、いずれも「持家（一戸建て）」が最も高くなっています。一方、単身世帯（ひとり暮らし）では、「持家（一戸建て）」が低く、「民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）」が高くなっています。



【家族構成別】

単位：％

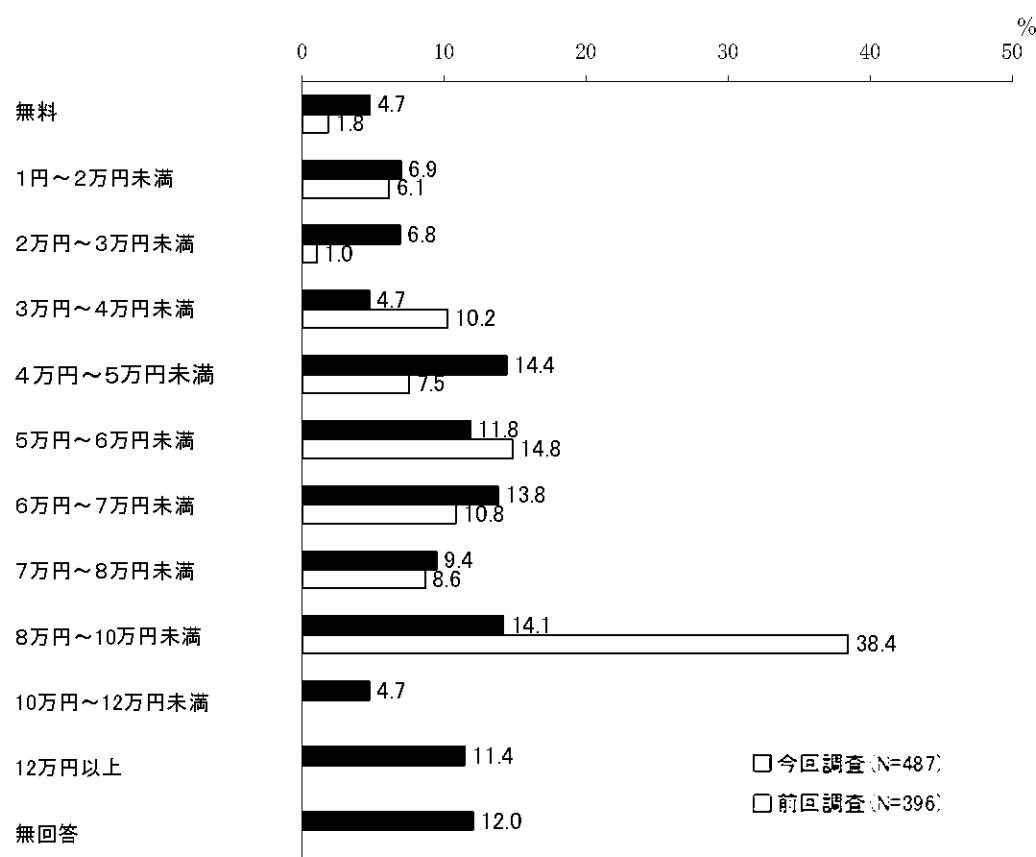
区分	有効回答数(件)	持家(一戸建て)	持家(分譲マンション)	民間賃貸住宅(一戸建て)	民間賃貸住宅(マンション・アパートなど)	高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなど)	公営住宅	社宅・官舎	間借・住み込み	その他	無回答
単身世帯	68		22.1	1.5		—	4.4	2.9	—	1.5	2.9
一世代	121		24.0	5.0	8.3	—	1.7	0.8	—	2.5	1.7
二世世代同居	230		10.9	2.6	8.3	—	2.6	0.9	0.4	0.4	0.9
三世世代同居	39		5.1	—	—	—	—	—	—	5.1	10.3
その他	26	61.5	3.8	3.8	3.8	—	7.7	—	—	15.4	3.8

(2) 現在の住まいに係る居住費

問2 Q1-1. Q1で「3. 民間賃貸住宅（一戸建て）」～「9. その他」と回答した方（持ち家以外にお住まいの方）にお聞きします。現在のお住まいに係る住居費（月額、共益費含む。）は、次のどれにあたりますか。＜○は1つ＞

持家以外に住んでいる人に、現在の住まいに係る住居費についてたずねたところ、「4万円～5万円未満」が14.4%で最も高く、次いで「8万円～10万円未満」が14.1%、「7万円～8万円未満」が13.8%となっています。

前回調査と比較すると、選択肢が異なっているため単純比較はできませんが、「4万円～5万円未満」が6.9ポイント、「2万円～3万円未満」が5.8ポイント増加しています。一方、「8万円以上（前回調査との比較のため合算している。）」が8.1ポイント、「3万円～4万円未満」が5.5ポイント減少しています。



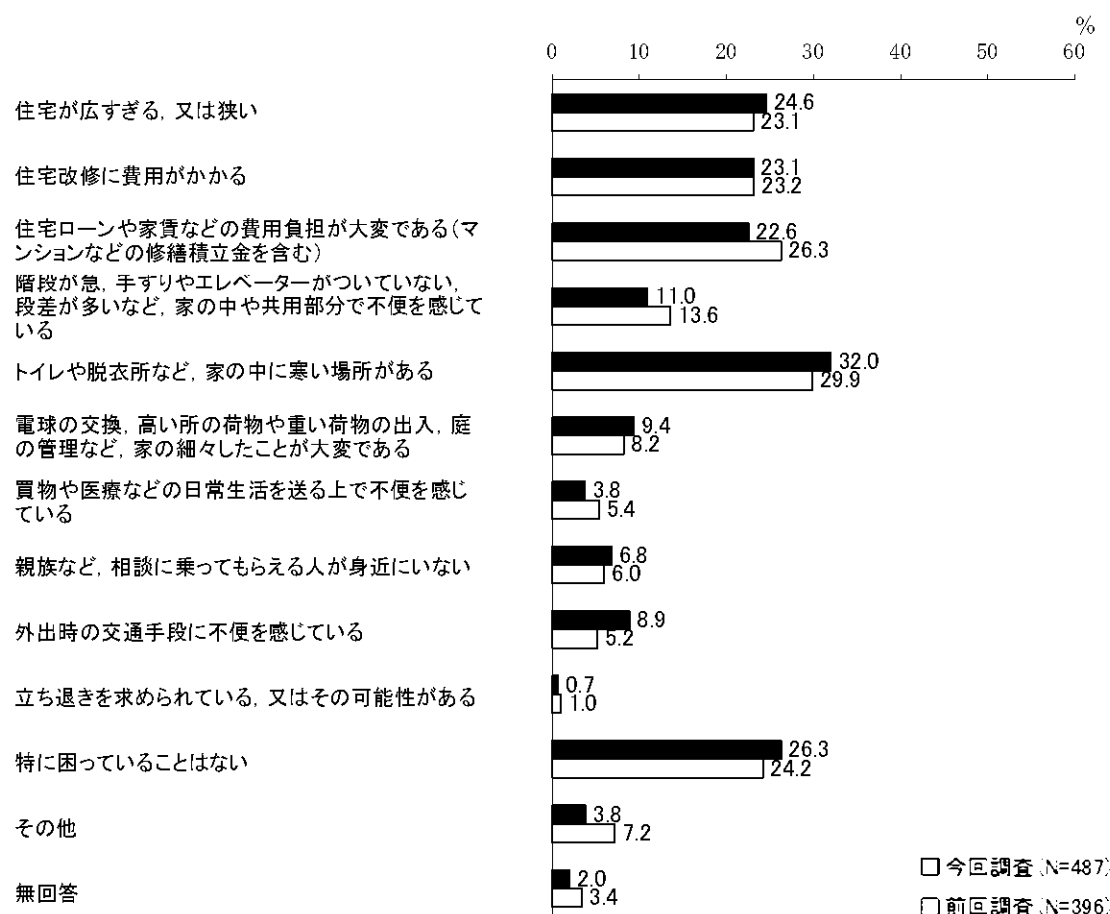
※前回調査は8万円以上で一つの選択肢となっています。

(3) 現在の住まいで困っていること

問2 Q2. あなたの現在のお住まいについてお困りのことは、次のどれですか。
 <あてはまるものすべてに○>

現在の住まいで困っていることについては、「トイレや脱衣所など、家の中に寒い場所がある」が32.0%で最も高く、次いで「特に困っていることはない」が26.3%、「住宅が広すぎる。又は狭い」が24.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



3 健康について

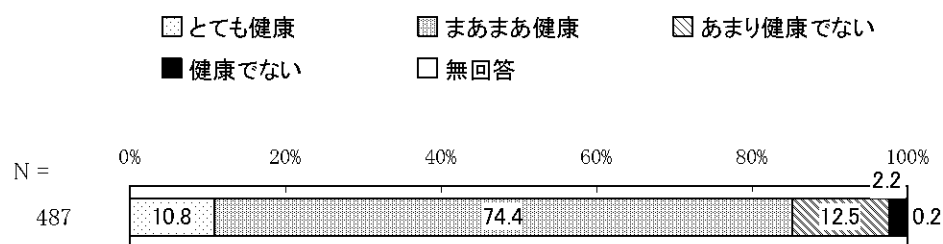
(1) 主観的健康観

問3 Q1. あなたは普段、御自分で健康だと思いますか。＜○は1つ＞

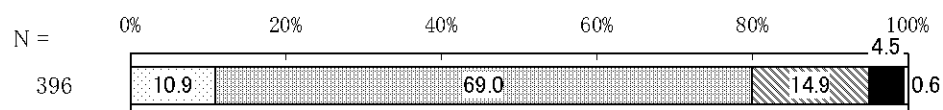
普段、自分で健康だと思うかについては、まあまあ健康」が74.4%で最も高く、次いで「あまり健康でない」が12.5%で、「とても健康」が10.8%となっています。「とても健康」と「まあまあ健康」を合わせた“健康である”の割合は85.2%、「あまり健康でない」と「健康でない」を合わせた“健康でない”の割合は14.7%となっています。

前回調査と比較すると、“健康である”の割合が5.2ポイント増加しています。

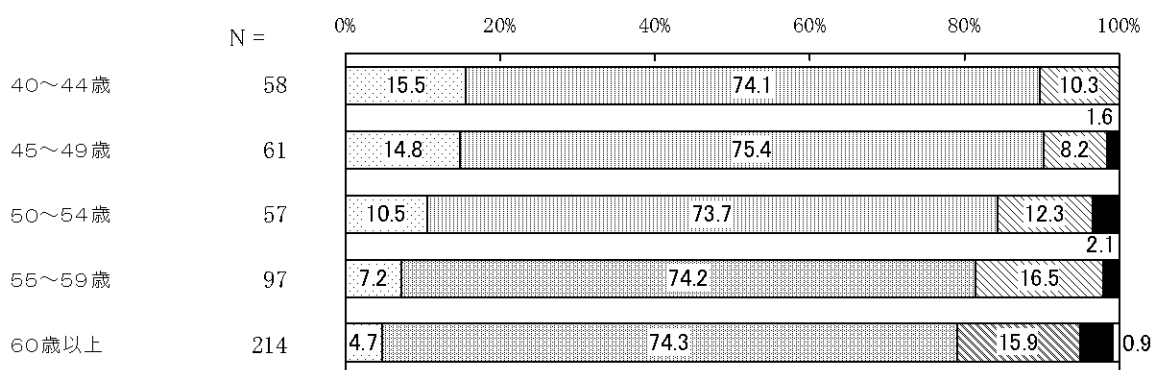
年齢別でみると、“健康でない”の割合は、概ね年齢が上がるとともに高くなっています。



【前回調査（平成25年）】



【年齢別】



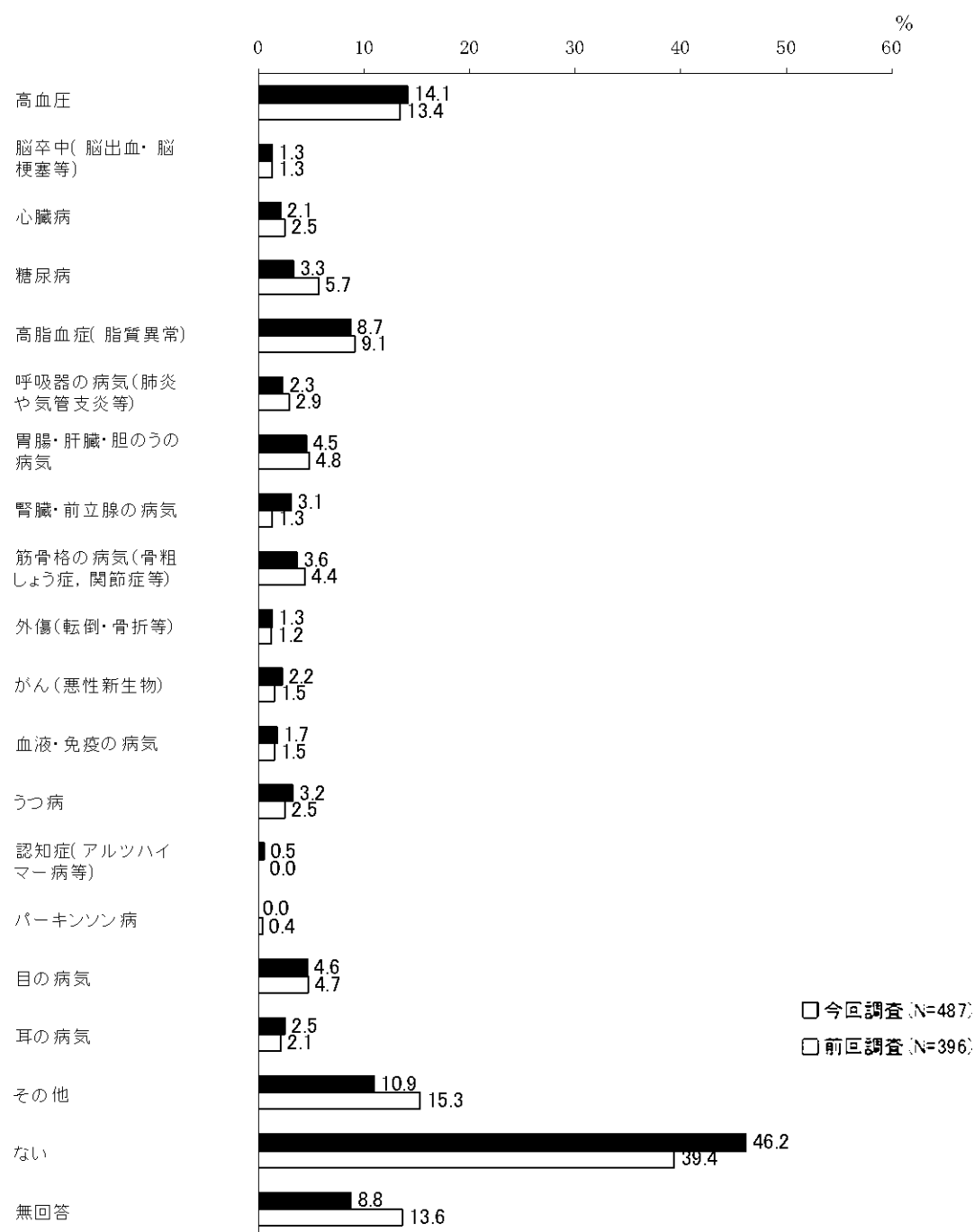
(2) 現在治療中・後遺症のある疾病

問3 Q2. あなたは現在治療中又は後遺症のある病気はありますか。
 <あてはまるものすべてに○>

現在治療中・後遺症のある疾病については、「ない」が46.2%で最も高く、次いで「高血圧」が14.1%、「高脂血症（脂質異常）」が8.7%となっています。

前回調査と比較すると、「ない」が6.8ポイント増加しています。

年齢別でみると、「高血圧」「高脂血症（脂質異常）」は、年齢が上がるとともに高くなっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	外傷 (転倒・骨折等)	がん (悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	ない	無回答
40～44歳	58	—	—	1.7	1.7	1.7	1.7	—	—	—	—	3.4	1.7	—	—	—	8.6	67.2	12.1
45～49歳	61	—	—	—	—	3.3	1.6	4.9	1.6	3.3	3.3	8.2	—	—	—	3.3	11.5	47.5	13.1
50～54歳	57	3.5	1.8	5.3	1.8	5.3	7.0	5.3	3.5	—	1.8	—	—	—	5.3	1.8	8.8	47.4	7.0
55～59歳	97	1.0	4.1	5.2	4.1	7.2	4.1	4.1	—	5.2	2.1	2.1	—	—	10.3	3.1	11.3	30.9	5.2
60歳以上	214	2.3	5.1	5.1	4.2	6.1	1.9	4.7	1.4	3.3	1.9	1.9	0.5	—	9.3	4.7	14.5	32.2	5.1
無回答	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—

(3) 健康について相談や指導を受けられる人の有無

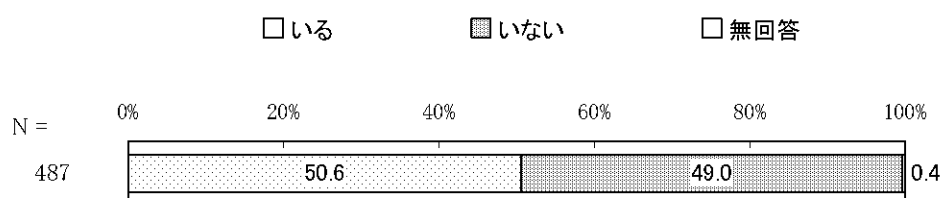
問3 Q3. あなたはふだんから健康について相談や指導を受けられる以下のような人はいいますか。＜①から③までそれぞれ○は1つ＞

① かかりつけ医

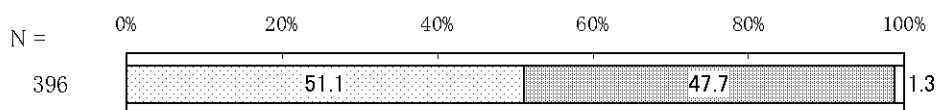
健康について相談や指導を受けられる人の有無については、かかりつけ医は、「いる」が50.6%、「いない」が49.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

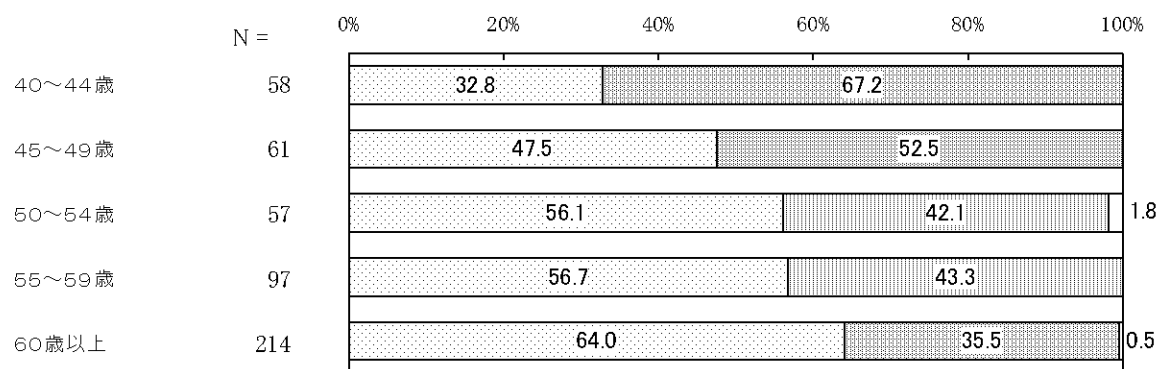
年齢別でみると、「いる」は年齢が上がるとともに高くなっています。



【前回調査（平成25年）】



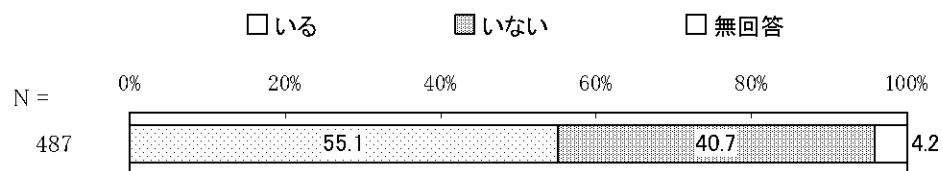
【年齢別】



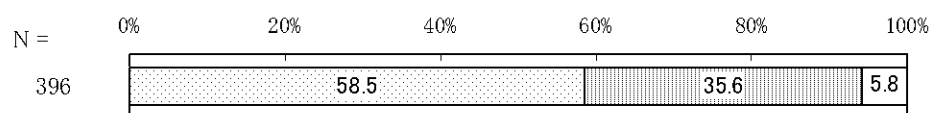
② かかりつけ歯科医

かかりつけ歯科医については、「いる」が55.1%、「いない」が40.7%となっています。
前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

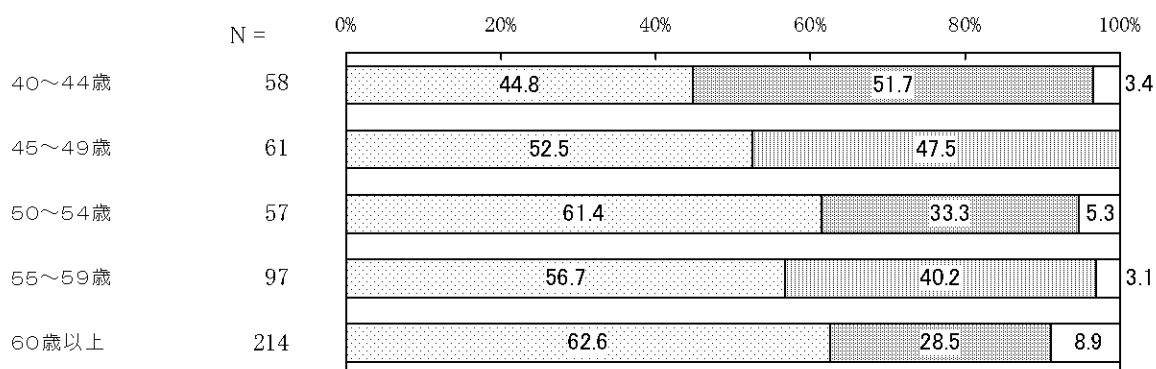
年齢別でみると、「いる」は概ね年齢が上がるとともに高くなっています。



【前回調査（平成25年）】



【年齢別】

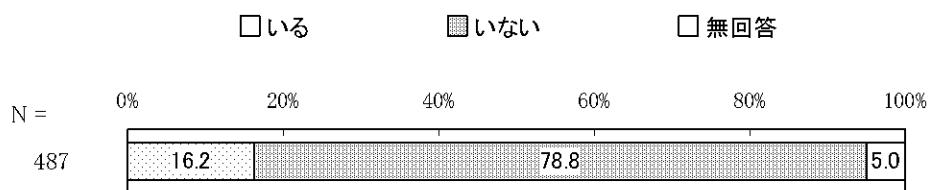


③ かかりつけ薬剤師

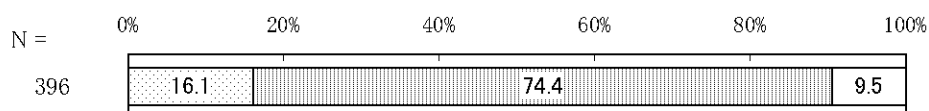
かかりつけ薬剤師については、「いる」が16.2%、「いない」が78.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

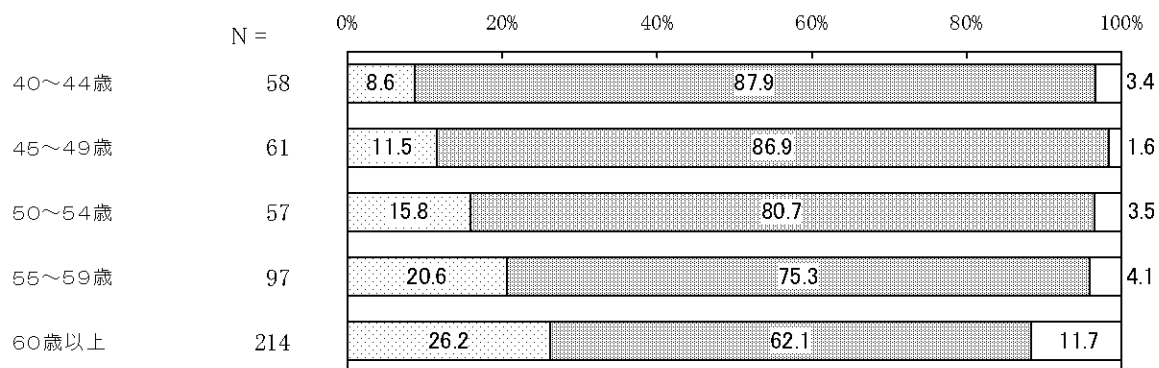
年齢別でみると、「いる」は年齢が上がるとともに高くなっています。



【前回調査（平成25年）】



【年齢別】

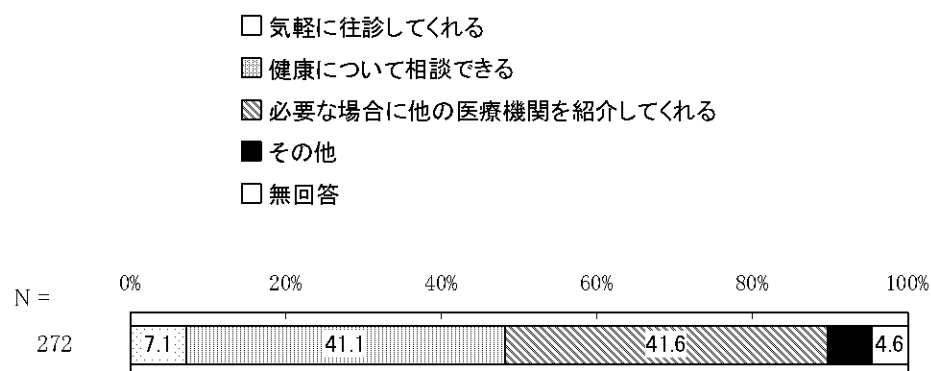


(4) かかりつけ医とのつながり

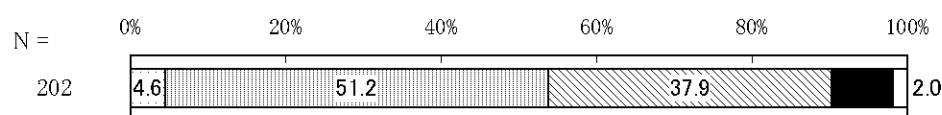
問3 Q3-1. 問3①で、かかりつけ医が「1. いる」と回答した方にお聞きします。かかりつけ医はどのような方ですか。＜○は1つ＞

かかりつけ医がいると回答した人に、かかりつけ医とのつながりについてたずねたところ、「必要な場合に他の医療機関を紹介してくれる」が41.6%で最も高く、次いで「健康について相談できる」が41.1%、「気軽に往診してくれる」が7.1%となっています。

前回調査と比較すると、「健康について相談できる」が10.1ポイント減少しています。



【前回調査（平成25年）】

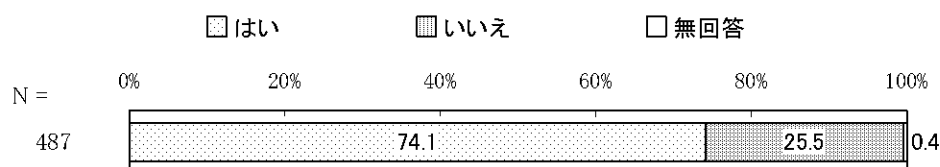


(5) 定期的に健康診断の受診の有無

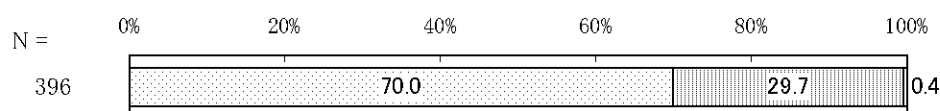
問3 Q4. あなたは定期的に健康診断を受診していますか。＜○は1つ＞

定期的な健康診断の受診有無については、「はい（受診している）」が74.1%、「いいえ（受診していない）」が25.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成25年）】

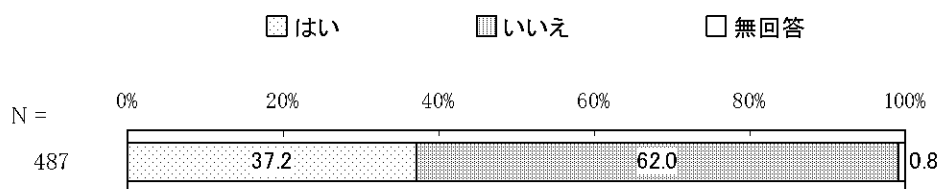


（６）定期的な歯科受診の有無

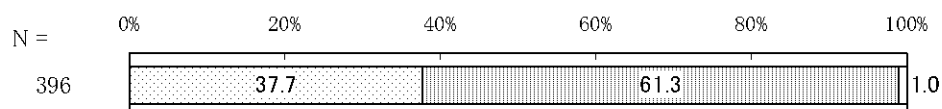
問３Ｑ５．あなたは定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか。＜○は１つ＞

定期的な歯科受診の有無については、「はい（受診している）」が 37.2%、「いいえ（受診していない）」が 62.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成 25 年）】

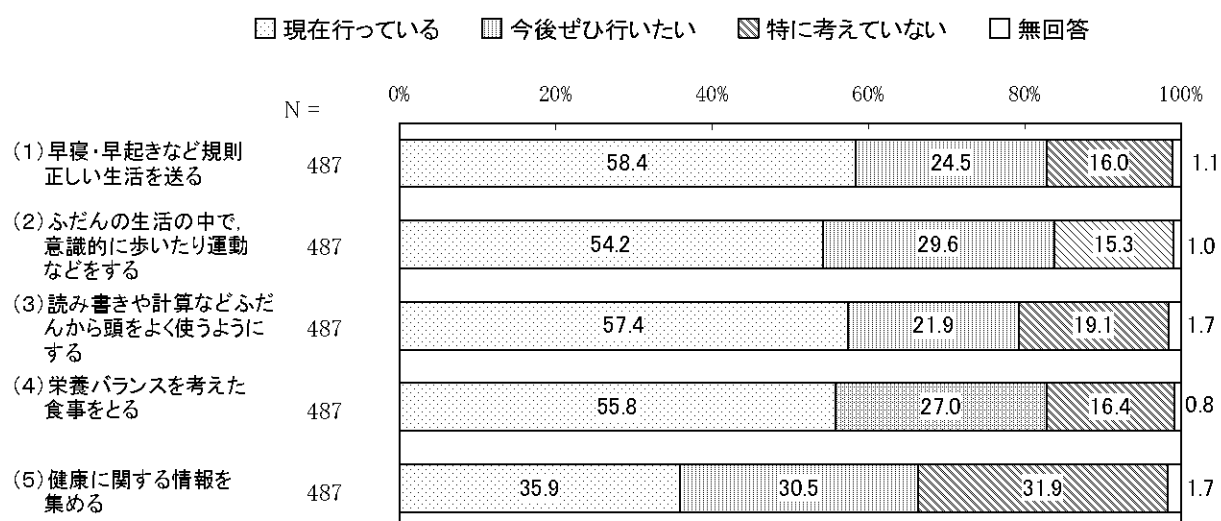


(7) 病気の予防や健康づくりのための取組状況

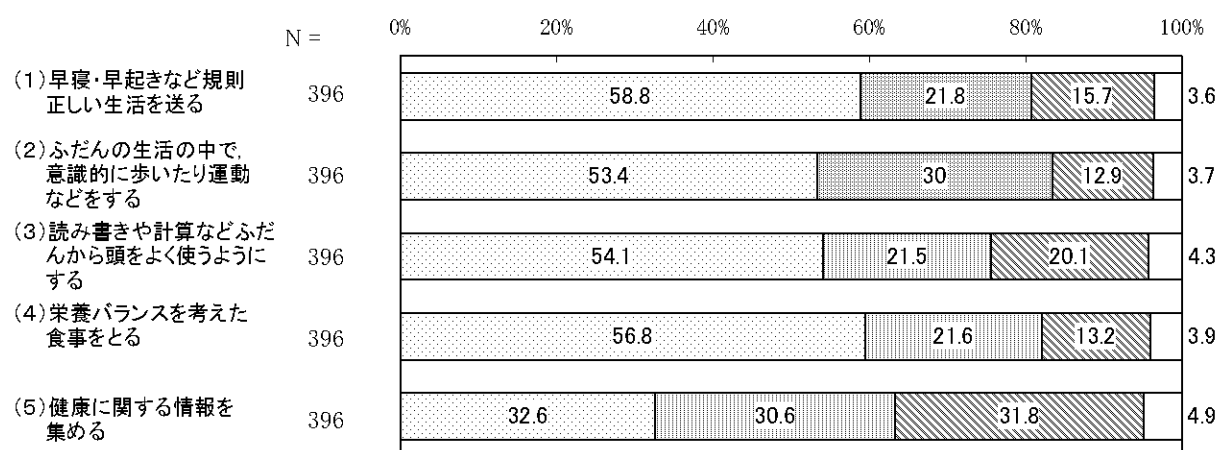
問3 Q6. あなたは以下のような病気の予防や健康づくりのための取組を現在行っていますか。また行っていない場合は、今後どのように考えていますか。
 <(1)から(5)までそれぞれ〇は1つつつ>

病気の予防や健康づくりのための取組状況については、「現在行っている」は、「(1)早寝・早起きなどの規則正しい生活を送る。」「(2)ふだんの生活の中で、意欲的に歩いたり運動などをする」,「(3)読み書きや計算などふだんから頭をよく使うようにする」,「(4)栄養バランスを考えた食事をとる」で、50%以上と高くなっています。「今後ぜひ行いたい」は、「(2)ふだんの生活の中で、意識的に歩いたり運動などをする」,「(5)健康に関する情報を集める」で約30%と高くなっています。「特に考えていない」は、「(5)健康に関する情報を集める」で30%以上と高くなっています。

前回調査と比較すると、「(4) 栄養バランスを考えた食事をとる」で「今後ぜひ行いたい」が5.4ポイント増加しています。



【前回調査（平成25年）】

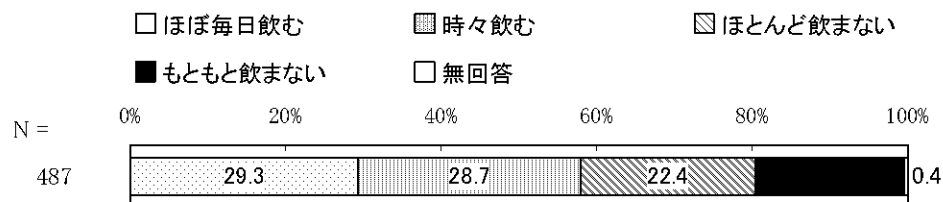


(8) 飲酒習慣

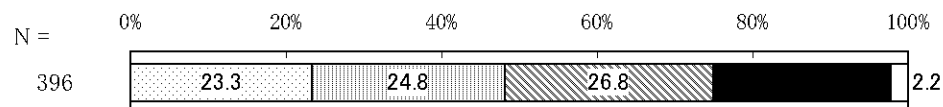
問3 Q7. あなたはお酒を飲みますか。＜○は1つ＞

飲酒については、「ほぼ毎日飲む」が29.3%で最も高く、次いで「時々飲む」が28.7%、「ほとんど飲まない」が22.4%となっています。「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた“飲む”の割合は58.0%、「ほとんど飲まない」と「もともと飲まない」を合わせた“飲まない”の割合は41.6%となっています。

前回調査と比較すると、“飲む”の割合は6.0ポイント増加しています。



【前回調査（平成25年）】

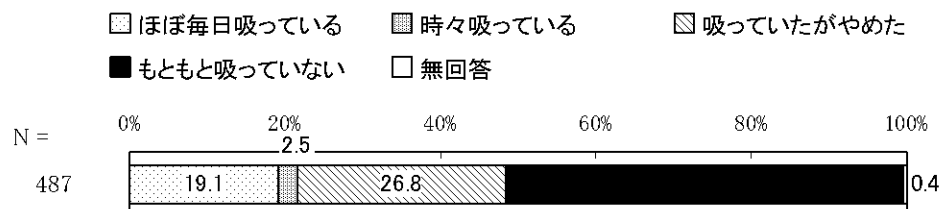


(9) 喫煙習慣

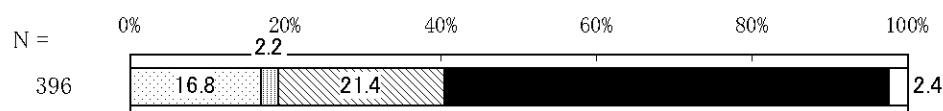
問3 Q8. あなたはタバコを吸っていますか。＜○は1つ＞

喫煙については、「もともと吸っていない」が51.2%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が26.8%、「ほぼ毎日吸っている」が19.1%となっています。「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた“吸っている”の割合は21.6%、「吸っていたがやめた」と「もともと吸っていない」を合わせた“吸っていない”の割合は78.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成25年）】



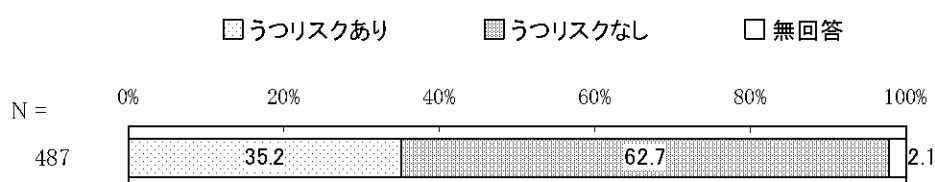
4 リスク評価について

(1) うつ予防

国が示す「日常生活圏域ニーズ調査」の分析方法に基づき、ここ2週間の心身状況について、「充実感がない」「楽しめなくなった」「おっくうに感じられる」「役立つ人間だと思えない」「疲れたような感じがする」と回答した場合は1点、それ以外の回答の場合は0点と得点を設定し合計値を求め、2点以上の場合は「うつリスクあり」、1点以下の場合は「うつリスクなし」として区分しました。

その結果、「うつリスクあり」が35.2%、「うつリスクなし」が62.7%となっています。

年齢別でみると、「うつリスクあり」は45～49歳が37.7%で最も高くなっており、他の年齢でも概ね同水準となっています。



設 問	件数：487 件
問3 Q9. ①毎日の生活に充実感がない（はい）	22.7%
問3 Q9. ②これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった（はい）	19.1%
問3 Q9. ③以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる（はい）	37.6%
問3 Q9. ④自分が役に立つ人間だと思えない（はい）	16.4%
問3 Q9. ⑤わけもなく疲れたような感じがする（はい）	35.0%

【年齢別】

単位：%

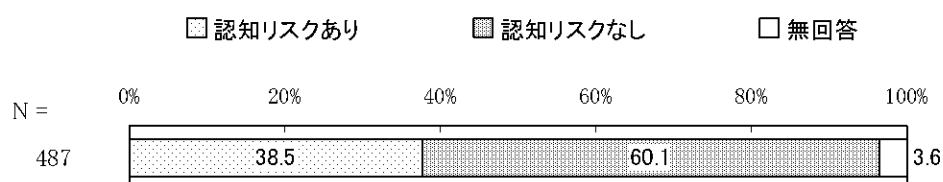
区分	有効回答数 (件)	うつ リスク あり	うつ リスク なし	無 回 答
40～44歳	116	34.5	64.4	1.7
45～49歳	100	37.7	62.3	0.0
50～54歳	86	33.3	61.4	5.3
55～59歳	79	35.1	63.9	1.0
60歳以上	116	35.0	62.1	2.8

(2) 認知症予防

国が示す「日常生活圏域ニーズ調査」の分析方法に基づき、日常生活において「物忘れがあると言われる」「自分で電話番号を調べて電話をかけていない」「何月何日かわからないことがある」と回答した場合は1点、それ以外の回答の場合は0点と得点を設定し合計値を求め、1点以上の場合は「認知症リスクあり」、0点の場合は「認知症リスクなし」として区分しました。

その結果、「認知症リスクあり」が38.5%、「認知症リスクなし」が60.1%となっています。

年齢別でみると、「認知症リスクあり」は「45～49歳」が47.5%で最も高くなっており、「50～54歳」が29.8%と最も低く、55歳以上では再び40%台に増加しています。



設 問	件数：487 件
問 4 Q 1. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか。(はい)	9.2%
問 4 Q 2. 他人の手助けを得ずに、自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(いいえ)	24.8%
問 4 Q 3. 今日が何月何日かわからない時がありますか。(はい)	13.8%

【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	認知症リスクあり	認知症リスクなし	無回答
40～44歳	116	32.8	65.5	1.7
45～49歳	100	47.5	52.5	0.0
50～54歳	86	29.8	66.7	3.5
55～59歳	79	40.2	58.8	1.0
60歳以上	116	42.1	57.0	0.9

5 日常生活について

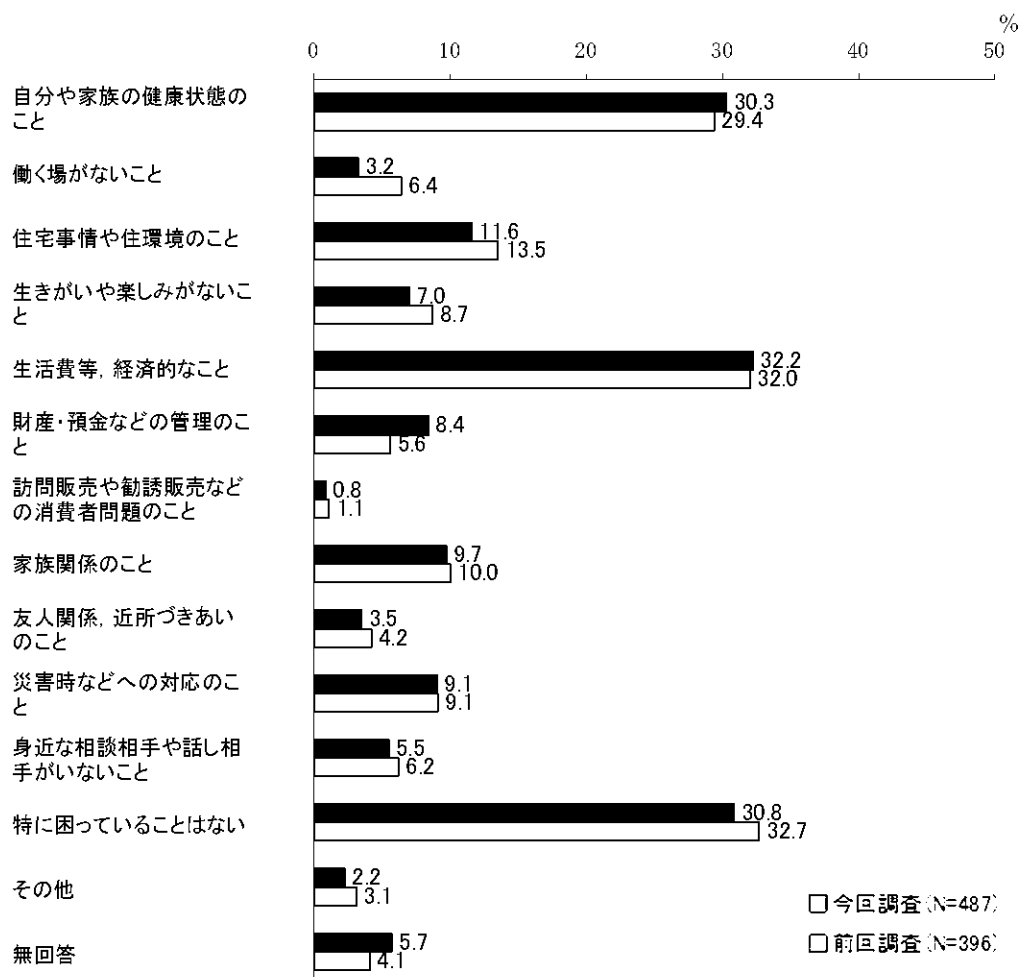
(1) 今の生活で困っていること

問4 Q4. あなたは今の生活で何か困っていることがありますか。＜○は3つまで＞

今の生活で困っていることについては、「生活費等、経済的なこと」が32.2%で最も高く、次いで「特に困っていることはない」が30.8%、「自分や家族の健康状態のこと」が30.3%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、40歳～49歳では、「生活費等、経済的なこと」が最も高くなっており、50歳以上では「特に困っていることはない」が最も高くなっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	自分や家族の健康状態のこと	働く場がないこと	住宅事情や住環境のこと	生きがいや楽しみがないこと	生活費等、経済的なこと	財産・預金などの管理のこと	訪問販売や勧誘販売などの消費者問題のこと	家族関係のこと	友人関係、近所づきあいのこと	災害時などへの対応のこと	身近な相談相手や話し相手がないこと	特に困っていることはない	その他	無回答
40～44歳	58	27.6	5.2	13.8	8.6		15.5	—	6.9	3.4	10.3	6.9	22.4	—	10.3
45～49歳	61	29.6	3.3	11.5	8.2		9.8	1.6	1.6	1.6	9.8	3.3	27.9	—	6.6
50～54歳	57	29.5	1.8	8.8	8.8	26.3	7.0	1.8	15.8	1.8	7.0	8.8		5.3	5.3
55～59歳	97	29.9	3.1	8.2	3.1	30.9	5.2	—	13.4	6.2	9.3	3.1		6.2	1.0
60歳以上	214	29.8	2.3	14.0	5.6	28.0	2.8	0.9	12.6	4.7	8.4	5.1		1.4	3.7
	1	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—

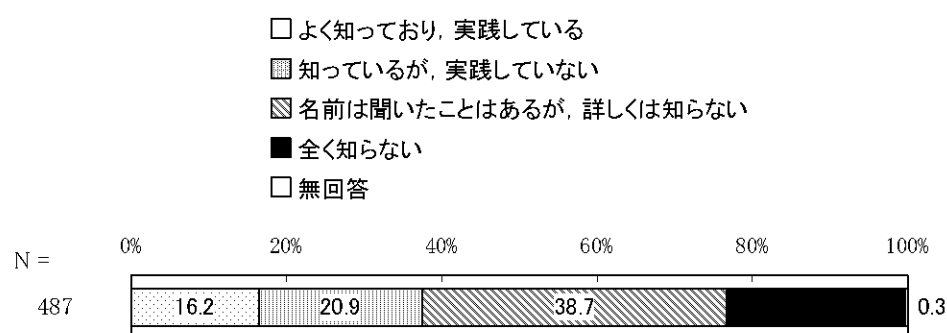
(2) 介護予防の認知状況

問4 Q5. 介護予防とは、なるべく要介護状態にならないように、また、介護が必要な人もそれ以上状態を悪化させないようにする取組のことです。あなたはこのことについて御存知でしたか。また、介護予防を実践していますか。＜○は1つ＞

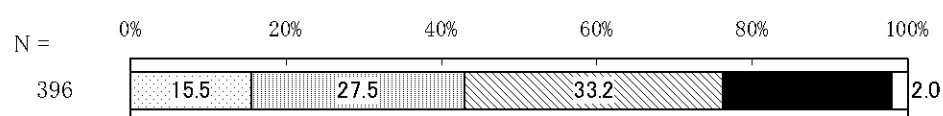
介護予防の認知状況については、「名前は聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が38.7%で最も高く、次いで「全く知らない」が22.7%、「知っているが、実践していない」が20.9%となっています。

前回調査と比較すると、「名前は聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が5.5ポイント増加しています。一方、「知っているが、実践していない」が6.6ポイント減少しています。

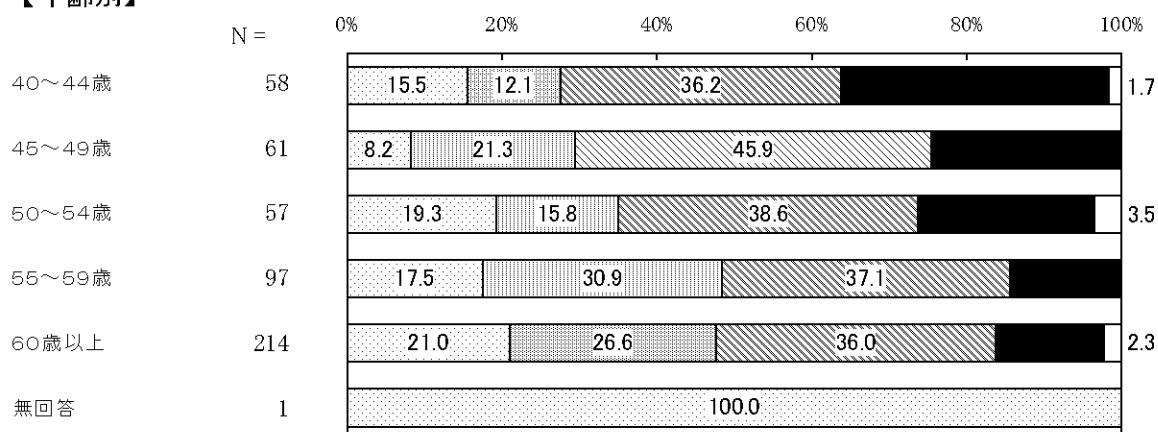
年齢別でみると、「45歳～49歳」では「よく知っており、実践している」が8.2%と最も低く、「60歳以上」では21.0%と最も高くなっています。「全く知らない」は年齢が上がるとともに低くなっています。



【前回調査（平成25年）】



【年齢別】



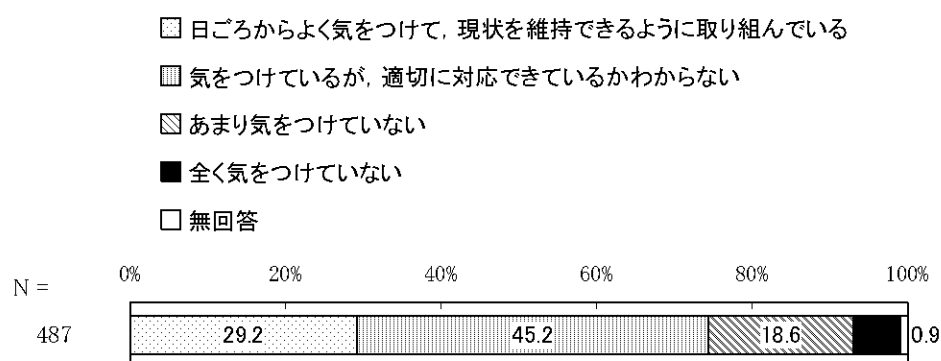
(3) 心身の変化への配慮や改善の取組状況

問4 Q6. あなたは日ごろ、御自分の心身の変化（足腰のおとろえなど）に気を配り、早めに改善していますか。＜○は1つ＞

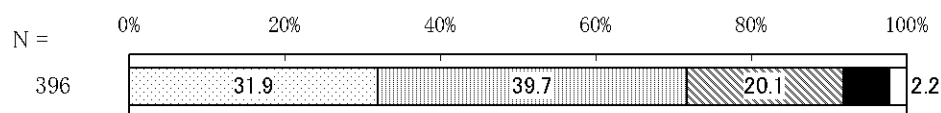
心身の変化への配慮や改善の取組状況については、「気をつけているが、適切に対応できているかわからない」が45.2%で最も高く、次いで「日ごろからよく気をつけて、現状を維持できるように取り組んでいる」が29.2%、「あまり気をつけていない」が18.6%となっています。「あまり気をつけていない」と「全く気をつけていない」を合わせた“気をつけていない”の割合は24.6%となっています。

前回調査と比較すると、「気をつけているが、適切に対応できているかわからない」が5.5ポイント増加しています。

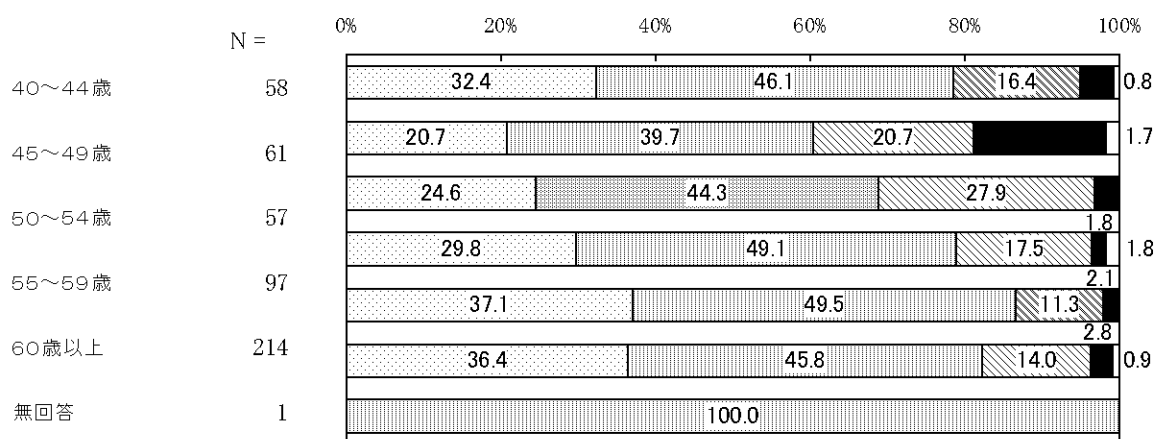
年齢別でみると、“気をつけていない”の割合は概ね年齢が上がるとともに低くなっています。



【前回調査（平成25年）】



【年齢別】



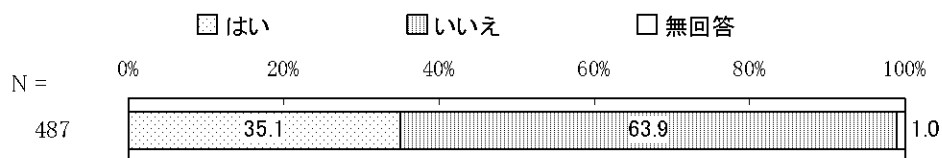
6 介護・介助に対する意識等について

(1) 認知症の方を支援する取組の認知状況

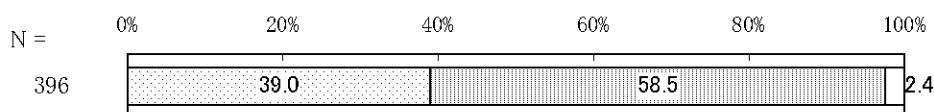
問5 Q 1. あなたは認知症の方を支援する取組について知っていますか。＜○は1つ＞

認知症の方を支援する取組の認知状況について、「はい（知っている）」が35.1%、「いいえ（知らない）」が63.9%となっています。

前回調査との比較では、「いいえ（知らない）」が5.4ポイント高くなっています。



【前回調査（平成25年）】

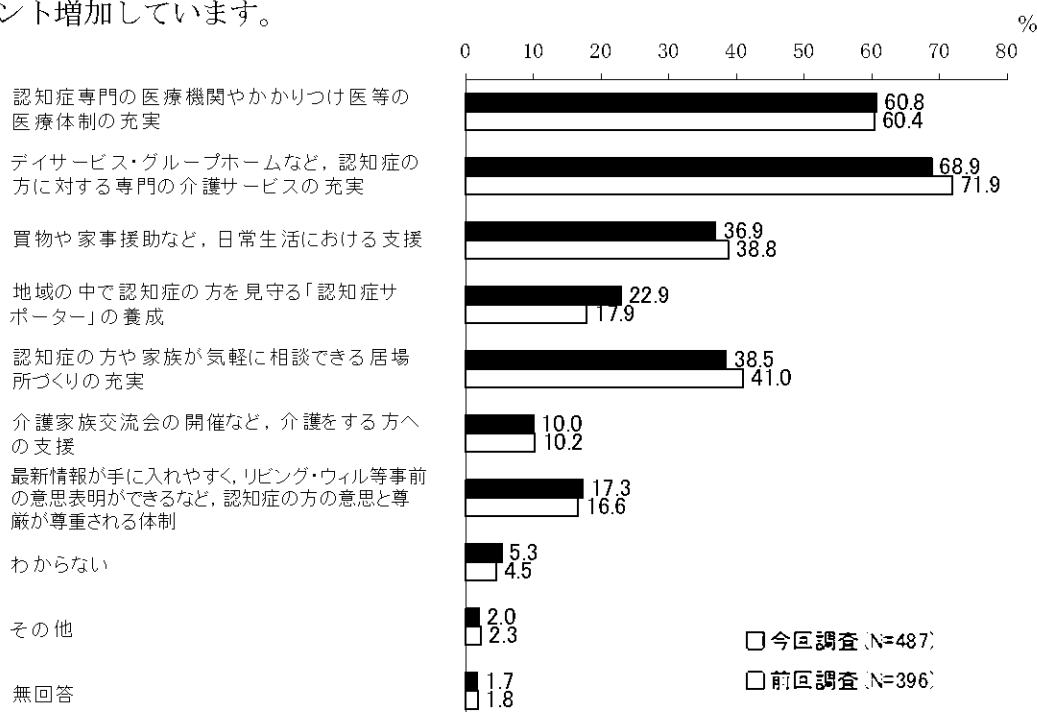


(2) 認知症になった場合に求める支援

問5 Q 2. あなたやあなたの家族が認知症になった場合、どのような支援があればよいと思いますか。＜○は3つまで＞

認知症になった場合に求める支援については、「デイサービス・グループホームなど、認知症の方に対する専門の介護サービスの充実」が68.9%で最も高く、次いで「認知症専門の医療機関やかかりつけ医等の医療体制の充実」が60.8%、「認知症の方や家族が気軽に相談できる居場所づくりの充実」が38.5%となっています。

前回調査と比較すると、「地域の中で認知症の方を見守る「認知症サポーター」の養成」が5.0ポイント増加しています。

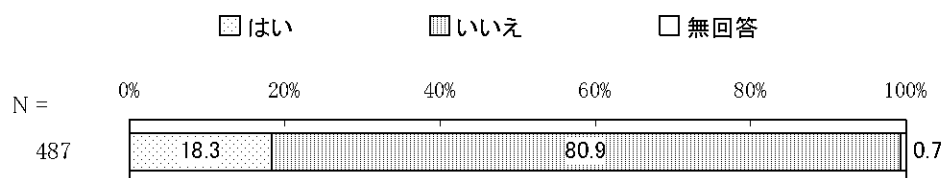


(3) 若年性認知症を支援する取組の認知状況

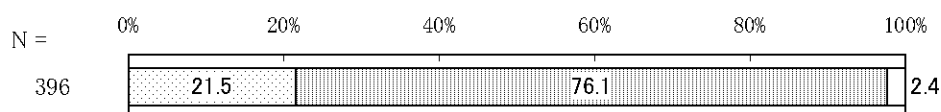
問5 Q3. 若年性認知症とは65歳未満で発症する認知症のことです。
 あなたは若年性認知症の方を支援する取組について知っていますか。
 <○は1つ>

若年性認知症を支援する取組の認知状況については、「はい（知っている）」が18.3%、「いいえ（知らない）」が80.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成25年）】

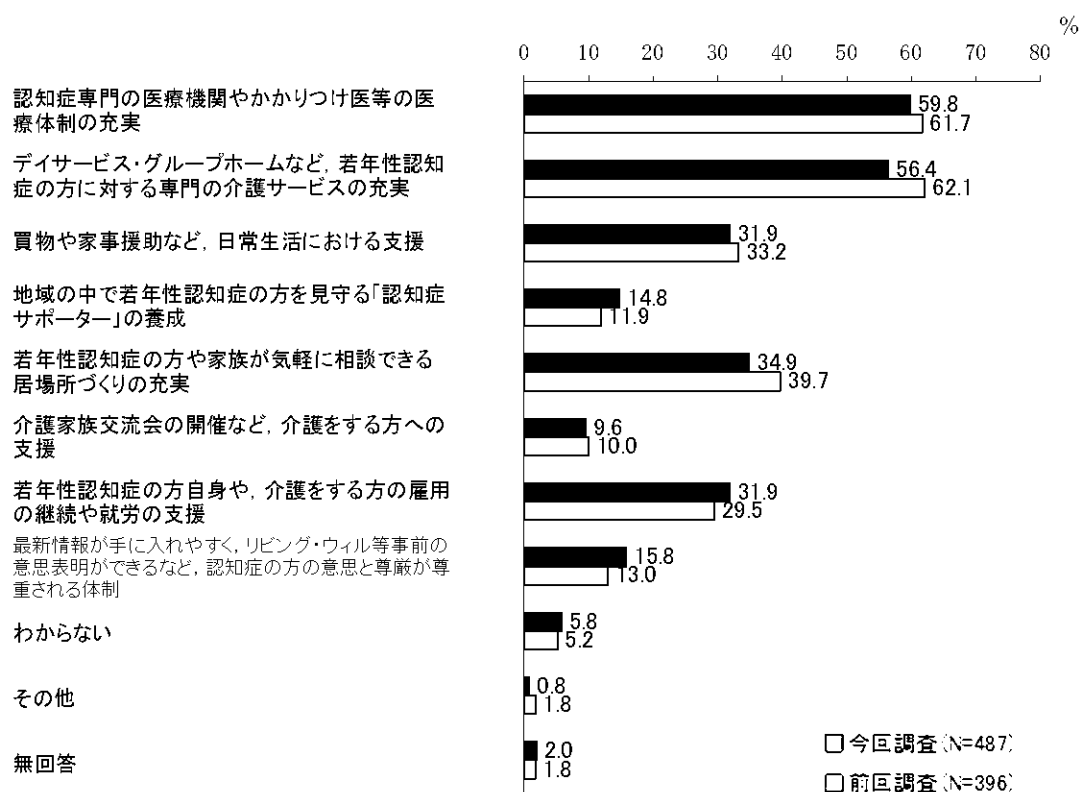


(4) 若年性認知症になった場合に求める支援

問5 Q4. あなたやあなたの家族が若年性認知症になった場合、どのような支援があればよいと思いますか。＜〇は3つまで＞

若年性認知症になった場合に求める支援については、「認知症専門の医療機関やかかりつけ医等の医療体制の充実」が59.8%で最も高く、次いで「デイサービス・グループホームなど、若年性認知症の方に対する専門の介護サービスの充実」が56.4%、「若年性認知症の方や家族が気軽に相談できる居場所づくりの充実」が34.9%となっています。

前回調査と比較すると、「デイサービス・グループホームなど、若年性認知症の方に対する専門の介護サービスの充実」が5.7ポイント減少しています。

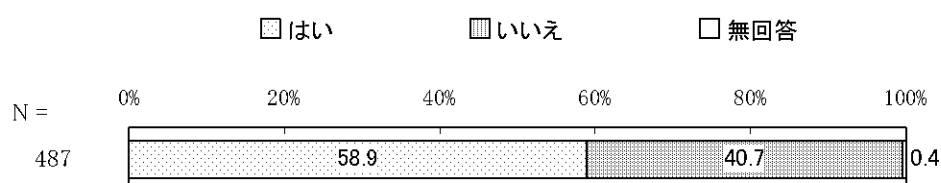


（５）成年後見制度の認知状況

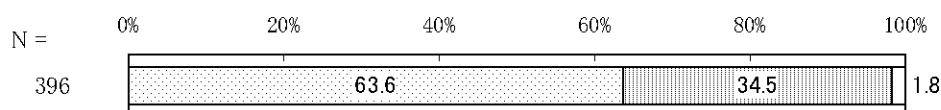
問５Ｑ５．成年後見制度とは、認知症や障害などの理由で判断能力の不十分な人に代わり、財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだりする支援を行う制度です。
あなたは成年後見制度を知っていますか。＜○は１つ＞

成年後見制度の認知状況については、「はい（知っている）」が 58.9%、「いいえ（知らない）」が 40.7%となっています。

前回調査と比較すると、「いいえ（知らない）」が 6.2 ポイント減少しています。



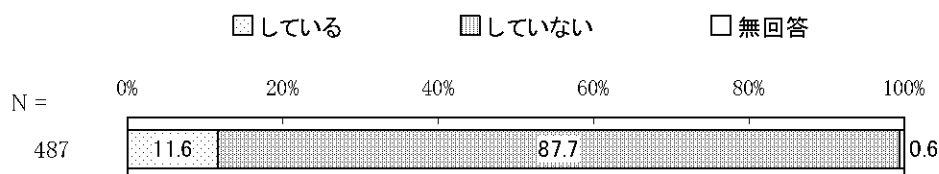
【前回調査（平成 25 年）】



（６）介護の有無

問５Ｑ６．あなたは、現在、家族の介護をしていますか。＜○は１つ＞

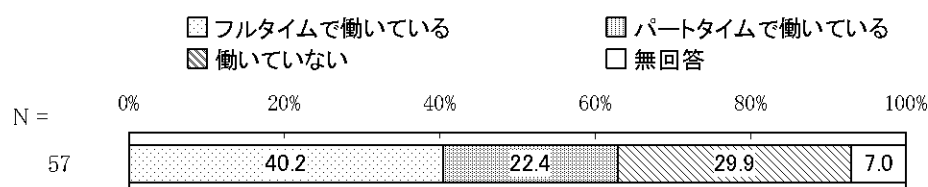
「現在、家族の介護をしているか」については、「している」が 11.6%、「していない」が 87.7%となっています。



（７）介護者の勤務形態

問５Ｑ７．Ｑ６で「１．している」と回答した方にお聞きします。現在の勤務形態について、御回答ください。＜○は１つ＞

介護者の勤務形態については、「フルタイムで働いている」が 40.2%と最も高く、次いで「働いていない」が 29.9%、「パートタイムで働いている」が 22.4%となっています。

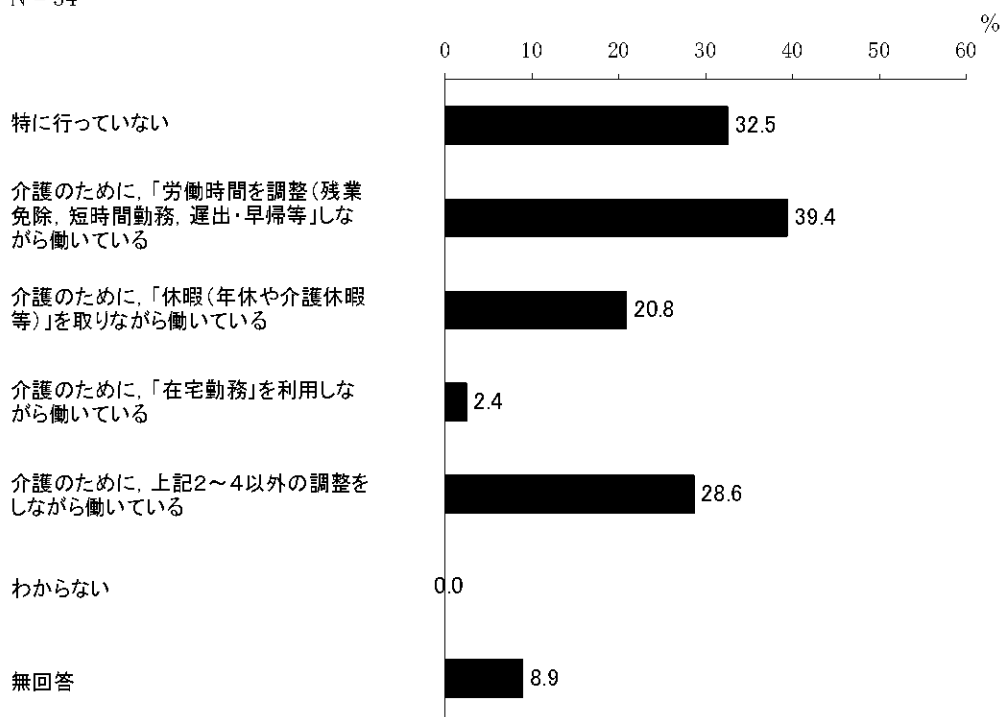


（８）働き方についての調整等

問５Ｑ７－１．Ｑ７で「１．フルタイムで働いている」、「２．パートタイムで働いている」と回答した方にお聞きします。介護をするに当たって、何か働き方についての調整等をしていますか。＜あてはまるものすべてに○＞

介護をするに当たって、働き方の調整等については、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰等）」しながら働いている」が39.4%と最も高く、次いで「特に行っていない」が32.5%、「介護のために、上記２～４以外の調整をしながら働いている」が28.6%となっています。

N = 34

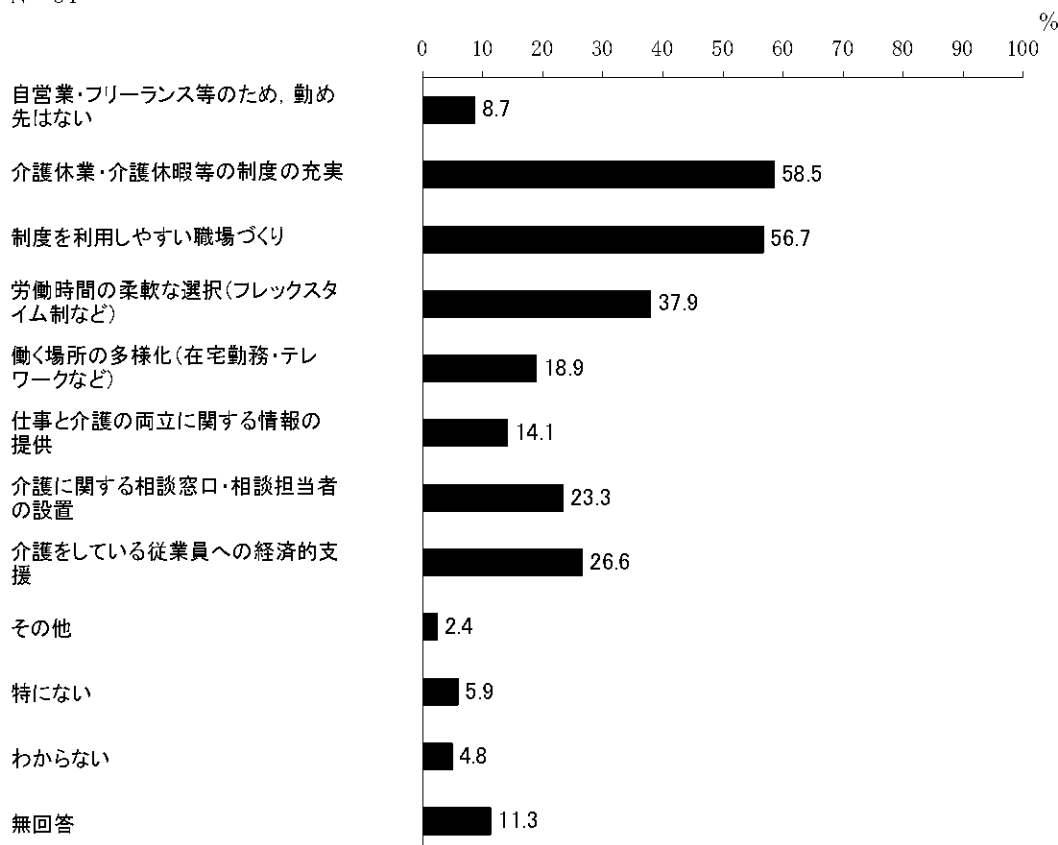


(9) 仕事と介護の両立のための支援

問5 Q7-2. Q7で「1. フルタイムで働いている」、「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお聞きします。勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。
 <あてはまるものすべてに○>

仕事と介護の両立のための支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が58.5%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が56.7%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が37.9%となっています。

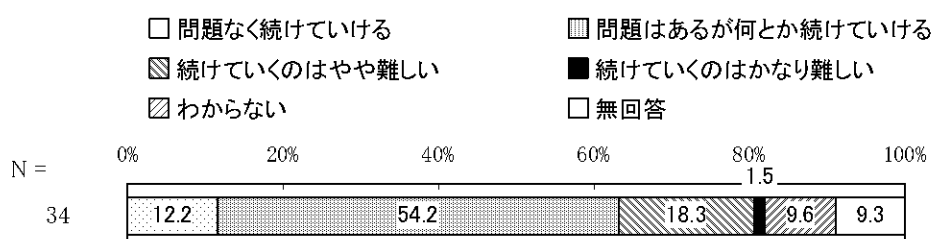
N = 34



(10) 就労しながらの介護の継続について

問5 Q7-3. Q7で「1. フルタイムで働いている」、「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお聞きします。今後も働きながら介護を続けていけそうですか。<○は1つ>

就労しながらの介護の継続については、「問題はあるが何とか続けていける」が54.2%と最も高く、次いで「続けていくのはやや難しい」が18.3%、「問題なく続けていける」が12.2%となっています。



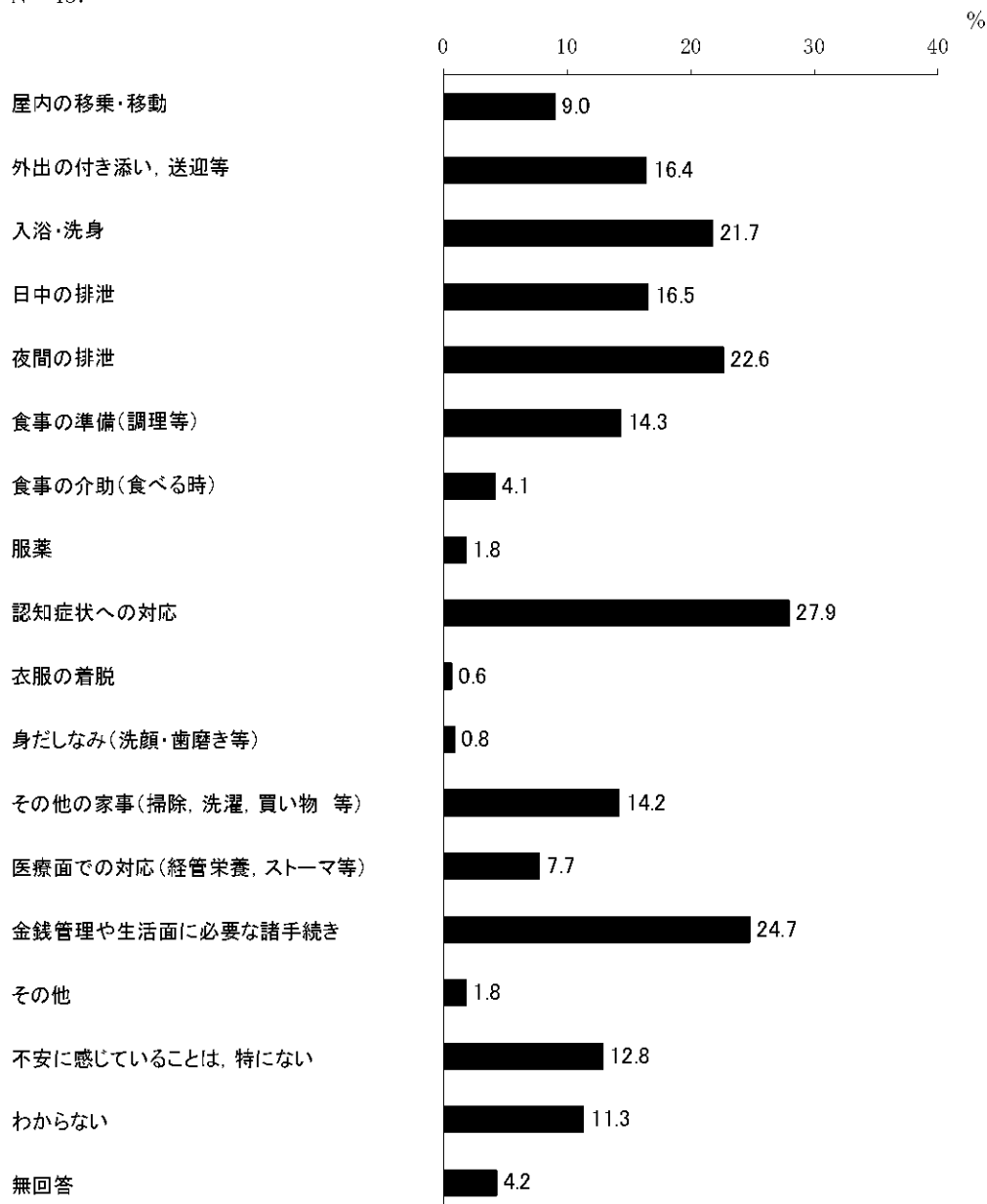
(11) 現在の生活を継続していくに当たって、不安を感じる介護等について

問5 Q8. あなたが現在の生活を継続していくに当たって、不安を感じる介護等について、御回答ください（現状で行っているか否かは問いません。）。

<〇は3つまで>

現在の生活を継続していくに当たって、不安を感じる介護等については、「認知症状への対応」が27.9%と最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が24.7%、「夜間の排泄」が22.6%となっています。

N = 487

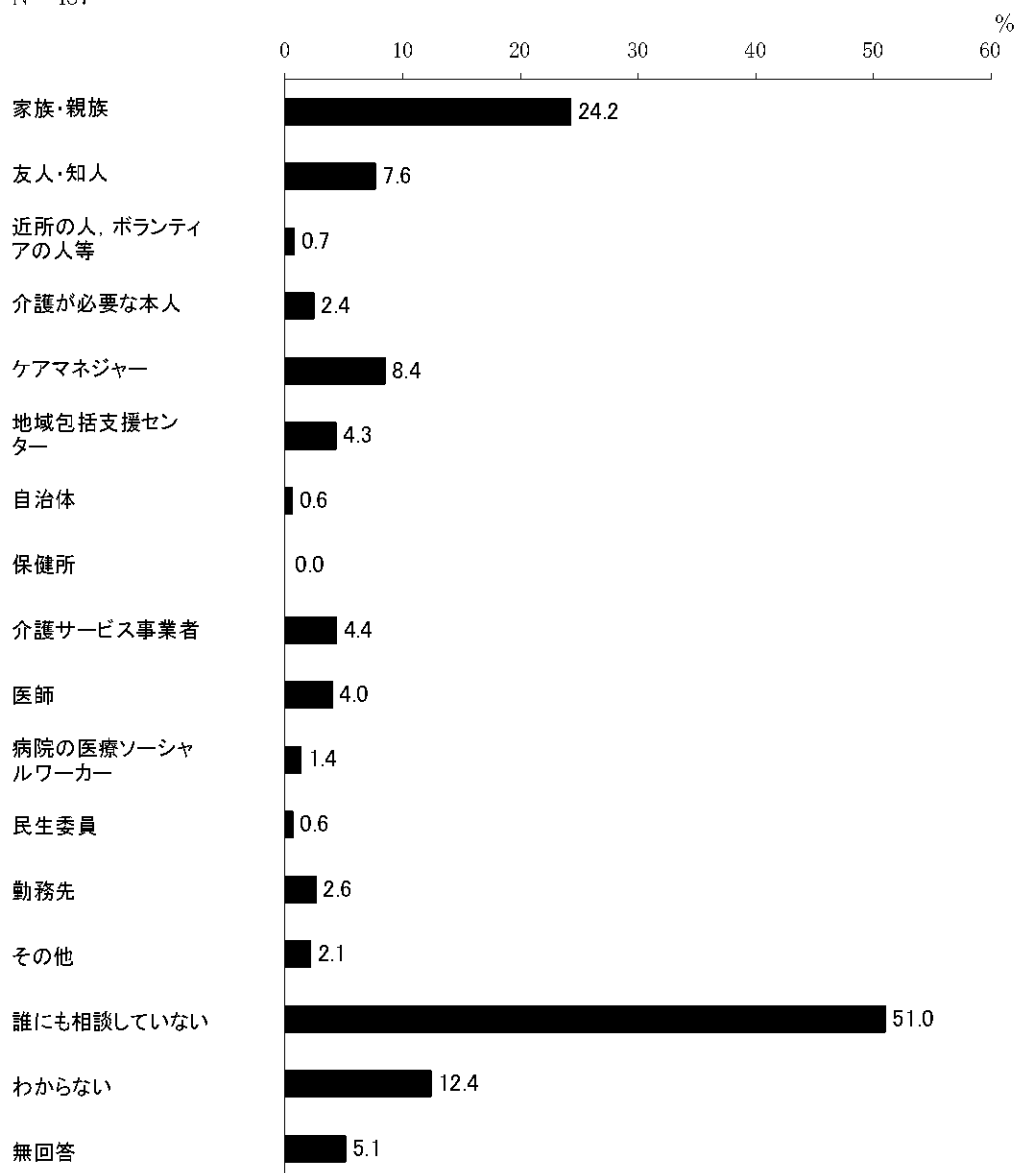


(12) 介護の相談相手

問5 Q9. あなたは、介護について誰かに相談していますか。
 <あてはまるものすべてに○>

介護の相談相手については、「誰にも相談していない」が 51.0%と最も高く、次いで「家族・親族」が 24.2%、「分からない」が 12.4%となっています。

N = 487

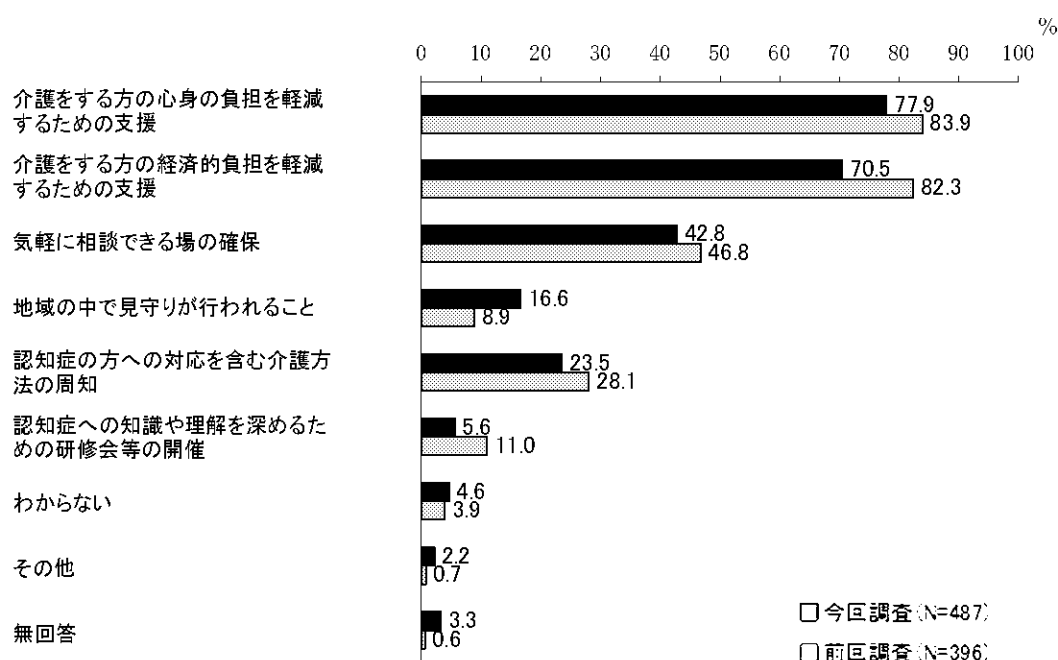


(13) 家族等の介護をするうえで求める支援

問5 Q10. あなたは、家族等の介護をするうえで、どのような支援があれば良いと思いますか。＜〇は3つまで＞

家族等の介護をするうえで求める支援については、「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が77.9%で最も高く、次いで「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」が70.53%、「気軽に相談できる場の確保」が42.8%となっています。

前回調査と比較すると、「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」が11.8ポイント、「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が6.0ポイント減少しています。

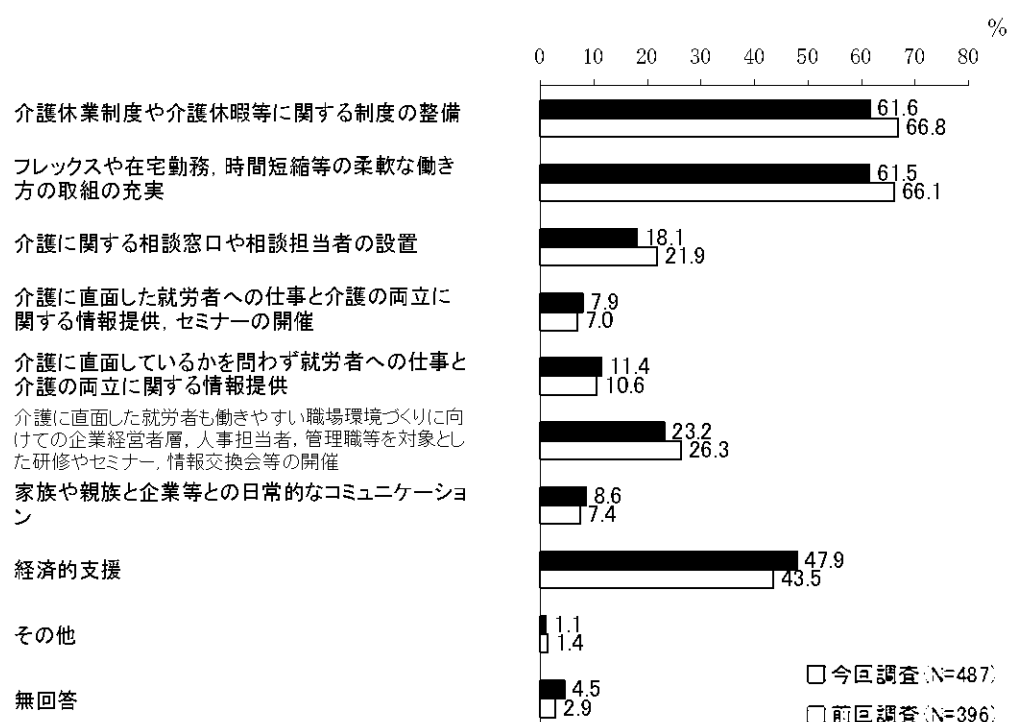


(14) 介護と仕事の両立支援のため企業等に求める支援

問5 Q11. あなたは介護と仕事を両立するためには、企業等にどのような支援策があれば良いと思いますか。＜〇は3つまで＞

介護と仕事の両立支援のため企業等に求める支援については、「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が61.6%で最も高く、次いで「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」が61.5%、「経済的支援」が47.9%となっています。

前回調査と比較すると、「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が5.2ポイント減少しています。



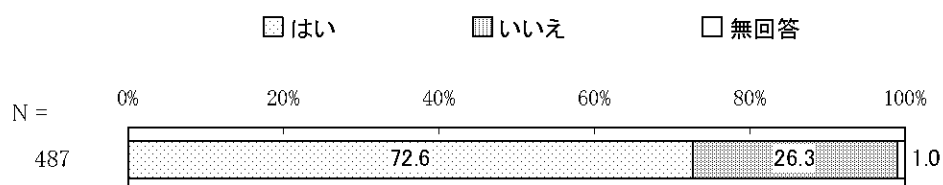
7 社会参加について

(1) 趣味の有無

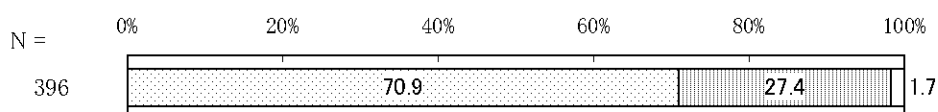
問6 Q 1. あなたは趣味がありますか。＜○は1つ＞

趣味の有無については、「はい（ある）」が 72.6%、「いいえ（ない）」が 26.3%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成 25 年）】

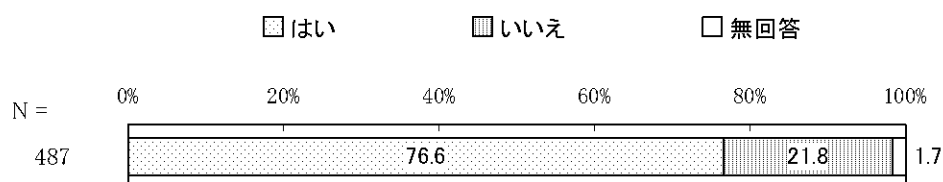


(2) 生きがいの有無

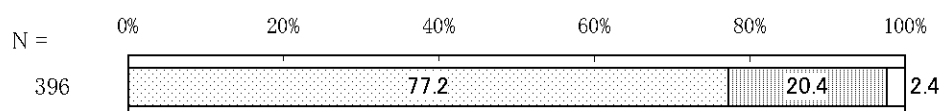
問6 Q 2. あなたは生きがいがありますか。＜○は1つ＞

生きがいの有無については、「はい（ある）」が 76.6%、「いいえ（ない）」が 21.8%となっています。

前回調査と比較すると前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成 25 年）】



(3) 会・グループの参加頻度

問6 Q3. あなたは以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
 <(1)から(6)までそれぞれ○は1つつつ>

会・グループの参加頻度については、「週4回以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”の割合は、「(4)町内会・自治会」が38.7%で最も高く、次いで「(3)趣味関係のグループ」が29.8%となっています。

「参加していないが、今後参加したい」は、「(5)学習・教養サークル」で43.9%で最も高く、次いで「(1)ボランティアのグループ」で41.8%となっています。

「参加していないし、今後も参加する気はない」は、「(1)ボランティアのグループ」、「(2)スポーツ関係のグループやクラブ」、「(4)町内会・自治会」、「(5)学習・教養サークル」で、いずれも30.0%以上となっています。

前回調査と比較すると、「参加していないが、今後参加したい」は、「(2)スポーツ関係のグループやクラブ」が6.1ポイント、「(4)町内会・自治会」で5.2ポイント増加しています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加したい	参加していないが、今後	参加していないし、今後	無回答
(1) ボランティアのグループ	487	0.3	1.4	1.3	3.9	4.0				3.6
(2) スポーツ関係のグループやクラブ	487	1.9	4.1	5.3	6.7	6.9	34.1			4.5
(3) 趣味関係のグループ	487	0.5	2.0	5.2	12.5	9.6	37.5	28.5		4.1
(4) 町内会・自治会	487	0.1	0.2	0.0	4.8		22.0			3.7
(5) 学習・教養サークル	487	0.1	0.4	2.3	4.2	6.6				4.9
(6) その他の団体や会	487	0.5	1.4	0.3	4.9	5.7	25.9			4.3

【前回調査（平成 25 年）】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	後 参 加 し て い な い が、 今 後 参 加 し た い	参 加 し て い な い し、 今 後 も 参 加 す る 気 は な い	無 回 答
(1) ボランティアのグループ	396	0.4	0.6	0.9	4.5	5.5	40.2	40.8	7.0
(2) スポーツ関係のグループやクラブ	396	0.6	4.7	8.1	5.6	5.0	28.0	41.3	6.6
(3) 趣味関係のグループ	396	0.2	1.1	5.5	9.5	10.0	37.4	30.9	5.4
(4) 町内会・自治会	396	0.0	0.2	0.2	6.2	35.0	16.8	34.4	7.0
(5) 学習・教養サークル	396	0.0	0.6	2.2	3.8	3.8	42.0	40.4	7.2
(6) その他の団体や会	396	0.8	1.3	1.7	4.6	8.2	19.9	55.8	7.7

(4) 社会参加活動や仕事の活動頻度

問6 Q4. あなたは以下のような活動（社会参加活動や仕事）をどのくらいの頻度でしていますか。＜(1)から(5)までそれぞれ○は1つつつ＞

社会参加活動や仕事の活動頻度については、「週4回以上」から「年に数回」までをあわせた『参加している』の割合は「収入のある仕事」で61.7%と最も高くなっています。

「していないが、今後したい」は「(4)地域の生活環境の改善（美化）活動」で45.9%で最も高く、次いで「(1)見守りが必要な高齢者を支援する活動」で41.8%、「(3)子どもを育てている親を支援する活動」で41.2%となっています。

「していないし、今後もしない」は「(1)見守りが必要な高齢者を支援する活動」で49.1%、「(2)介護が必要な高齢者を支援する活動」で50.2%、「(3)子どもを育てている親を支援する活動」で48.3%となっています。

前回調査と比較すると、「(5)収入のある仕事」で「週4回以上」が7.4ポイント、「(4)地域の生活環境の改善（美化）活動」で「していないし、今後もしない」で5.3ポイント増加しています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	していないが、 今後したい	していないし、 今後もしない	無回答
(1) 見守りが必要な高齢者を支援する活動	487	2.4	0.1	0.2	1.3	0.6			4.5
(2) 介護が必要な高齢者を支援する活動	487	2.9	0.2	0.2	1.5	0.7	39.5		4.7
(3) 子どもを育てている親を支援する活動	487	0.4	0.4	0.0	1.8	3.3			4.7
(4) 地域の生活環境の改善（美化）活動	487	0.3	0.4	—	0.8	12.4		36.0	4.3
(5) 収入のある仕事	487	53.8	5.7	1.0	0.7	0.5	19.2	14.1	5.0

【前回調査（平成 25 年）】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	したい していないが、 今後し	していないし、 する気はない 今後もし	無 回 答
(1) 見守りが必要な高齢者を支援する活動	396	3.2	0.6	1.2	1.3	2.4	36.9	48.7	5.7
(2) 介護が必要な高齢者を支援する活動	396	3.1	0.8	0.4	0.6	2.5	36.7	49.0	6.9
(3) 子どもを育てている親を支援する活動	396	0.8	0.4	0.4	0.8	4.0	41.6	45.8	6.3
(4) 地域の生活環境の改善（美化）活動	396	0.4	0.2	0.4	2.1	14.8	45.1	30.7	6.3
(5) 収入のある仕事	396	46.4	6.2	1.2	0.8	0.4	23.3	15.9	5.9

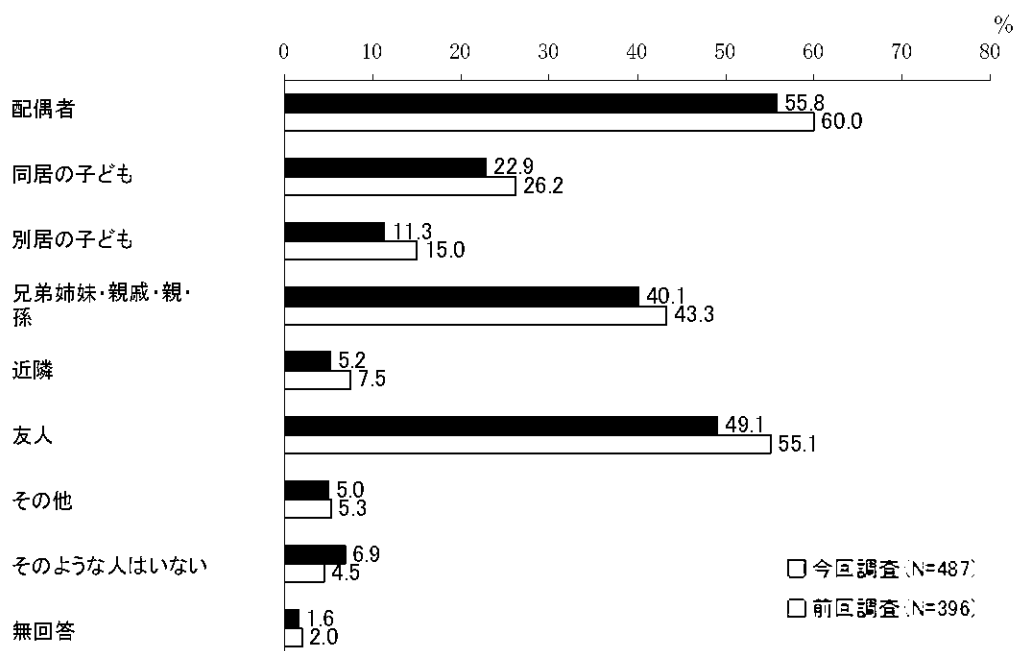
(5) たすけあいの状況

問6 Q5. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
 <①から④までそれぞれあてはまるものすべてに○>

① あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が 55.8%で最も高く、次いで「友人」が 49.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 40.1%となっています。

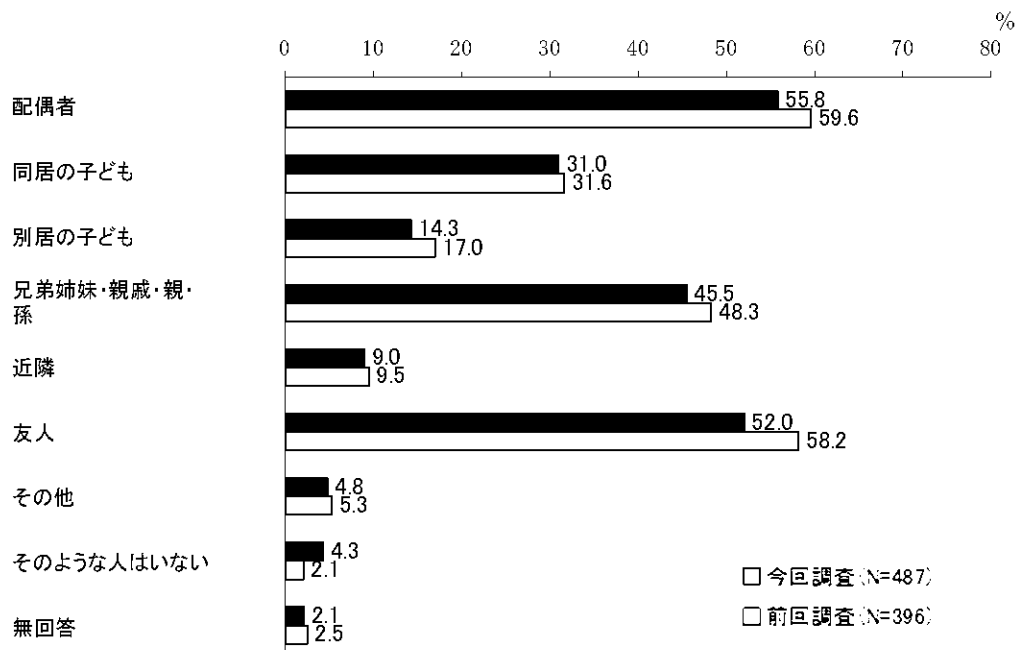
前回調査と比較すると、「友人」が 6.0 ポイント減少しています。



② 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が 55.8%で最も高く、次いで「友人」が 52.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 45.5%となっています。

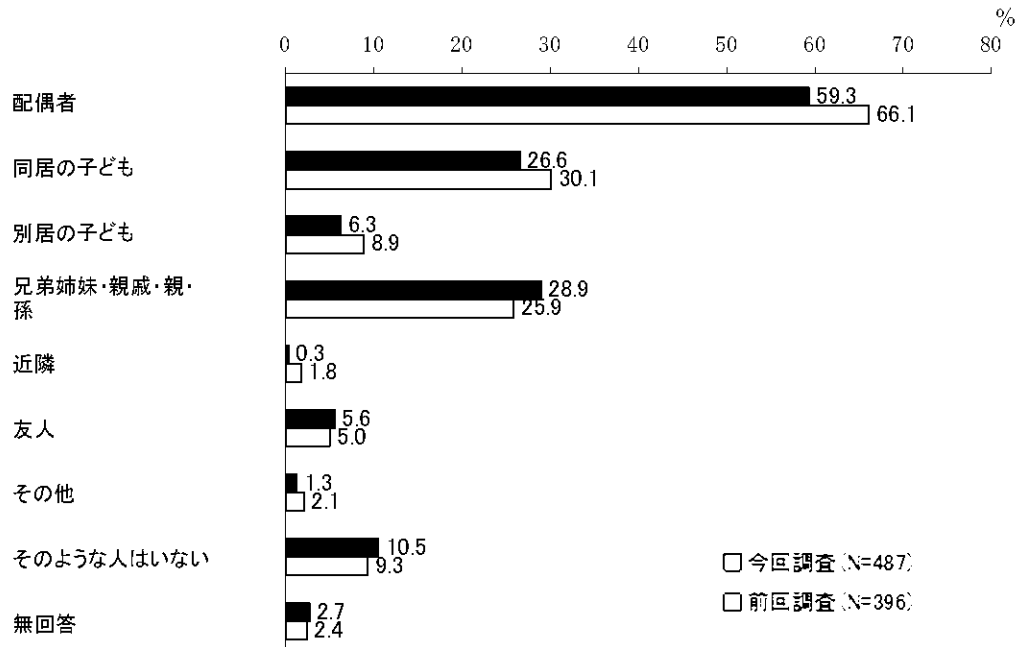
前回調査と比較すると、「友人」が 6.2 ポイント減少しています。



③ あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が 59.3%で最も高く、次いで「同居の子ども」が 26.6%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 28.9%となっています。

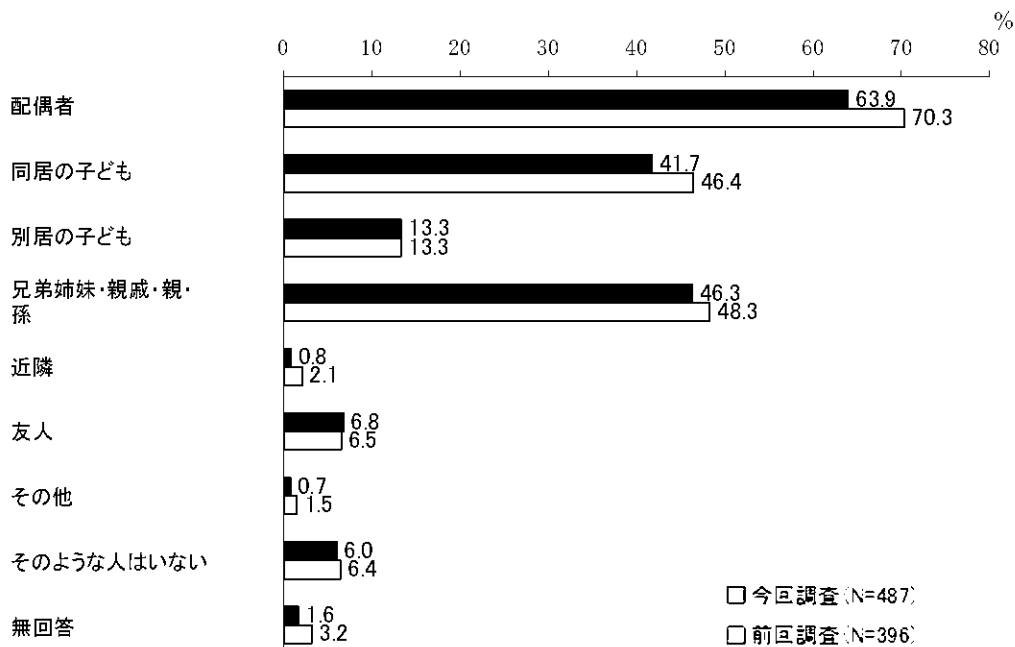
前回調査と比較すると、「配偶者」が 6.8 ポイント減少しています。



④ 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人

看病や世話をしてあげる人については、「配偶者」が 63.9%で最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 46.3%、「同居の子ども」が 41.7%となっています。

前回調査と比較すると、「配偶者」が 6.4 ポイント減少しています。

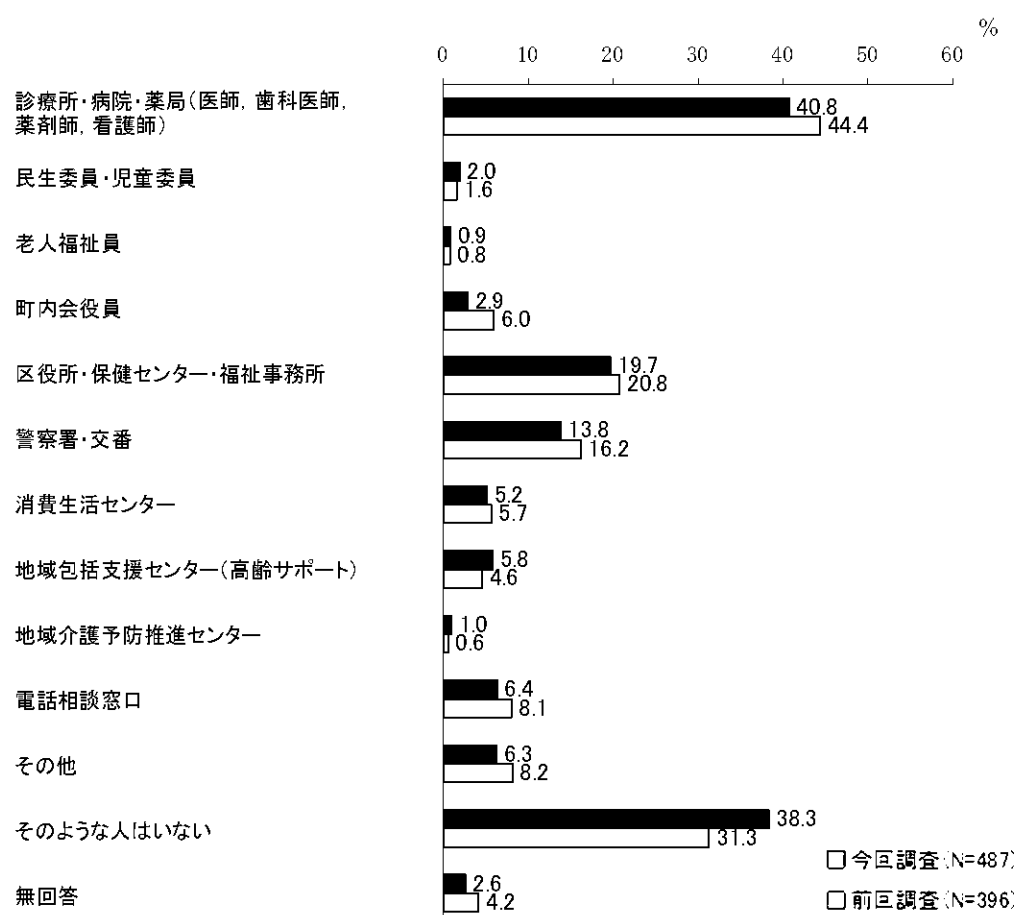


（６）家族や友人・知人以外での相談相手

問６Ｑ６．あなたが家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。＜あてはまるものすべてに○＞

家族や友人・知人以外での相談相手については、「診療所・病院・薬局（医師，歯科医師，薬剤師，看護師）」が 40.8%で最も高く，次いで「そのような人はいない」が 38.3%，「区役所・保健センター・福祉事務所」が 19.7%となっています。

前回調査と比較すると，「そのような人はいない」が 7.0 ポイント増加しています。

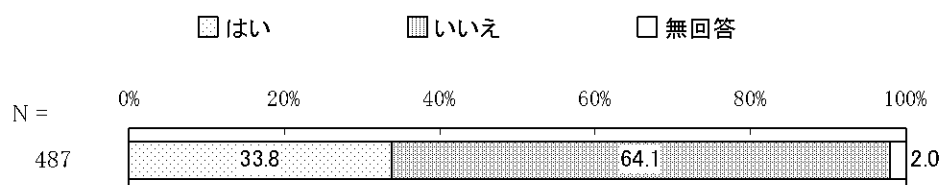


（７）地域包括支援センターの認知状況

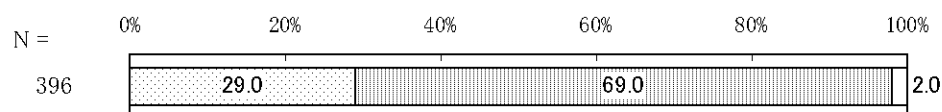
問６Ｑ７．あなたは地域包括支援センター（愛称：高齢サポート）を知っていますか。
＜○は１つ＞

地域包括支援センターの認知状況については、「はい（知っている）」が 33.8%、「いいえ（知らない）」が 64.1%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成 25 年）】



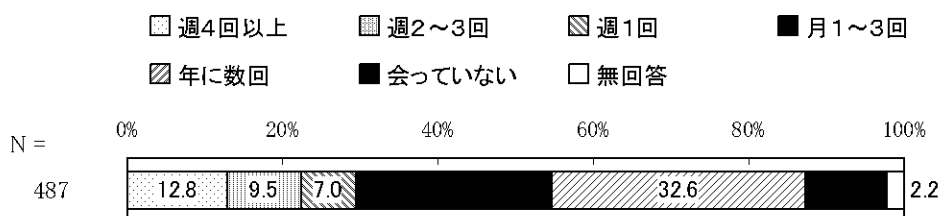
（８）友人関係

問６Ｑ８．あなたの友人関係についておうかがいします。

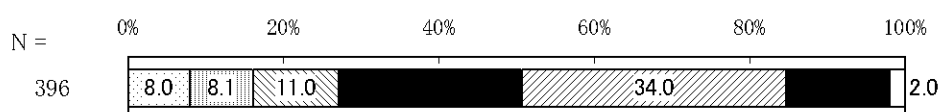
（１）あなたが友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。＜○は１つ＞

友人と会う頻度については、「年に数回」が 32.6%で最も高く、次いで「月に１～３回」が 25.3%、「週４回以上」が 12.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



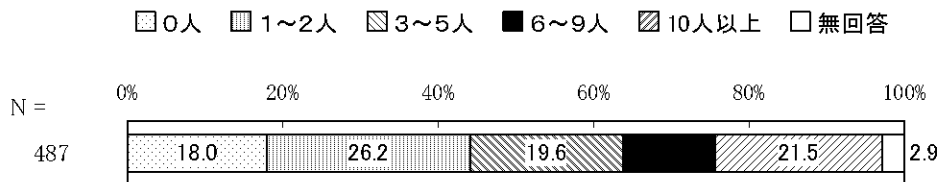
【前回調査（平成 25 年）】



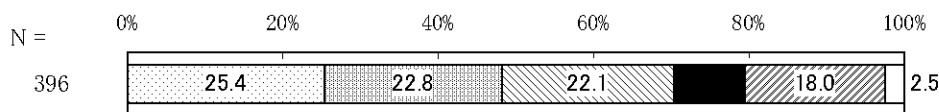
(2) あなたはこの1箇月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。＜〇は1つ＞

この1ヶ月の間に会った友人の人数については、「1～2人」が26.2%で最も高く、次いで「10人以上」が21.5%、「3～5人」が19.6%となっています。

前回調査と比較すると、「0人」が7.4ポイント減少しています。



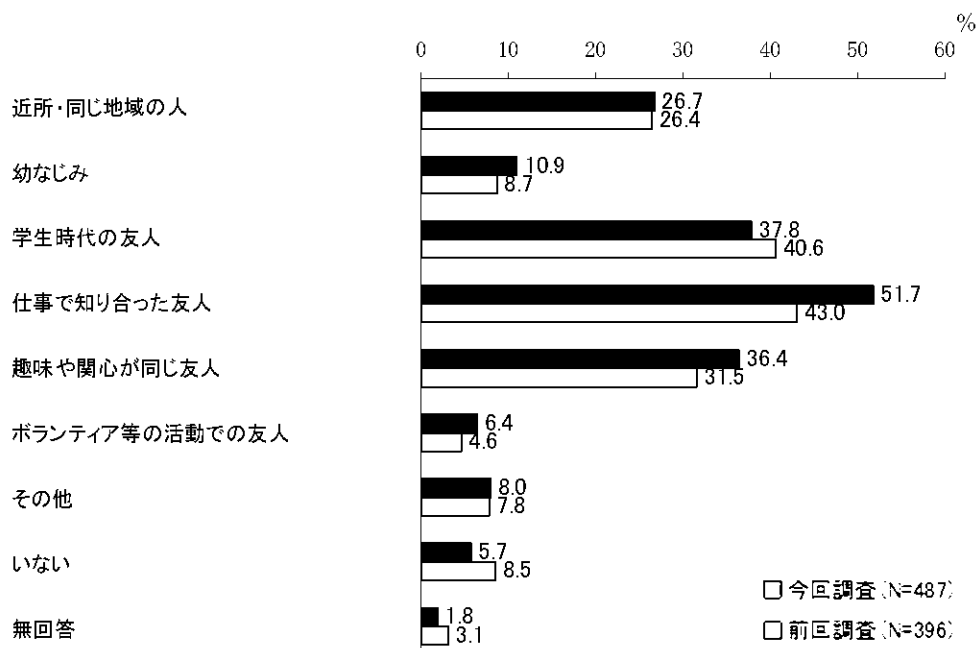
【前回調査（平成25年）】



(3) あなたがよく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。
＜あてはまるものすべてに〇＞

よく会う友人との関係については、「仕事で知り合った友人」が51.7%で最も高く、次いで「学生時代の友人」が37.8%、「趣味や関心が同じ友人」が36.4%となっています。

前回調査と比較すると、「仕事で知り合った友人」が8.7ポイント増加しています。



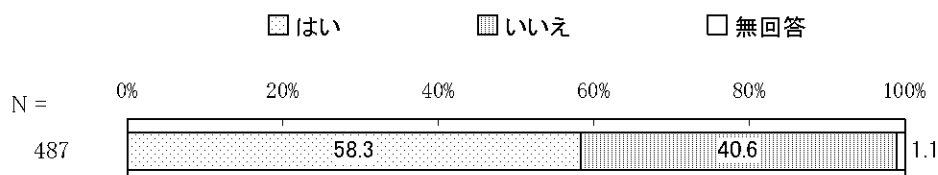
8 高齢者との関わりについて

(1) 高齢の親や祖父母との同居経験の有無

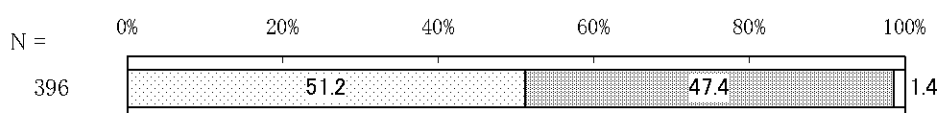
問7 Q 1. あなたは高齢の親や祖父母との同居経験がありますか。＜○は1つ＞

高齢の親や祖父母との同居経験の有無については、「はい（ある）」が58.3%、「いいえ（ない）」が40.6%となっています。

前回調査と比較すると、「はい（ある）」が7.1ポイント増加しています。



【前回調査（平成25年）】

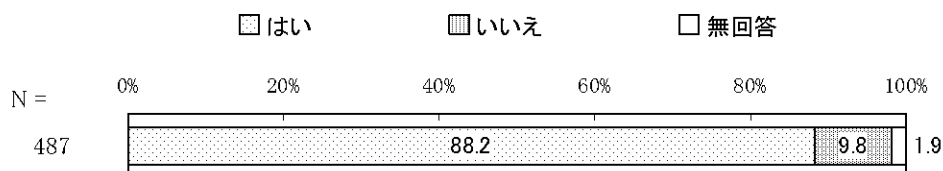


(2) 別居している親や祖父母と行き来したことの有無

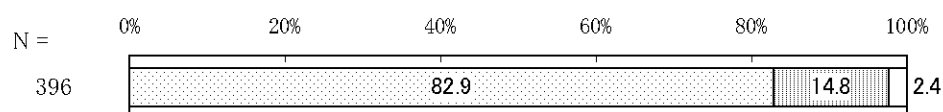
問7 Q 2. あなたは別居している親や祖父母と行き来したことがありますか。＜○は1つ＞

別居している親や祖父母と行き来したことの有無については、「はい（ある）」が88.2%、「いいえ（ない）」が9.8%となっています。

前回調査と比較すると、「はい（ある）」が5.3ポイント増加しています。



【前回調査（平成25年）】

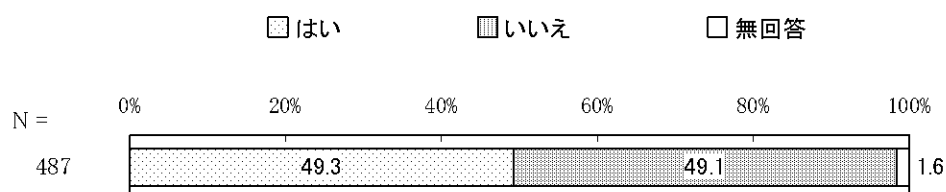


(3) 職場で日常的に高齢者と交流を持った経験の有無

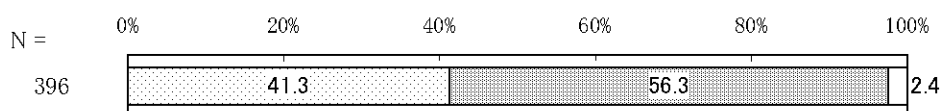
問7 Q3. あなたは職場で日常的に高齢者と交流を持ったことがありますか。
 <○は1つ>

職場で日常的に高齢者と交流を持った経験の有無については、「はい（ある）」が49.3%、「いいえ（ない）」が49.1%となっています。

前回調査と比較すると、「はい（ある）」が8.0ポイント増加しています。



【前回調査（平成25年）】

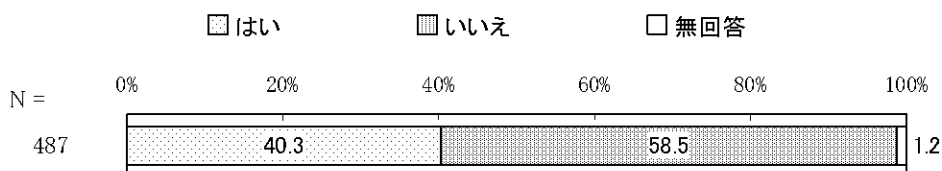


(4) 地域で日常的に高齢者と交流を持った経験の有無

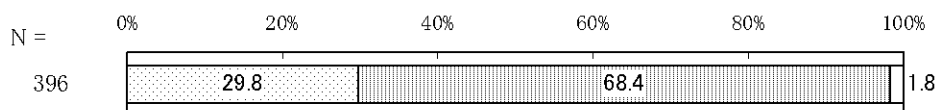
問7 Q4. あなたは地域で日常的に高齢者と交流を持ったことがありますか。
 <○は1つ>

地域で日常的に高齢者と交流を持った経験の有無については、「はい（ある）」が40.3%、「いいえ（ない）」が58.5%となっています。

前回調査と比較すると、「はい（ある）」が10.5ポイント増加しています。



【前回調査（平成25年）】

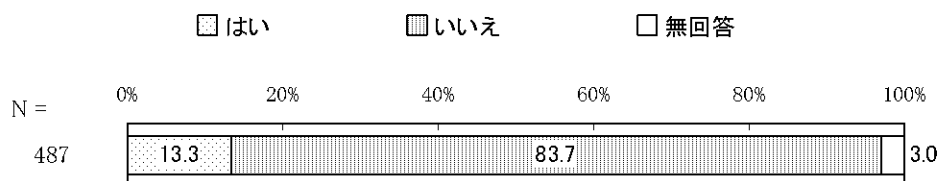


（５）ボランティア活動などでの高齢者との交流経験の有無

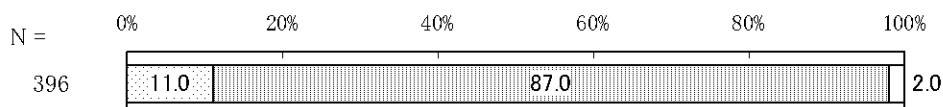
問 7 Q 5. あなたはボランティア活動などでの高齢者との交流がありますか。
 <○は１つ>

ボランティア活動などでの高齢者との交流経験の有無については、「はい（ある）」が 13.3%、「いいえ（ない）」が 83.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成 25 年）】

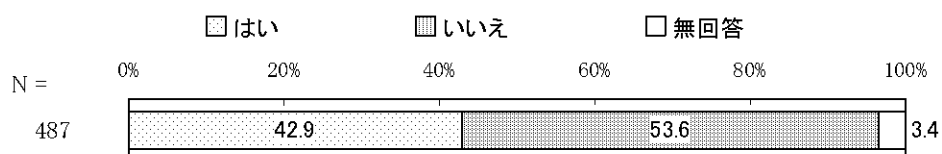


（６）介護を必要とする高齢者を世話した経験の有無

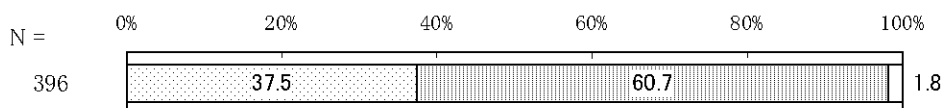
問 7 Q 6. あなたは介護を必要とする高齢者を世話した経験がありますか。
 <○は１つ>

介護を必要とする高齢者を世話した経験の有無については、「はい（ある）」が 42.9%、「いいえ（ない）」が 53.6%となっています。

前回調査と比較すると前回調査と比較すると、「はい（ある）」が 5.4 ポイント増加し、「いいえ（ない）」が 7.1 ポイント減少しています。



【前回調査（平成 25 年）】

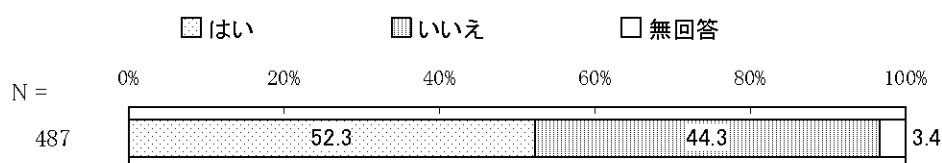


(7) 人生の先輩として尊敬できる高齢者との交流経験の有無

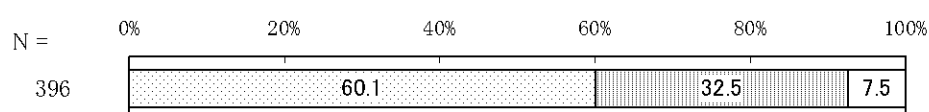
問7 Q7. あなたは人生の先輩として尊敬できる高齢者との交流を経験したことがありますか。〈○は1つ〉

人生の先輩として尊敬できる高齢者との交流経験の有無については、「はい(ある)」が52.3%、「いいえ(ない)」が44.3%となっています。

前回調査と比較すると、「はい(ある)」が7.8ポイント減少し、「いいえ(ない)」が11.8ポイント増加しています。



【前回調査 (平成 25 年)】



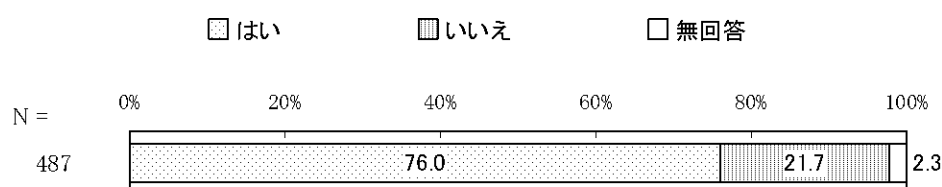
(8) 本・テレビを通じて高齢者問題を考えた経験の有無

問7 Q8. あなたは本、テレビを通じて高齢者問題を考えたことがありますか。

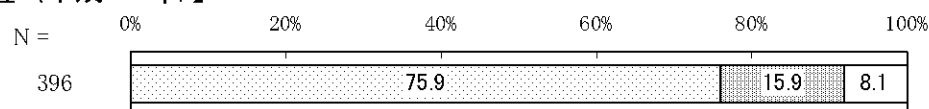
〈どちらかに○〉

本・テレビを通じて高齢者問題を考えた経験の有無については、「はい(ある)」が76.0%、「いいえ(ない)」が21.7%となっています。

前回調査と比較すると、「いいえ(ない)」が5.8ポイント増加しています。



【前回調査 (平成 25 年)】

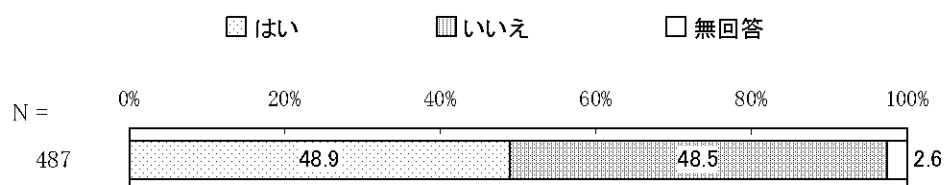


（９）認知症の方と関わった経験の有無

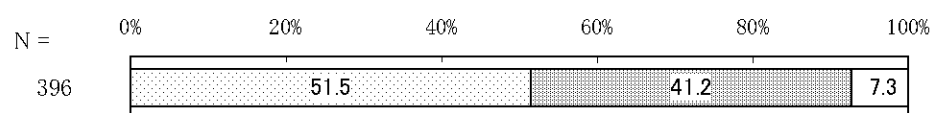
問 7 Q 9. あなたは認知症の方と関わった経験がありますか。＜どちらかに○＞

認知症の方と関わった経験の有無については、「はい（ある）」が 48.9%、「いいえ（ない）」が 48.5%となっています。

前回調査と比較すると、「いいえ（ない）」が 7.3 ポイント増加しています。



【前回調査（平成 25 年）】



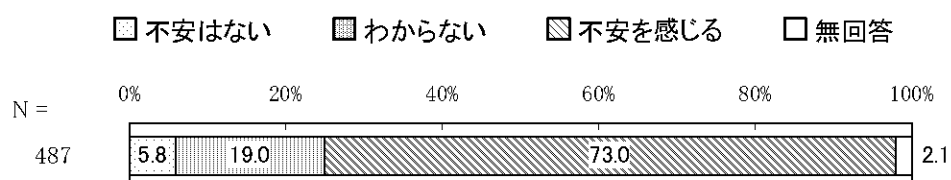
9 高齢期について

(1) 老後の生活に対する不安の有無

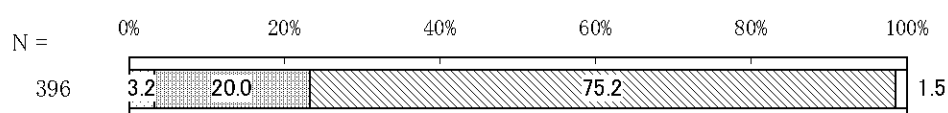
問8 Q1. あなたは、老後の生活に不安を感じていますか。＜○は1つ＞

老後の生活に対する不安の有無については、「不安を感じる」が73.0%で最も高く、次いで「わからない」が19.0%、「不安はない」が5.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成25年）】

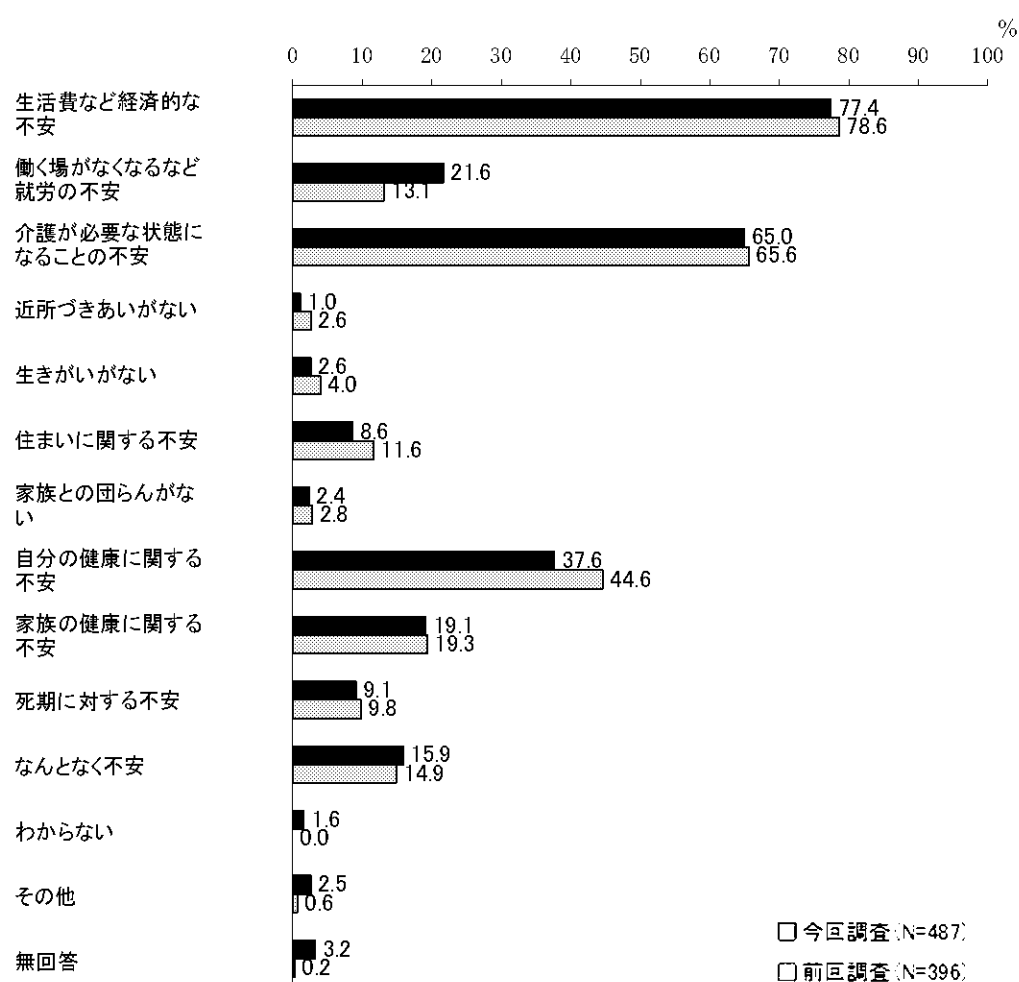


（２）老後の生活に対する不安の内容

問 8 Q 1－1. Q 1で「3. 不安を感じる」と回答した方にお聞きします。
どんなことに不安を感じますか。＜○は3つまで＞

老後の生活に対する不安を感じると回答した人に、その内容についてたずねたところ、「生活費など経済的な不安」が 77.4%で最も高く、次いで「介護が必要な状態になることの不安」が 65.0%、「自分の健康に関する不安」が 37.6%となっています。

前回調査と比較すると、「働く場がなくなるなど就労の不安」が 8.5 ポイント増加しています。一方、「自分の健康に関する不安」が 7.0 ポイント減少しています。

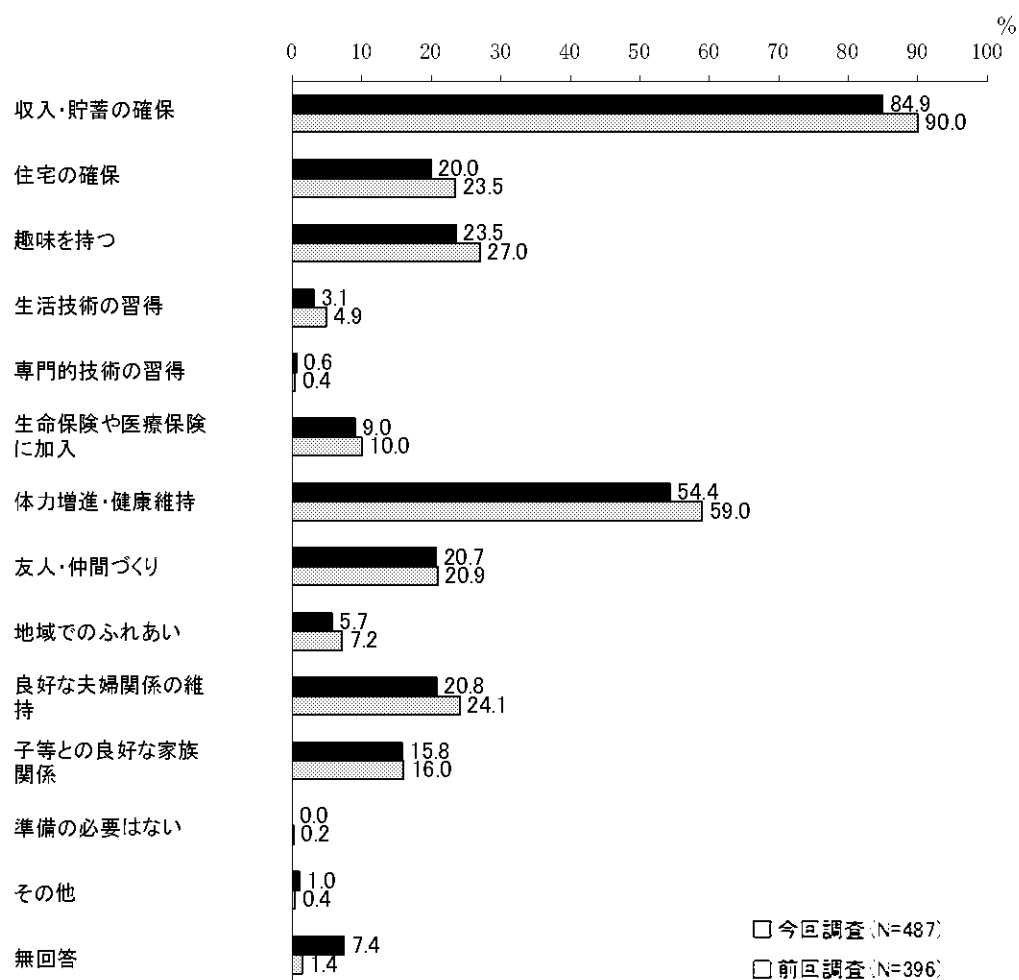


(3) 老後のための準備として必要なもの

問 8 Q 2. あなたは老後のための準備として必要なものは何だと思いますか。
 <〇は3つまで>

老後のための準備として必要なものについては、「収入・貯蓄の確保」が 84.9%で最も高く、次いで「体力増進・健康維持」が 54.4%、「趣味を持つ」が 23.5%となっています。

前回調査と比較すると、「収入・貯蓄の確保」が 5.1 ポイント減少しています。

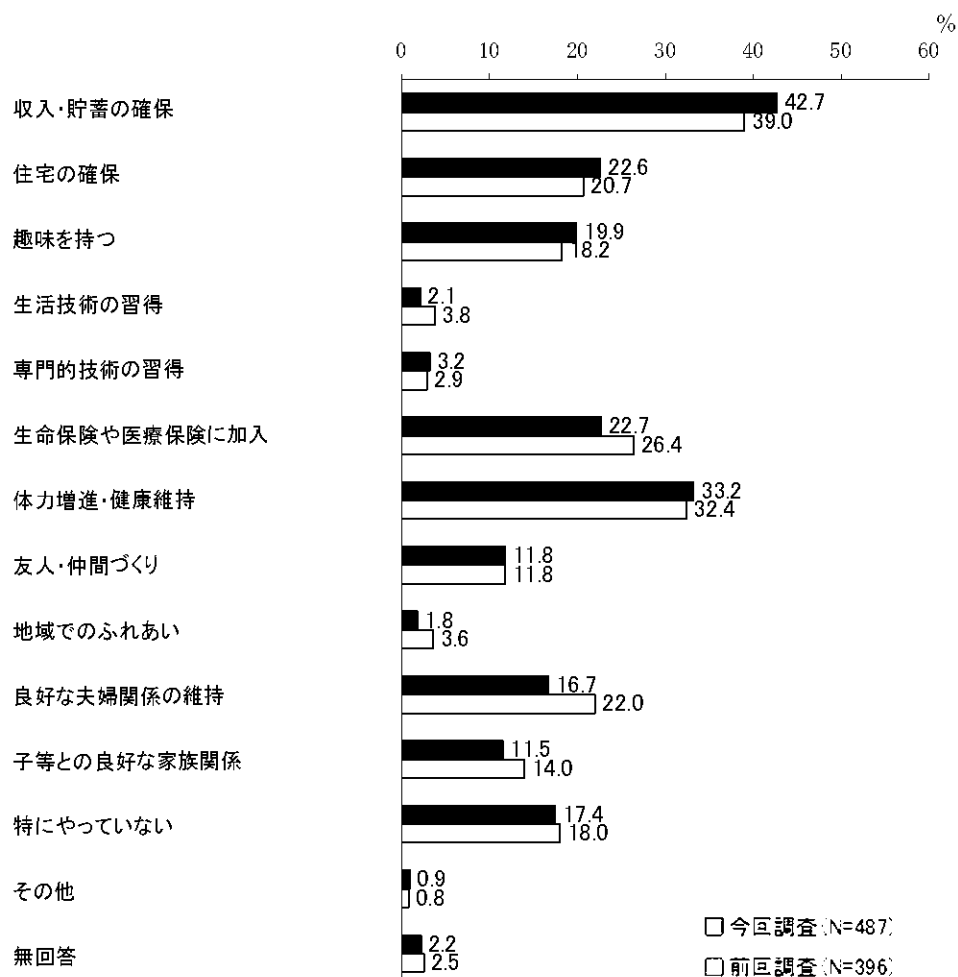


(4) 老後のための準備としてすでに行っていること

問8 Q3. あなたは老後のための準備として、現在すでに行っていることはありますか。
 <〇は3つまで>

老後のための準備としてすでに行っていることについては、「収入・貯蓄の確保」が42.7%で最も高く、次いで「体力増進・健康維持」が33.2%、「生命保険や医療保険に加入」が22.7%となっています。

前回調査と比較すると、「良好な夫婦関係の維持」が5.3ポイント減少しています。

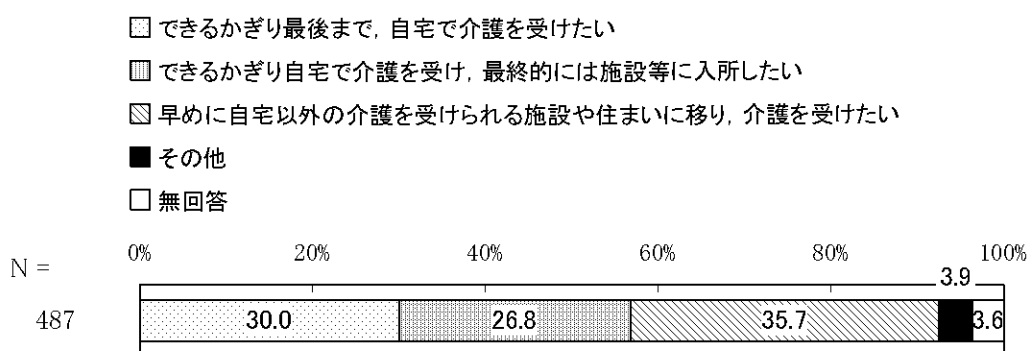


（５）介護が必要になった場合の介護を受けたい場所

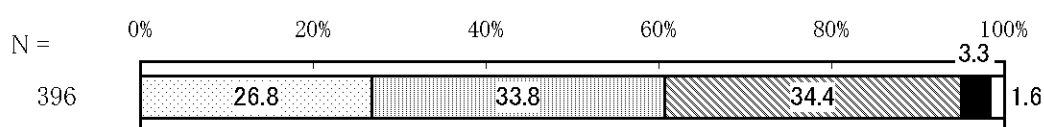
問 8 Q 4. あなた自身に介護が必要になった時に、あなたはどこで介護を受けたいですか。
 <○は 1 つ>

介護が必要になった場合の介護を受けたい場所については、「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」が 35.7%で最も高く、次いで「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が 30.0%、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が 26.8%となっています。

前回調査と比較すると、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が 7.0 ポイント減少しています。



【前回調査（平成 25 年）】

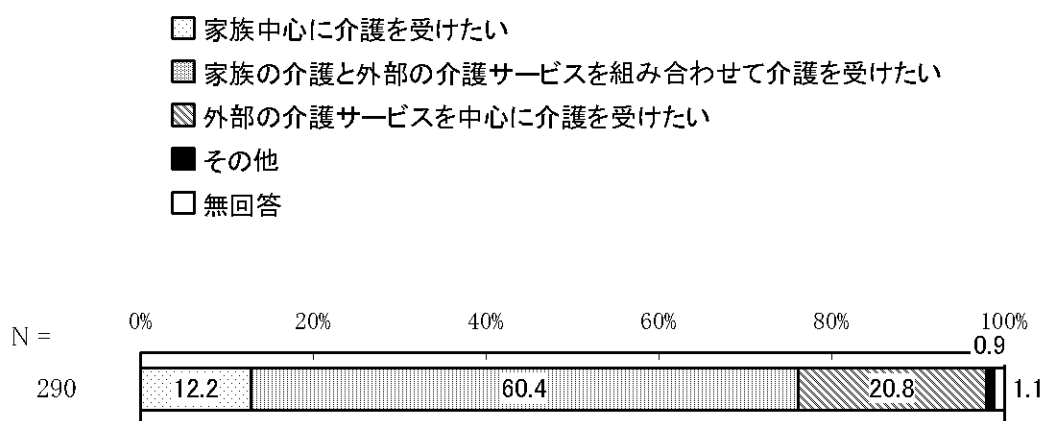


（６）希望する介護形態

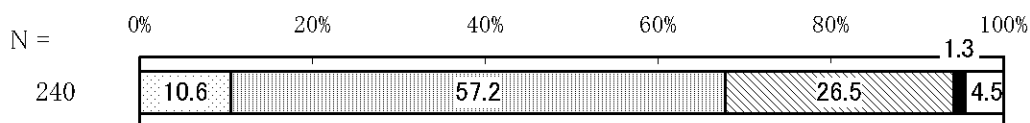
問８Ｑ４－１．Ｑ４で「１．できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」又は「２．できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」と回答した方にお聞きします。どのような介護を希望しますか。＜○は１つ＞

できるだけ自宅で介護を受けたいと回答した人に、希望する介護形態についてたずねたところ、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が60.4%で最も高く、次いで「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が20.8%、「家族中心に介護を受けたい」が12.2%となっています。

前回調査と比較すると、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が5.7ポイント減少しています。



【前回調査（平成25年）】

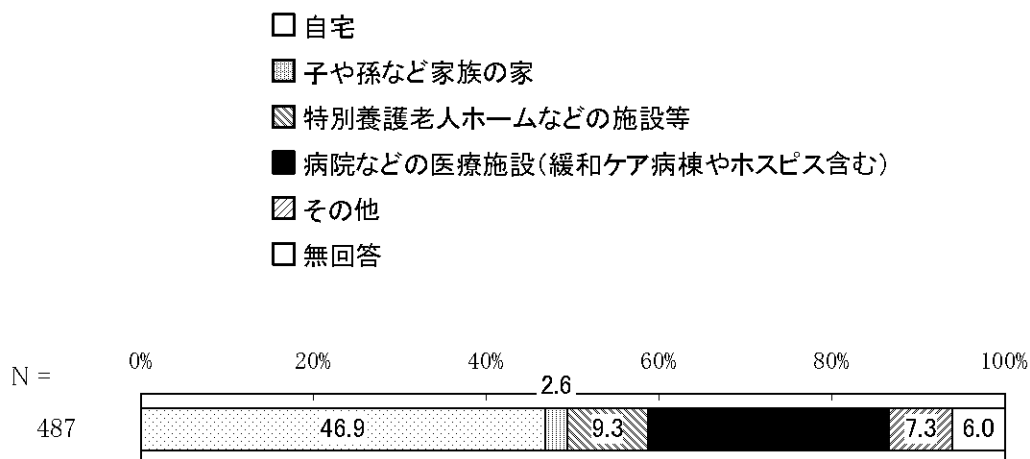


（７）終末を迎えたい場所

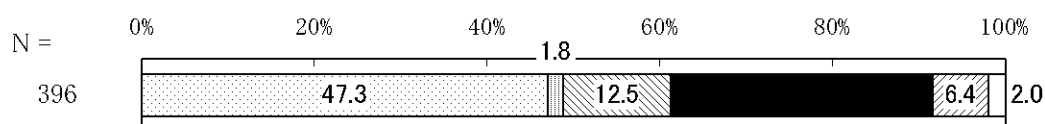
問８Ｑ５．あなたは、どこで人生の終末を迎えたいですか。＜○は１つ＞

終末を迎えたい場所については、「自宅」が 46.9%で最も高く、次いで「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピス含む）」が 27.9%、「特別養護老人ホームなどの施設等」が 9.3%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【前回調査（平成 25 年）】



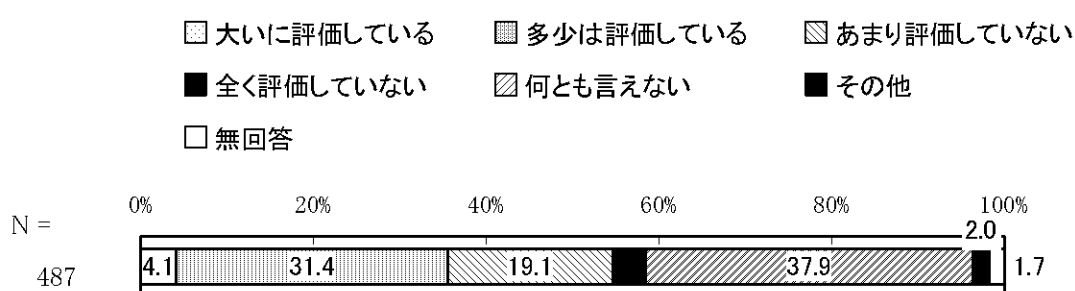
10 介護保険制度について

(1) 介護保険制度に対する評価

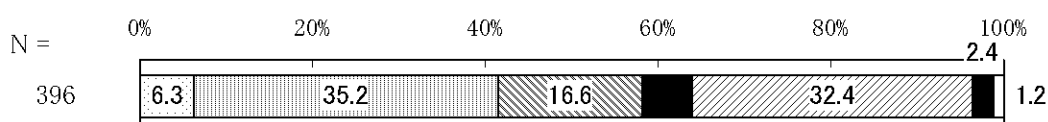
問9 Q1. あなたの介護保険制度への評価として、御自身の考えに近いものは次のどれですか。＜○は1つ＞

介護保険制度に対する評価については、「何とも言えない」が37.9%で最も高く、次いで「多少は評価している」が31.4%、「あまり評価していない」が19.1%となっています。「大いに評価している」と「多少は評価している」を合わせた“評価している”の割合は35.5%、「あまり評価していない」と「全く評価していない」を合わせた“評価していない”の割合は22.9%となっています。

前回調査と比較すると、「何とも言えない」が5.5ポイント増加しています。



【前回調査（平成25年）】

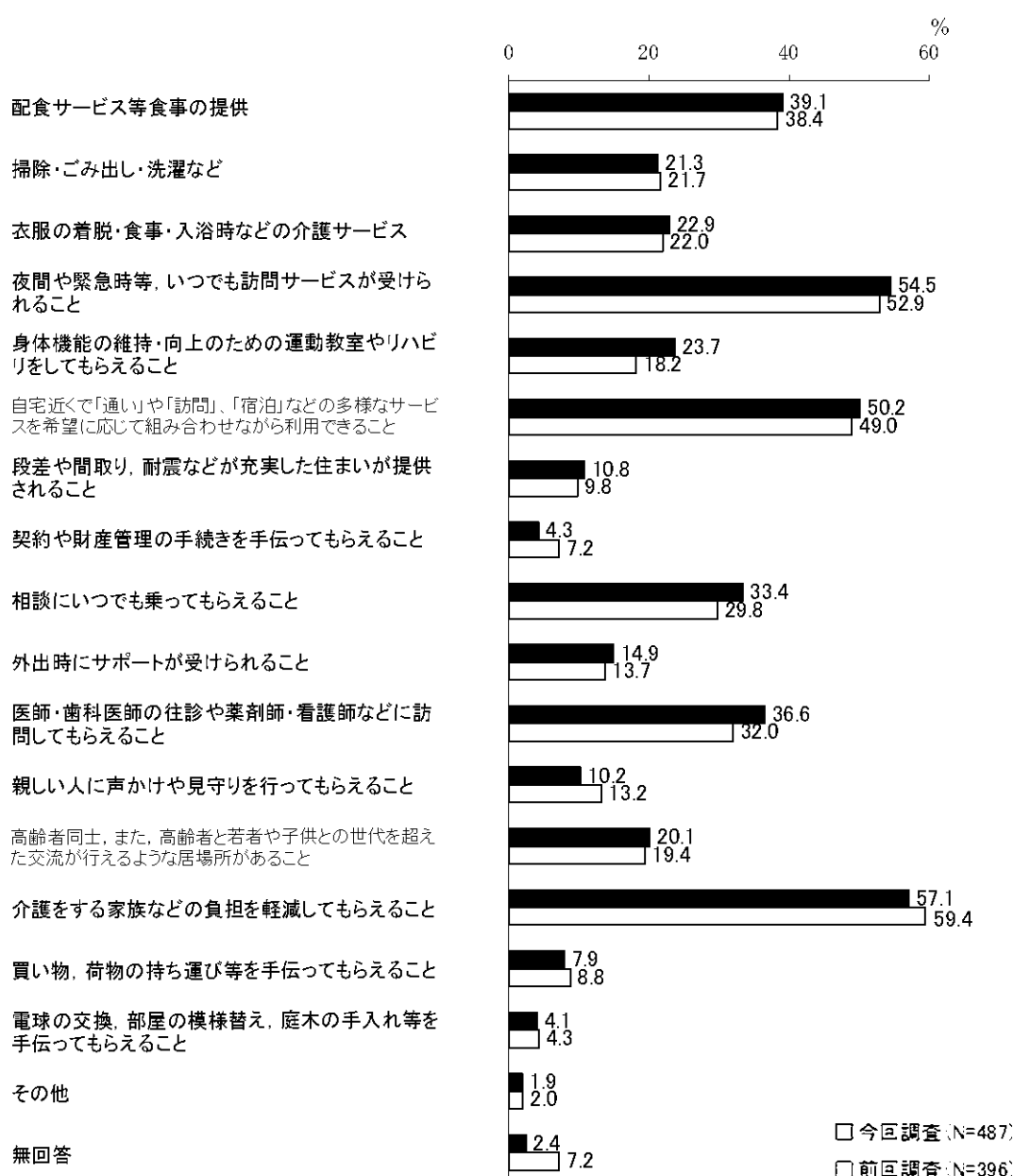


(2) 住み慣れた地域での継続生活で充実すべき支援

問9 Q2. あなたは高齢期になって、住み慣れた地域で生活をするには、どのような支援を充実すべきだと思いますか。＜○は5つまで＞

住み慣れた地域での継続生活のために充実すべき支援については、「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が57.1%で最も高く、次いで「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が54.5%、「自宅近くで「通い」や「訪問」「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること」が50.2%となっています。

前回調査と比較すると、「身体機能の維持・向上のための運動教室やリハビリをしてもらえること」が5.5ポイント増加しています。



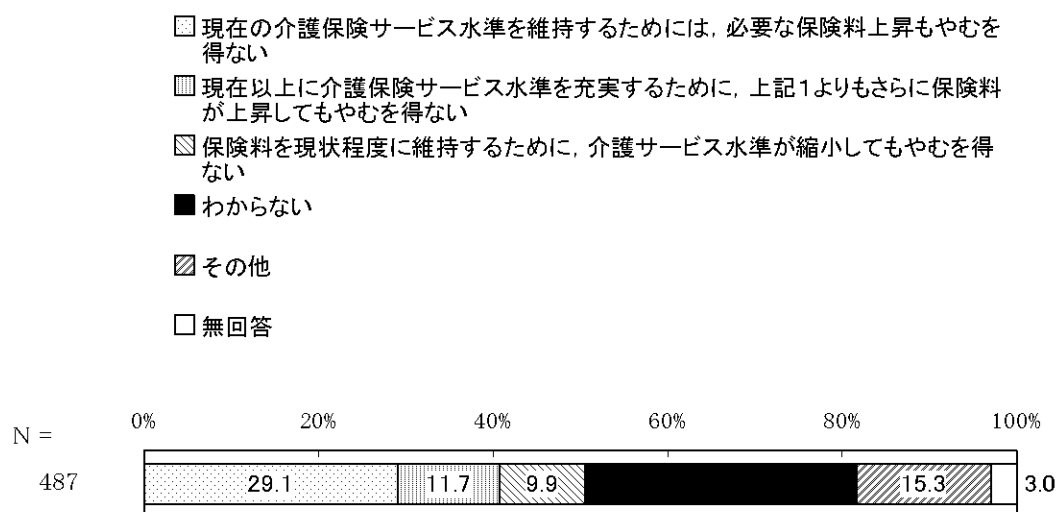
(3) 介護保険料と介護サービスの在り方に関する考え方

問9 Q3. 介護保険料は、介護サービス等の利用に必要な費用を基に算定しています。一人当たりが使う介護サービスが同じであっても、介護サービスを利用する高齢者数が増加すると、介護保険事業全体の総費用は増加し、保険料が上昇することとなります。あなたは、今後の介護保険料と介護サービスのあり方について、御自身の考え方に近いものは次のどれですか。〈〇は1つ〉

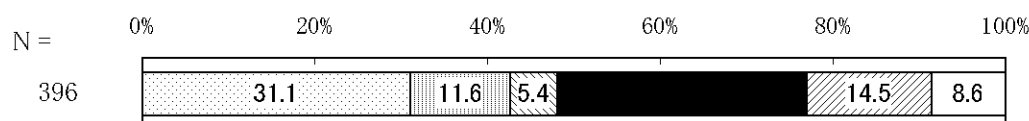
介護保険料と介護サービスの在り方に関する考え方については、「わからない」が31.1%で最も高く、次いで「現在の介護保険サービス水準を維持するためには、必要な保険料上昇もやむを得ない」が29.1%、「現在以上に介護保険サービス水準を充実するために、上記よりもさらに保険料が上昇してもやむを得ない」が11.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。

介護保険制度に対する評価別でみると、「大いに評価している」と「多少は評価している」は、「現在の介護保険サービス水準を維持するためには、必要な保険料上昇もやむを得ない」で40%以上と高くなっています。



【前回調査（平成25年）】



【介護保険制度に対する評価別】

- 現在の介護保険サービス水準を維持するためには、必要な保険料上昇もやむを得ない
- 現在以上に介護保険サービス水準を充実するために、上記1よりもさらに保険料が上昇してもやむを得ない
- 保険料を現状程度に維持するために、介護サービス水準が縮小してもやむを得ない
- わからない
- その他
- 無回答

